

| | | | |
|---------|----------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 児童学概論 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、横井 紘子、上垣内 伸子、長田 瑞恵 他 | | |
| ナンバリング | KAa101 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学科専門科目であり、幼児教育学科の学位授与方針の1,2,3に該当する。

入学後初めに学習する基礎科目であり、これから4年間の幼児教育学科での学習の領域を概観するような内容となっている。学科専任教員各自の専門領域や研究内容を知るといった性格も持っている。

科目の概要

児童学への入口となるオムニバス形式の科目である。本年度は、『子どもと未来』というテーマのもとに、本学幼児教育学科専任教員が各自の専門的観点から「子どもと未来」について講義し、学びの対象となる子どもへの興味関心を喚起する。

学修目標（＝到達目標）

- ・これまで持ってきたであろう一般的な「子ども」のイメージを一度突き崩して、多面的に子どもについて探究する。
- ・「子ども」という窓から、世の中の枠組み、身の回りの人間関係・出来事などについて見つめ直す。
- ・各講義担当者の講義内容について各自が作成した「講義ノート」が主要テキストとなるので、授業の内容を把握し、ノートに記載する。
- ・授業への参加、課題への取り組み、講義ノートの作成などを通して、大学で講義を受けるための基本的なスキルを身につける。

内容

この授業は幼児教育学科に所属する教員全員が担当し、それぞれの専門分野から、その年のテーマに沿って子どもをどう捉えるかについて講義する授業である。

| | |
|----|---------------------------|
| 1 | 二宮；科目の目的や趣旨、内容、各教員の専門等の説明 |
| 2 | 上垣内；持続可能な開発のための教育（ESD） |
| 3 | 潮谷；子どもの生活を支える環境・支援 |
| 4 | 長田；子どもの心から見た世界 |
| 5 | 向井；子どもの主体性が創る環境・親子関係の構築 |
| 6 | 曾野；子どもと環境（仮） |
| 7 | 加藤；地域社会が親子を支援する |
| 8 | 鈴木康；子どもの身体活動と社会 |
| 9 | 藪崎；子どもをとりまく音環境について |
| 10 | 宮野；多様な表現を支える環境 |
| 11 | 横井；子どもの遊びと環境 |
| 12 | 桶田；子どもと環境（仮） |
| 13 | 権；子どもの発達を支える地域の子育て環境 |
| 14 | 山田；子どもの遊びと環境構成 |
| 15 | 二宮：まとめ |

評価

授業への参加度（50点）、試験（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

【フィードバック】必要に応じて課題を返却することがある。

授業外学習

【事前予習】日常生活の中で子どもの姿を観察する。仲間と観察で感じたことを話し合い、体験を共有する。（1時間程度）

【事後学修】授業ノートの整理を行い、読み返す。それぞれの専門性についてノートにまとめる。（1時間程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各担当教員が講義の中で、参考図書の紹介や資料の配布を行う予定です。

| | | | |
|---------|-----------------------------|---------|-----|
| 科目名 | 児童学演習 | | |
| 担当教員名 | 近藤 有紀子、上垣内 伸子、長田 瑞恵、横井 紘子 他 | | |
| ナンバリング | KAa102 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。本科目は卒業必修科目である。

実習を通じ、乳幼児とのかかわりを持ちながら学習を進める。実習という体験学習を通して、自ら関わり子どもから学ぶ姿勢を確立する。更に、本学が立地する埼玉県新座市について学ぶ機会とする。

科目の概要

本学が立地する新座市において、子どもが育つ保育所、幼稚園等に出かけ、現代社会での保育・育児および子どもの生活の実態を知り、地域についても学修する。実習の事前・事後指導において、他の専門科目を通じた学び等を踏まえ、保育に関する現代的課題についても探求する。自ら関わりつつ子どもから学ぶ姿勢を獲得し、保育者として必要な知識・技能を修得し今後の実習へつなげる。

学修目標

1. 実習を通して、保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。
2. 保育に関する現代的課題についての分析、考察、検討を行う。
3. 実習の事前・事後指導を通して、自らかかわる構えを習得し、子どもから学ぶ姿勢を体得する。
更に、問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。
4. 自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を修得し、地域社会についても主体的に学ぶ。

内容

新座市内および周辺地域の、さまざまな保育の場へ赴き実習という体験学習をする。具体的には、就学前の子どもの日中の保育の場である幼稚園および保育所などの、保育と育児に関連する場での実習を行う。

実習の前後には、事前学習、事後の報告発表や話し合いの時間を持ち、子どもと子育てを取り巻く社会状況の理解および子ども理解を深める一助とする。さらに、実習の事前・事後学習を通して、課題などを発見し、その課題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を修得する。

主な実習先は、幼稚園、保育所、その他の児童厚生施設である。

評価

授業及び話し合いへの参加状況と実習への参加（50%）、実習記録の期日内提出とその内容および授業課題への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】「実習の手引き」を読んでおく。授業資料は、事前にWEB - UPするので基本事項を確認しておく。体験学習後の振り返りで仲間の記録を読む。これらを1時間程度行う。

【事後学修】授業資料は繰り返し読み、把握、理解する。体験学習、振り返りで得た学びを整理し、課題を明確にする。こ

れらを1時間程度行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

大豆生田啓友・三谷大紀編「最新保育資料集」(2019) ミネルヴァ書房

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童学研究法 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAa303 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 . に対応しており、卒業必修科目である。観察法・面接法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究法について学ぶ。同時に、文献の探し方や文献講読・レジユメの作成方法についても学ぶ。

科目の概要

それぞれの研究法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて先行研究の探し方や文献の読み方の基礎についても学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・文献検索の方法、文献講読とレジユメのまとめ方について理解する。
- ・授業で解説されるそれぞれの研究法の概要について理解する。
- ・それぞれの研究法を用いながら実際に自分自身の手でデータを収集し、分析し、レポートにまとめる。
- ・どのような研究テーマにはどのような研究方法が適切か考える。

内容

まず、児童学の研究法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、研究法が利用可能かを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、各研究法についての理解を深める。さらに、文献検索や文献講読のやり方、レジユメのまとめ方を学ぶ。各回の授業の最後にはリアクションペーパーにその日の学びの振り返りや、出された課題への各自の意見を記入する。リアクションペーパーで多かった疑問や意見には、授業内で教員がコメントをフィードバックする。

| | |
|----|------------------------|
| 1 | 研究と常識の違い (長田) |
| 2 | 文献検索の仕方 (長田) |
| 3 | 文献の読み方・レジユメの作り方 1 (大宮) |
| 4 | 文献の読み方・レジユメの作り方 2 (大宮) |
| 5 | 文献の読み方・レジユメの作り方 3 (大宮) |
| 6 | 文献の読み方・レジユメの作り方 4 (大宮) |
| 7 | 観察法 1 (大宮) |
| 8 | 観察法 2 (大宮) |
| 9 | 面接法 (長田) |
| 10 | 実験法 (大宮) |
| 11 | 質問紙法 1 (長田) |
| 12 | 質問紙法 2 (長田) |
| 13 | 事例研究法 1 (長田) |
| 14 | 事例研究法 2 (長田) |
| 15 | まとめ (長田・大宮) |

評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

【フィードバック】 授業内のレポートについてはその都度返却する。学期末の筆記試験について合格点に満たない場合にはLiveCampusの授業連絡から該当者に連絡をし、再試験を課す。

授業外学習

【事前予習】 授業中に指示した文献をよく読み、指定された課題を行うこと。約1時間から1時間半。

【事後学修】 授業内容をよく復習し、理解しておくこと。学生自ら主体的に取り組むような課題を指定するので、それに取り組むこと。約1時間から1時間半。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 なし。授業中にプリントを配布する。

【推薦書】 大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

松原達哉 『心理テスト法入門第4版＜基礎知識と技術習得のために＞』 日本文化科学社

保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

【参考書】 山田剛史・林創 『大学生のためのリサーチリテラシー入門』 ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童学研究法 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAa303 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 . に対応しており、卒業必修科目である。観察法・面接法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究法について学ぶ。同時に、文献の探し方や文献講読・レジユメの作成方法についても学ぶ。

科目の概要

それぞれの研究法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて先行研究の探し方や文献の読み方の基礎についても学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・文献検索の方法、文献講読とレジユメのまとめ方について理解する。
- ・授業で解説されるそれぞれの研究法の概要について理解する。
- ・それぞれの研究法を用いながら実際に自分自身の手でデータを収集し、分析し、レポートにまとめる。
- ・どのような研究テーマにはどのような研究方法が適切か考える。

内容

まず、児童学の研究法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、研究法が利用可能かを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、各研究法についての理解を深める。さらに、文献検索や文献講読のやり方、レジユメのまとめ方を学ぶ。各回の授業の最後にはリアクションペーパーにその日の学びの振り返りや、出された課題への各自の意見を記入する。リアクションペーパーで多かった疑問や意見には、授業内で教員がコメントをフィードバックする。

| | |
|----|------------------------|
| 1 | 研究と常識の違い (長田) |
| 2 | 文献検索の仕方 (長田) |
| 3 | 文献の読み方・レジユメの作り方 1 (大宮) |
| 4 | 文献の読み方・レジユメの作り方 2 (大宮) |
| 5 | 文献の読み方・レジユメの作り方 3 (大宮) |
| 6 | 文献の読み方・レジユメの作り方 4 (大宮) |
| 7 | 観察法 1 (大宮) |
| 8 | 観察法 2 (大宮) |
| 9 | 面接法 (長田) |
| 10 | 実験法 (大宮) |
| 11 | 質問紙法 1 (長田) |
| 12 | 質問紙法 2 (長田) |
| 13 | 事例研究法 1 (長田) |
| 14 | 事例研究法 2 (長田) |
| 15 | まとめ (長田・大宮) |

評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

【フィードバック】 授業内のレポートについてはその都度返却する。学期末の筆記試験について合格点に満たない場合にはLiveCampusの授業連絡から該当者に連絡をし、再試験を課す。

授業外学習

【事前予習】 授業中に指示した文献をよく読み、指定された課題を行うこと。約1時間から1時間半。

【事後学修】 授業内容をよく復習し、理解しておくこと。学生自ら主体的に取り組むような課題を指定するので、それに取り組むこと。約1時間から1時間半。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 なし。授業中にプリントを配布する。

【推薦書】 大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

松原達哉 『心理テスト法入門第4版〈基礎知識と技術習得のために〉』 日本文化科学社

保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

【参考書】 山田剛史・林創 『大学生のためのリサーチリテラシー入門』 ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|---------------------------|---------|-----|
| 科目名 | 幼児教育基礎実習 | | |
| 担当教員名 | 横井 紘子、上垣内 伸子、山田 陽子、桶田 ゆかり | | |
| ナンバリング | KAa204 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園において参加観察実習を行う。幼児教育学科の必修科目である。幼児教育学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。

本学附属幼稚園を含む15園程度の幼稚園に分かれ、隔週で週1回の実習を行う。実習の翌週は、実習レポートを基に、「幼児教育基礎演習」において話し合いをもち、次回の実習へとつなげていく。春休みには4日間連続の実習を行い、3年次から始まる幼稚園教諭および保育士資格取得のための実習へのスムーズな移行を目指し、保育者として適切な思考や判断を実習の中で試みる。

「子どもから学ぶ、子どもとともに育つ」という基本姿勢を持ち、保育の中で幼児と実際に関わり、一人一人の子どもの心理、人間関係、状況に即応して判断し行動していくことを通して、保育者に求められる感性を磨き、子ども理解および保育者を目指す存在としての自己理解を深めていくことを目的とする。

内容

1. 隔週での幼稚園参加観察実習

子どもの主体的活動を中心とした保育を展開し、本学科教員と保育実践の共同研究等を行ってきている幼稚園10 数園に数人ずつに分かれて配属され、隔週で週1回、登園前から降園後まで1日の実習を3日行う。

実習翌日までにレポートを作成して提出し、翌週には各自のレポートを基に行う演習に参加する。

2. 幼稚園連続実習

後期の授業終了後に4日間の連続実習を行う。これまで実習していたクラスで4日間連続の実習を行い、子どもの遊びや友だち関係、内面を生活の連続性の中で理解していくことを目指す。

実習後にレポートを作成して提出し、総括の話し合いをもつ。

実習につき、15回の授業ではなく、集中となる。

第4週頃：1日：幼稚園にて学外オリエンテーション / 保育見学・保育参加

第5～11週頃：3日：幼稚園にて隔週の実習（登園から降園まで1日）

春休み中：4日：幼稚園にて4日間連続の実習

合計約60時間の幼稚園での実習となる。

評価

1. すべての実習への参加と、実習日誌の期限内提出を、単位取得の必要条件とする。

2. 実習参加状況、日誌の提出状況、実習態度・意欲を6:2:2の比率で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートは、翌週の授業時に毎回講評を伝え、次の実習に向けて課題を整理できるようにしている。

授業外学習

【事前予習】幼児教育基礎演習における事前・事後指導の内容にもとづき、実習にむけてあらゆる準備を十分に行うとともに、体調管理に努めること。準備には1時間程度の時間が必要となる。

【事後学修】実習後に定められた形式で確実にレポートを提出すること。レポート作成には2時間程度の時間が必要となる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

| | | | |
|---------|---------------------------|---------|-----|
| 科目名 | 幼児教育基礎演習 | | |
| 担当教員名 | 横井 紘子、上垣内 伸子、山田 陽子、桶田 ゆかり | | |
| ナンバリング | KAa205 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園での参加観察実習を行う「幼児教育基礎実習」の事前事後指導という位置づけで、実習事前事後指導と、実習の翌週に、20人規模での話し合いの演習を行う。幼児教育学科の必修科目である。幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

自らの保育実践をレポートにし、省察する中で、自分自身の関わりのあり方や子どもの内的世界に対する理解を深め、子ども理解と自らの保育行為とのつながりの実際を追体験し確認していくための授業である。

自分たちの保育記録を基に、少人数でじっくり話し合い、自分の考えを適切に表現し合うことを通して、それぞれが保育における自己課題を見だし、互いに啓発しあい支え合いながら、保育者としての資質をのばしていくことを目指す。

内容

1. オリエンテーション / 事前指導

実習の目的・内容等についての学内での事前指導および、実習園での園長・主任・担任による実習のオリエンテーションを受ける。

2. 隔週での幼稚園参加観察実習後の話し合い

実習の翌週は、各自の保育記録を基に、約20人のグループに分かれて、自分たちの保育実践の中からテーマをあげて話し合う。

確実な保育記録レポート提出と、活発な話し合いへの参加が望まれる。

3. 幼稚園連続実習の事前事後指導

隔週での幼稚園実習で学んだことを確認し、新たな自己課題を設定し、連続実習に向けての準備を行う。

実習後は、各自の保育記録を基に、4日間の中での自分の保育者としての成長を確認し、新たに見いだした保育課題などについての話し合いを行い、実習を総括する。

評価

授業への参加状況、話し合いへの参加状況、日誌の内容を6:2:2の比率で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習前後には必要に応じて個別に面談を行い、実習に向けて課題を整理できるようにしている。

授業外学習

【事前予習】1年次に配布されている実習の手引きを読んでおくこと。話し合いや事後指導前には、実習後の自分のレポートをよく読み、自己課題を意識して授業に臨むこと。30分程度必要とする。

【事後学修】基本的事項に関するプリントに繰り返し目を通し内容を把握・理解すること。話し合いの内容や仲間のレポートから、自らの保育実践を省察すること。30分程度必要とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

| | | | |
|---------|------------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育者論 | | |
| 担当教員名 | 桶田 ゆかり | | |
| ナンバリング | KAb306 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科DP1・2・3に該当する。

本科目は、学科専門科目における必修である。カリキュラム・ポリシー「保育と教育」の1にある基礎的な知識・資質の習得として、幼稚園教育要領等の改訂の背景を理解しつつ、保育者の仕事、役割と倫理、職務内容、制度、専門性や同僚性について理解し、自己課題を探究する力を育むことを目的とする。

科目の概要

保育実践の事例、視聴覚資料などを通して、保育という仕事、保育者について具体的なイメージをもち、保育者としての在り方を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 保育者とはどういう存在なのかを理解する。
2. 幼稚園教育要領等の改訂を受け、保育者に今求められていることを理解する。
3. 将来の自分についてイメージし、具体的に考える。

内容

この授業は講義を中心に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

- 第1回 オリエンテーション 授業の概要
- 第2回 保育とは・保育者とは 保育の基本
- 第3回 保育の歴史 幼稚園教育要領等の改訂の意図
- 第4回 保育所・こども園の1日 保育士・保育教諭の仕事、専門性
- 第5回 幼稚園の1日 幼稚園教諭の仕事、専門性
- 第6回 保育者の権利と義務 専門性・資質の向上
- 第7回 保育現場における協同性・同僚性
- 第8回 子どもの命を守る 安全管理と安全指導
- 第9回 子どもの権利を守る 最善の利益の保障
- 第10回 子ども理解と保育実践
- 第11回 保育実践と記録 明日につなげる保育の振り返り
- 第12回 地域の中の園 地域の幼児期の教育のセンターとしての役割
- 第13回 地域の中の園 保幼小の連携・接続
- 第14回 環境を通じた教育・保育とは
- 第15回 まとめ

評価

授業への参加度（50％）、提出課題及びレポート（50％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、授業の最初に前回授業の質疑に答え、学習理解が深まるようにする。また、提出された課題やレポートは、コメントを記載して翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、知りたいことや疑問を含め、まとめておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】事前準備で自分がまとめたものを修正・加筆する。さらに、興味をもった事柄について調べ、まとめておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説 フレーベル館

内閣府/文部科学省/厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

| | | | |
|---------|------------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育者論 | | |
| 担当教員名 | 桶田 ゆかり | | |
| ナンバリング | KAb306 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科 D P 1 ・ 2 ・ 3 に該当する。

本科目は、学科専門科目における必修である。カリキュラム・ポリシー「保育と教育」の1にある基礎的な知識・資質の習得として、幼稚園教育要領等の改訂の背景を理解しつつ、保育者の仕事、役割と倫理、職務内容、制度、専門性や同僚性について理解し、自己課題を探究する力を育むことを目的とする。

科目の概要

保育実践の事例、視聴覚資料などを通して、保育という仕事、保育者について具体的なイメージをもち、保育者としての在り方を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 保育者とはどういう存在なのかを理解する。
2. 幼稚園教育要領等の改訂を受け、保育者に今求められていることを理解する。
3. 将来の自分についてイメージし、具体的に考える。

内容

この授業は講義を中心に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

- 第1回 オリエンテーション 授業の概要
- 第2回 保育とは・保育者とは 保育の基本
- 第3回 保育の歴史 幼稚園教育要領等の改訂の意図
- 第4回 保育所・こども園の1日 保育士・保育教諭の仕事、専門性
- 第5回 幼稚園の1日 幼稚園教諭の仕事、専門性
- 第6回 保育者の権利と義務 専門性・資質の向上
- 第7回 保育現場における協同性・同僚性
- 第8回 子どもの命を守る 安全管理と安全指導
- 第9回 子どもの権利を守る 最善の利益の保障
- 第10回 子ども理解と保育実践
- 第11回 保育実践と記録 明日につなげる保育の振り返り
- 第12回 地域の中の園 地域の幼児期の教育のセンターとしての役割
- 第13回 地域の中の園 保幼小の連携・接続
- 第14回 環境を通じた教育・保育とは
- 第15回 まとめ

評価

授業への参加度（50％）、提出課題及びレポート（50％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、授業の最初に前回授業の質疑に答え、学習理解が深まるようにする。また、提出された課題やレポートは、コメントを記載して翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、知りたいことや疑問を含め、まとめておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】事前準備で自分がまとめたものを修正・加筆する。さらに、興味をもった事柄について調べ、まとめておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説 フレーベル館

内閣府/文部科学省/厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 幼児教育学 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | KAb107 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1,3に該当する。

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目として位置付けられている。幼児教育・保育全体を示す概論であり、これから学習していく学科専門科目すべての基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得する科目である。幼児教育・保育の歴史と思想、保育方法の概略、乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

学修目標

- ・ 幼児教育・保育の基本的理解を目的とする。
- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・ 保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

内容

この授業は、講義を基本とするが、保育実践の映像を活用したり、ディスカッションを取り入れながら保育理解を深めていく。

平行して履修する「児童学演習」での実習体験を生かし、自らの保育実践や子ども理解を省察しながら学びを深めていく。

| | |
|----|---|
| 1 | 保育とは何か |
| 2 | 保育の歴史 近代前の子ども観 |
| 3 | 西洋の幼児教育・保育の歴史と思想、近現代までの変遷と現在の課題 |
| 4 | 日本の幼児教育・保育の歴史と思想、近現代までの変遷、社会状況の変化と現在 |
| 5 | 日本の保育思想、保育理念の源泉としての倉橋惣三の保育論 |
| 6 | 乳幼児の生活と発達、遊びの意義 |
| 7 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の制度的位置づけと成立、変遷 |
| 8 | 保幼児教育・保育の目的と目標、保育のねらいと内容 |
| 9 | 保育の環境 (環境を通しての教育・保育、アフォーダンスとしての環境) |
| 10 | 保育方法の原理、保育活動と保育形態 |
| 11 | 保育指導計画と保育・教育課程、全体的な計画 (防災、保健、食育などを含む) |
| 12 | 保育者の役割と保育実践 |
| 13 | 家庭・地域との連携、子育て支援、社会的資源としての幼稚園、保育所、こども園 |
| 14 | 世界の保育・幼児教育 |

評価

授業への参加態度や発言（10%）、学期内の小レポート・小テスト（20%）、学期末試験（70%）により評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

【フィードバック】毎回の授業課題のリアクションペーパーへの記入を求め、それへのコメントを戻す。レポートも同様。テストは事後に解説を行う。

授業外学習

【事前予習】前週に指示したテキストの指定箇所を読んで質問事項を整理しておく（1時間程度）。普段から、子どもと保育に関する新聞などのメディアからの発信にアンテナを立て、目を通しておくこと

【事後学修】授業内に配布した資料やテキストをもとに、ノートをまとめ、その週の学習内容を確認しておくこと(1時間程度)。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吾田富士子（編）「これからの保育と教育 未来を見すえた人間形成」八千代出版

その他に、「児童学演習」で用いるテキストを使用する。（最新保育資料集2019, ミネルヴァ書房等）

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 幼児教育学 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | KAb107 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* ,選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1,3に該当する。

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目として位置付けられている。幼児教育・保育全体を示す概論であり、これから学習していく学科専門科目すべての基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得する科目である。幼児教育・保育の歴史と思想、保育方法の概略、乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

学修目標

- ・ 幼児教育・保育の基本的理解を目的とする。
- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・ 保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

内容

この授業は、講義を基本とするが、保育実践の映像を活用したり、ディスカッションを取り入れながら保育理解を深めていく。

平行して履修する「児童学演習」での実習体験を生かし、自らの保育実践や子ども理解を省察しながら学びを深めていく。

| | |
|----|---|
| 1 | 保育とは何か |
| 2 | 保育の歴史 近代前の子ども観 |
| 3 | 西洋の幼児教育・保育の歴史と思想、近現代までの変遷と現在の課題 |
| 4 | 日本の幼児教育・保育の歴史と思想、近現代までの変遷、社会状況の変化と現在 |
| 5 | 日本の保育思想、保育理念の源泉としての倉橋惣三の保育論 |
| 6 | 乳幼児の生活と発達、遊びの意義 |
| 7 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の制度的位置づけと成立、変遷 |
| 8 | 保幼児教育・保育の目的と目標、保育のねらいと内容 |
| 9 | 保育の環境（環境を通しての教育・保育、アフォーダンスとしての環境） |
| 10 | 保育方法の原理、保育活動と保育形態 |
| 11 | 保育指導計画と保育・教育課程、全体的な計画（防災、保健、食育などを含む） |
| 12 | 保育者の役割と保育実践 |
| 13 | 家庭・地域との連携、子育て支援、社会的資源としての幼稚園、保育所、こども園 |
| 14 | 世界の保育・幼児教育 |

評価

授業への参加態度や発言（10%）、学期内の小レポート・小テスト（20%）、学期末試験（70%）により評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

【フィードバック】毎回の授業課題のリアクションペーパーへの記入を求め、それへのコメントを戻す。レポートも同様。テストは事後に解説を行う。

授業外学習

【事前予習】前週に指示したテキストの指定箇所を読んで質問事項を整理しておく（1時間程度）。普段から、子どもと保育に関する新聞などのメディアからの発信にアンテナを立て、目を通しておくこと

【事後学修】授業内に配布した資料やテキストをもとに、ノートをまとめ、その週の学習内容を確認しておくこと(1時間程度)。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吾田富士子（編）「これからの保育と教育 未来を見すえた人間形成」八千代出版

その他に、「児童学演習」で用いるテキストを使用する。（最新保育資料集2019, ミネルヴァ書房等）

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-----|
| 科目名 | 教育学 | | |
| 担当教員名 | 狩野 浩二 | | |
| ナンバリング | KAb108 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科のディプロマポリシーの1と2を含む科目である。

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に掲げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義及び、保育士資格の「保育の本質・目的に関する科目」の「教育原理」を含む講義を行います。これから4年間にわたって教職科目や保育士科目を受講していくもっとも最初の時期に「教育・保育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。

先生になるために最小限必要となる教育の歴史や理論に関する基礎を勉強することになります。講義では「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目に従って取り上げます。

教育の基礎理論に関して理解を深めること、仲間とともに課題を設定し、討論し合いながら研究を深めること、自己の見解を整理し、深め、発表することができること、をめあてとします。

内容

アクティブラーニングの取り組みとして、学生による省察活動、リアクションペーパーの作成、相互評価、討論を導入する。

- 第1回：「教育とは何か（第1章）」
- 第2回：「学校とは何か（1）（第2章）」
- 第3回：「学校とは何か（2）（第3章）」
- 第4回：「こころとからだを育てる（第4章）」
- 第5回：「よりよく学び、教えるために（第5章）」
- 第6回：「教育評価とは何か（第6章）」
- 第7回：「授業の可能性・学校の可能性（第7章）」
- 第8回：「教師の仕事（第8章）」
- 第9回：「青年期と教育（第9章）」
- 第10回：「社会教育と生涯学習（第10章）」
- 第11回：「教育への権利と『子どもの権利条約』（第11章）」
- 第12回：「よりよい教育を求めて（第12章）」
- 第13回：映像で学ぶ教育学「我が谷は緑なりき」（イギリス産業革命期の少年労働）
- 第14回：映像で学ぶ教育学「芽を吹く子ども」（斎藤喜博と島小の学校づくり）
- 第15回：まとめ

評価

各回毎の学修票作成(合計80点)とその内容(合計20点)を総合して、60点以上を合格点とし、単位を認定します。

【フィードバック】各授業ごとに学修票を作成し、提出された学修票について、次回の授業でコメントする。

授業外学習

【事前予習】テキストを読み、“教育とは何か”という問いへの仮説を持ち、疑問点を整理し、その内容をメモして講義に臨みます(各授業に対して60分)。

【事後学修】講義内容を振り返り、テキストを再読することで、“教育とは何か”について考察をふかめます(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【使用テキスト(教科書)】田嶋一、福田須美子、中野新之祐、狩野浩二『やさしい教育原理(第3版)』有斐閣アルマ

【推薦書】ルソー『エミール(改版)上』岩波文庫、シング『狼に育てられた子』福村出版

【参考図書】留岡清男『教育農場50年』岩波書店、谷昌恒『ひとむれ』評論社

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育制度・保育政策論 | | |
| 担当教員名 | 近藤 有紀子、町山 太郎 | | |
| ナンバリング | KAb209 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は、幼稚園教諭免許状取得に係る必修科目であり、保育士資格取得に係る選択必修科目である。保育制度・政策の内容を時代背景とともに学び、他の学科専門科目の学修へつなげる必要な知識を身につけることを目的とする。

科目の概要

保育制度の成立の経緯、歴史的変遷、現在の保育制度の動きを社会的要請と保育観とともに学ぶ。

また、近年の保育制度・政策を包括的に理解し、具体的な保育と関連づけながら総合的に考察する。

学修目標（＝到達目標）

- 1 保育制度のしくみを社会的背景とともに理解する。
- 2 保育制度・政策の動向を解釈し、近年の幼児教育における課題を理解する。
- 3 近年の教育施策について、具体的な保育と関連づけて考えることができる。

内容

この授業は講義を中心に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

| | |
|----|------------------------|
| 1 | 近年の保育制度のしくみについて（近藤） |
| 2 | 幼児教育の歴史的変遷 幼稚園・保育所（近藤） |
| 3 | 幼児教育の歴史的変遷 認定こども園（町山） |
| 4 | 子ども・子育て支援新制度（町山） |
| 5 | 保育者としての研修制度（近藤） |
| 6 | 保育制度の改正（近藤） |
| 7 | 保育制度の改正（町山） |
| 8 | 関係法令について（町山） |
| 9 | 保育現場の具体的方策（町山） |
| 10 | 保育政策の根拠となる研究と展望（町山） |
| 11 | 日本の保育制度・保育政策について（町山） |
| 12 | 海外の保育制度・保育政策について（近藤） |
| 13 | 海外の保育制度・保育政策について（近藤） |
| 14 | 保育者としての研修制度（近藤） |
| 15 | まとめ（近藤） |

評価

授業への取り組み30%、課題提出40%、筆記試験の達成度30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

授業外学習

【事前準備】授業に関連して提示する課題についての資料検索(毎回の授業に対して60分以上)

【事後学修】授業内容の整理・まとめ・課題レポート作成(毎回の授業に対して60分以上)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布する

【推薦書】授業内で紹介する

【参考図書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月)フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」(平成30年3月)フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

(平成30年3月)フレーベル館

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育制度・保育政策論 | | |
| 担当教員名 | 近藤 有紀子、町山 太郎 | | |
| ナンバリング | KAb209 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は、幼稚園教諭免許状取得に係る必修科目であり、保育士資格取得に係る選択必修科目である。保育制度・政策の内容を時代背景とともに学び、他の学科専門科目の学修へつなげる必要な知識を身につけることを目的とする。

科目の概要

保育制度の成立の経緯、歴史的変遷、現在の保育制度の動きを社会的要請と保育観とともに学ぶ。

また、近年の保育制度・政策を包括的に理解し、具体的な保育と関連づけながら総合的に考察する。

学修目標（＝到達目標）

- 1 保育制度のしくみを社会的背景とともに理解する。
- 2 保育制度・政策の動向を解釈し、近年の幼児教育における課題を理解する。
- 3 近年の教育施策について、具体的な保育と関連づけて考えることができる。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

| | |
|----|------------------------|
| 1 | 近年の保育制度のしくみについて（近藤） |
| 2 | 幼児教育の歴史的変遷 幼稚園・保育所（近藤） |
| 3 | 幼児教育の歴史的変遷 認定こども園（町山） |
| 4 | 子ども・子育て支援新制度（町山） |
| 5 | 保育者としての研修制度（近藤） |
| 6 | 保育制度の改正（近藤） |
| 7 | 保育制度の改正（町山） |
| 8 | 関係法令について（町山） |
| 9 | 保育現場の具体的方策（町山） |
| 10 | 保育政策の根拠となる研究と展望（町山） |
| 11 | 日本の保育制度・保育政策について（町山） |
| 12 | 海外の保育制度・保育政策について（近藤） |
| 13 | 海外保育制度・保育政策について（近藤） |
| 14 | 保育者としての研修制度（近藤） |
| 15 | まとめ（近藤） |

評価

授業への取り組み30%、課題提出40%、筆記試験の達成度30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

授業外学習

【事前準備】授業に関連して提示する課題についての資料検索(毎回の授業に対して60分以上)

【事後学修】授業内容の整理・まとめ・課題レポート作成(毎回の授業に対して60分以上)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布する

【推薦書】授業内で紹介する

【参考図書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月)フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」(平成30年3月)フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

(平成30年3月)フレーベル館

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 障害児保育 | | |
| 担当教員名 | 山田 陽子 | | |
| ナンバリング | KAb210 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は学科専門科目（必修科目）である。幼稚園・保育所・児童発達支援事業等に在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等による、特別の支援を必要とする幼児が、集団の中において自分らしく生活する過程で、「生きる力の基礎を培う」体験を積み重ねて全体的に発達するために、保育者としての必要な知識を身に付け、子ども理解と援助の方法を学ぶ。

科目の概要

障害児保育の歴史を把握し、特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達について理解し、映像や事例によって、障害のある子どもへの具体的な理解や援助について構想する。さらに、インクルーシブ教育・保育についての知識を身に付け、全ての子どもを包み込む教育・保育の方法や援助のあり方、同僚や家族との協力関係等について深く学ぶ。

学修目標

1. 特別の支援を必要とする幼児の障害の特性、心身の発達について基礎的な知識を身に付ける
2. 人間関係や生活上の困難について理解し、特別な配慮や援助の方法を映像や事例を通して構想する
3. 障害の有無、障害の種別や程度や年齢に関係なく、どの子どもも集団の中で楽しく自分らしく伸び 伸びと過ごすための遊びや生活を構想し、一人ひとりの発達課題に即した援助の方法を理解する

内容

| | |
|----|--|
| 1 | 障害児保育とは1 子どもとはどういう存在か 障害とは何か |
| 2 | 障害児保育とは2 子どもを1個の主体として受け止めることの意義 |
| 3 | 障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助1 |
| 4 | 障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助2 |
| 5 | 障害のある子どもの理解と保育実践：視覚障害 |
| 6 | 障害のある子どもの理解と保育実践：聴覚障害 |
| 7 | 障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）1 |
| 8 | 障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）2 |
| 9 | 障害のある子どもの理解と保育実践：知的障害 |
| 10 | 障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症1 |
| 11 | 障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症2 |
| 12 | 障害のある子どもの理解と保育実践：発達障害 |
| 13 | インクルーシブ保育とは1 |
| 14 | インクルーシブ保育とは2 |
| 15 | 障害児保育の制度と変遷 |

評価

授業参加態度（30点）授業時の小レポート（20点）期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

授業外学習

【事前予習】次回の授業に関連する教科書の部分や資料を熟読し、大事なところに下線を引くなどして授業に備える。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 障害児保育 | | |
| 担当教員名 | 山田 陽子 | | |
| ナンバリング | KAb210 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は学科専門科目（必修科目）である。幼稚園・保育所・児童発達支援事業等に在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等による、特別の支援を必要とする幼児が、集団の中において自分らしく生活する過程で、「生きる力の基礎を培う」体験を積み重ねて全体的に発達するために、保育者としての必要な知識を身に付け、子ども理解と援助の方法を学ぶ。

科目の概要

障害児保育の歴史を把握し、特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達について理解し、映像や事例によって、障害のある子どもへの具体的な理解や援助について構想する。さらに、インクルーシブ教育・保育についての知識を身に付け、全ての子どもを包み込む教育・保育の方法や援助のあり方、同僚や家族との協力関係等について深く学ぶ。

学修目標

1. 特別の支援を必要とする幼児の障害の特性、心身の発達について基礎的な知識を身に付ける
2. 人間関係や生活上の困難について理解し、特別な配慮や援助の方法を映像や事例を通して構想する
3. 障害の有無、障害の種別や程度や年齢に関係なく、どの子どもも集団の中で楽しく自分らしく伸び 伸びと過ごすための遊びや生活を構想し、一人ひとりの発達課題に即した援助の方法を理解する

| 内容 | |
|----|--|
| 1 | 障害児保育とは1 子どもとはどういう存在か 障害とは何か |
| 2 | 障害児保育とは2 子どもを1個の主体として受け止めることの意義 |
| 3 | 障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助1 |
| 4 | 障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助2 |
| 5 | 障害のある子どもの理解と保育実践：視覚障害 |
| 6 | 障害のある子どもの理解と保育実践：聴覚障害 |
| 7 | 障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）1 |
| 8 | 障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）2 |
| 9 | 障害のある子どもの理解と保育実践：知的障害 |
| 10 | 障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症1 |
| 11 | 障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症2 |
| 12 | 障害のある子どもの理解と保育実践：発達障害 |
| 13 | インクルーシブ保育とは1 |
| 14 | インクルーシブ保育とは2 |
| 15 | 障害児保育の制度と変遷 |

評価

授業参加態度（30点）授業時の小レポート（20点）期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

授業外学習

【事前予習】次回の授業に関連する教科書の部分や資料を熟読し、大事なところに下線を引くなどして授業に備える。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 障害児保育 | | |
| 担当教員名 | 山田 陽子 | | |
| ナンバリング | KAb210 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 10クラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は学科専門科目（必修科目）である。幼稚園・保育所・児童発達支援事業等に在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等による、特別の支援を必要とする幼児が、集団の中において自分らしく生活する過程で、「生きる力の基礎を培う」体験を積み重ねて全体的に発達するために、保育者としての必要な知識を身に付け、子ども理解と援助の方法を学ぶ。

科目の概要

障害児保育の歴史を把握し、特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達について理解し、映像や事例によって、障害のある子どもへの具体的な理解や援助について構想する。さらに、インクルーシブ教育・保育についての知識を身に付け、全ての子どもを包み込む教育・保育の方法や援助のあり方、同僚や家族との協力関係等について深く学ぶ。

学修目標

1. 特別の支援を必要とする幼児の障害の特性、心身の発達について基礎的な知識を身に付ける
2. 人間関係や生活上の困難について理解し、特別な配慮や援助の方法を映像や事例を通して構想する
3. 障害の有無、障害の種別や程度や年齢に関係なく、どの子どもも集団の中で楽しく自分らしく伸び 伸びと過ごすための遊びや生活を構想し、一人ひとりの発達課題に即した援助の方法を理解する

内容

| | |
|----|--|
| 1 | 障害児保育とは1 子どもとはどういう存在か 障害とは何か |
| 2 | 障害児保育とは2 子どもを1個の主体として受け止めることの意義 |
| 3 | 障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助1 |
| 4 | 障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助2 |
| 5 | 障害のある子どもの理解と保育実践：視覚障害 |
| 6 | 障害のある子どもの理解と保育実践：聴覚障害 |
| 7 | 障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）1 |
| 8 | 障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）2 |
| 9 | 障害のある子どもの理解と保育実践：知的障害 |
| 10 | 障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症1 |
| 11 | 障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症2 |
| 12 | 障害のある子どもの理解と保育実践：発達障害 |
| 13 | インクルーシブ保育とは1 |
| 14 | インクルーシブ保育とは2 |
| 15 | 障害児保育の制度と変遷 |

評価

授業参加態度（30点）授業時の小レポート（20点）期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

授業外学習

【事前予習】次回の授業に関連する教科書の部分や資料を熟読し、大事なところに下線を引くなどして授業に備える。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 障害児保育 | | |
| 担当教員名 | 山田 陽子 | | |
| ナンバリング | KAb210 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は学科専門科目（必修科目）である。幼稚園・保育所・児童発達支援事業等に在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等による、特別の支援を必要とする幼児が、集団の中において自分らしく生活する過程で、「生きる力の基礎を培う」体験を積み重ねて全体的に発達するために、保育者としての必要な知識を身に付け、子ども理解と援助の方法を学ぶ。

科目の概要

障害児保育の歴史を把握し、特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達について理解し、映像や事例によって、障害のある子どもへの具体的な理解や援助について構想する。さらに、インクルーシブ教育・保育についての知識を身に付け、全ての子どもを包み込む教育・保育の方法や援助のあり方、同僚や家族との協力関係等について深く学ぶ。

学修目標

1. 特別の支援を必要とする幼児の障害の特性、心身の発達について基礎的な知識を身に付ける
2. 人間関係や生活上の困難について理解し、特別な配慮や援助の方法を映像や事例を通して構想する
3. 障害の有無、障害の種別や程度や年齢に関係なく、どの子どもも集団の中で楽しく自分らしく伸び 伸びと過ごすための遊びや生活を構想し、一人ひとりの発達課題に即した援助の方法を理解する

| 内容 | |
|----|--|
| 1 | 障害児保育とは1 子どもとはどういう存在か 障害とは何か |
| 2 | 障害児保育とは2 子どもを1個の主体として受け止めることの意義 |
| 3 | 障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助1 |
| 4 | 障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助2 |
| 5 | 障害のある子どもの理解と保育実践：視覚障害 |
| 6 | 障害のある子どもの理解と保育実践：聴覚障害 |
| 7 | 障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）1 |
| 8 | 障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）2 |
| 9 | 障害のある子どもの理解と保育実践：知的障害 |
| 10 | 障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症1 |
| 11 | 障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症2 |
| 12 | 障害のある子どもの理解と保育実践：発達障害 |
| 13 | インクルーシブ保育とは1 |
| 14 | インクルーシブ保育とは2 |
| 15 | 障害児保育の制度と変遷 |

評価

授業参加態度（30点）授業時の小レポート（20点）期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

授業外学習

【事前予習】次回の授業に関連する教科書の部分や資料を熟読し、大事なところに下線を引くなどして授業に備える。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 障害児保育 | | |
| 担当教員名 | 権 明愛 | | |
| ナンバリング | KAb310 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、保育資格の取得に履修する必要の科目である。2年次に開講した障害児保育 で学んだ知識を踏まえ、様々な障害のある子どもについての理解を深め、具体的な支援について実践的に学ぶ。

科目の概要

保育者として実践場面で出会う障害のある子ども一人ひとりをどう理解し、受けとめながら支援を進めていくかについて実践的に学ぶ。

適宜映像や事例を取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生が相互に学びを深めていく。

学修目標（=到達目標）

障害のある子どもへの基本理解を深める。

障害のある子どもの保育をどのように展開していくかを実際の具体的な事例を通して学ぶ。

保育における計画作り、体制作り、諸機関との連携及び保護者支援について学ぶ。

| 内容 | |
|----|--------------------------------------|
| 1 | 生命の尊さ-障害児保育の出発点と私たちが現場で出会う障害のある子どもたち |
| 2 | 「障害」とは何か、もう一度考えてみよう |
| 3 | 歴史から見る障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題 |
| 4 | 関係性の中で育む子どもの力 |
| 5 | ことばの育ちに難しさのある子どもの理解と支援 |
| 6 | 知的な育ちに遅れのある子どもの理解と支援 |
| 7 | 落ち着きがないと言われている子どもの理解と支援 |
| 8 | 身体の発達に悩みを抱えている子どもの理解と支援 |
| 9 | 人とのかわりに悩みを抱えている子どもの理解と支援 |
| 10 | 情報統制が難しい子どもの理解と支援 |
| 11 | 集団保育の中での子ども同士のかかわりと育ち合い |
| 12 | 個別支援計画を立てよう |
| 13 | 地域における諸機関との連携による支援 |
| 14 | 保護者や家族に対する理解と支援 |
| 15 | まとめ |

評価

授業の参加状況（30点）と授業内外の課題の取り組み状況（10点）、最終課題（50点）を加味して評価を行います。総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

「フォードバック」毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前・事後学修】

授業前後それぞれ60分程の時間を利用して、次の授業内容を確認した上で、テキストの該当部分の内容を読んで予習をする、授業後はノートを読み返し、授業時に気になったこと等について、自ら調べたり、教員に聞いたりすることが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】

授業時に紹介する。

【参考図書】

授業時に紹介する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----------|
| 科目名 | 障害児保育 | | |
| 担当教員名 | 権 明愛 | | |
| ナンバリング | KAb310 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、保育資格の取得に履修する必要の科目である。2年次に開講した障害児保育 で学んだ知識を踏まえ、様々な障害のある子どもについての理解を深め、具体的な支援について実践的に学ぶ。

科目の概要

保育者として実践場面で出会う障害のある子ども一人ひとりをどう理解し、受けとめながら支援を進めていくかについて実践的に学ぶ。

適宜映像や事例を取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生が相互に学びを深めていく。

学修目標（=到達目標）

障害のある子どもへの基本理解を深める。

障害のある子どもの保育をどのように展開していくかを実際の具体的な事例を通して学ぶ。

保育における計画作り、体制作り、諸機関との連携及び保護者支援について学ぶ。

| 内容 | |
|----|--------------------------------------|
| 1 | 生命の尊さ-障害児保育の出発点と私たちが現場で出会う障害のある子どもたち |
| 2 | 「障害」とは何か、もう一度考えてみよう |
| 3 | 歴史から見る障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題 |
| 4 | 関係性の中で育む子どもの力 |
| 5 | ことばの育ちに難しさのある子どもの理解と支援 |
| 6 | 知的な育ちに遅れのある子どもの理解と支援 |
| 7 | 落ち着きがないと言われている子どもの理解と支援 |
| 8 | 身体の発達に悩みを抱えている子どもの理解と支援 |
| 9 | 人とのかわりに悩みを抱えている子どもの理解と支援 |
| 10 | 情報統制が難しい子どもの理解と支援 |
| 11 | 集団保育の中での子ども同士のかかわりと育ち合い |
| 12 | 個別支援計画を立てよう |
| 13 | 地域における諸機関との連携による支援 |
| 14 | 保護者や家族に対する理解と支援 |
| 15 | まとめ |

評価

授業の参加状況（30点）と授業内外の課題の取り組み状況（20点）、最終課題（50点）を加味して評価を行います。総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

「フォードバック」毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前・事後学修】

授業前後それぞれ60分程の時間を利用して、次の授業内容を確認した上で、テキストの該当部分の内容を読んで予習をする、授業後はノートを読み返し、授業時に気になったこと等について、自ら調べたり、教員に聞いたりすることが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】

授業時に紹介する。

【参考図書】

授業時に紹介する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 障害児保育 | | |
| 担当教員名 | 権 明愛 | | |
| ナンバリング | KAb310 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 10クラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、保育資格の取得に履修する必要の科目である。2年次に開講した障害児保育 で学んだ知識を踏まえ、様々な障害のある子どもについての理解を深め、具体的な支援について実践的に学ぶ。

科目の概要

保育者として実践場面で出会う障害のある子ども一人ひとりをどう理解し、受けとめながら支援を進めていくかについて実践的に学ぶ。

適宜映像や事例を取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生が相互に学びを深めていく。

学修目標（=到達目標）

障害のある子どもへの基本理解を深める。

障害のある子どもの保育をどのように展開していくかを実際の具体的な事例を通して学ぶ。

保育における計画作り、体制作り、諸機関との連携及び保護者支援について学ぶ。

| 内容 | |
|----|--------------------------------------|
| 1 | 生命の尊さ-障害児保育の出発点と私たちが現場で出会う障害のある子どもたち |
| 2 | 「障害」とは何か、もう一度考えてみよう |
| 3 | 歴史から見る障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題 |
| 4 | 関係性の中で育む子どもの力 |
| 5 | ことばの育ちに難しさのある子どもの理解と支援 |
| 6 | 知的な育ちに遅れのある子どもの理解と支援 |
| 7 | 落ち着きがないと言われている子どもの理解と支援 |
| 8 | 身体の発達に悩みを抱えている子どもの理解と支援 |
| 9 | 人とのかわりに悩みを抱えている子どもの理解と支援 |
| 10 | 情報統制が難しい子どもの理解と支援 |
| 11 | 集団保育の中での子ども同士のかかわりと育ち合い |
| 12 | 個別支援計画を立てよう |
| 13 | 地域における諸機関との連携による支援 |
| 14 | 保護者や家族に対する理解と支援 |
| 15 | まとめ |

評価

授業の参加状況（30点）と授業内外の課題の取り組み状況（20点）、最終課題（50点）を加味して評価を行います。
総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

「フォードバック」毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前・事後学修】

授業前後それぞれ60分程の時間を利用して、次の授業内容を確認した上で、テキストの該当部分の内容を読んで予習をする、授業後はノートを読み返し、授業時に気になったこと等について、自ら調べたり、教員に聞いたりすることが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】

授業時に紹介する。

【参考図書】

授業時に紹介する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|----------|
| 科目名 | 障害児保育 | | |
| 担当教員名 | 権 明愛 | | |
| ナンバリング | KAb310 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、保育資格の取得に履修する必要の科目である。2年次に開講した障害児保育 で学んだ知識を踏まえ、様々な障害のある子どもについての理解を深め、具体的な支援について実践的に学ぶ。

科目の概要

保育者として実践場面で出会う障害のある子ども一人ひとりをどう理解し、受けとめながら支援を進めていくかについて実践的に学ぶ。

適宜映像や事例を取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生が相互に学びを深めていく。

学修目標（ = 到達目標）

障害のある子どもへの基本理解を深める。

障害のある子どもの保育をどのように展開していくかを実際の具体的な事例を通して学ぶ。

保育における計画作り、体制作り、諸機関との連携及び保護者支援について学ぶ。

| 内容 | |
|----|--------------------------------------|
| 1 | 生命の尊さ-障害児保育の出発点と私たちが現場で出会う障害のある子どもたち |
| 2 | 「障害」とは何か、もう一度考えてみよう |
| 3 | 歴史から見る障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題 |
| 4 | 関係性の中で育む子どもの力 |
| 5 | ことばの育ちに難しさのある子どもの理解と支援 |
| 6 | 知的な育ちに遅れのある子どもの理解と支援 |
| 7 | 落ち着きがないと言われている子どもの理解と支援 |
| 8 | 身体の発達に悩みを抱えている子どもの理解と支援 |
| 9 | 人とのかわりに悩みを抱えている子どもの理解と支援 |
| 10 | 情報統制が難しい子どもの理解と支援 |
| 11 | 集団保育の中での子ども同士のかかわりと育ち合い |
| 12 | 個別支援計画を立てよう |
| 13 | 地域における諸機関との連携による支援 |
| 14 | 保護者や家族に対する理解と支援 |
| 15 | まとめ |

評価

授業の参加状況（30点）と授業内外の課題の取り組み状況（20点）、最終課題（50点）を加味して評価を行います。総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

「フォードバック」毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前・事後学修】

授業前後それぞれ60分程の時間を利用して、次の授業内容を確認した上で、テキストの該当部分の内容を読んで予習をする、授業後はノートを読み返し、授業時に気になったこと等について、自ら調べたり、教員に聞いたりすることが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】

授業時に紹介する。

【参考図書】

授業時に紹介する。

| | | | |
|---------|------------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育・教育課程論 | | |
| 担当教員名 | 桶田 ゆかり | | |
| ナンバリング | KAb311 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科DP1・2・3に該当する。また、カリキュラム・ポリシーの「保育と教育」の中でも特に3・4に該当する。

幼稚園教員免許状取得のための必須科目で、3～4年の実習の際に、保育を計画し実践していくための基礎になる視点を学ぶ。

科目の概要

本科目では、保育・教育課程の意義や役割、構成を理解し、保育内容の充実と質の向上のための綿密な計画及び評価の重要性を学ぶ。さらに、指導計画の作成を通して子どもの発達の過程と保育の流れ等について学び、理解を深める。

学修目標 (= 到達目標)

1. 保育所・こども園・幼稚園における保育・教育課程の意義や役割、教育(保育)目標や指導計画との関係、カリキュラム・マネジメントについて理解する。
2. 保育・教育課程の編成、指導計画の作成の方法を理解する。

内容

この授業は、講義を中心に、演習(個人・グループ)を多く取り入れ、指導計画を実際に作成しながら、学びを深めていく。

| | | |
|----|---------------------------------|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 授業の概要 |
| 2 | 保育の基本 | 幼稚園教育要領等の改訂の意味 |
| 3 | 幼稚園・認定こども園・保育所を知ろう | (共通点・相違点) |
| 4 | 教育目標・教育課程・指導計画 | と日々の保育の展開 |
| 5 | 指導計画の作成の基本とその方法 | 演習「幼児の姿(実態の把握)」を考える |
| 6 | 指導計画の作成の基本とその方法 | 演習「ねらい」「内容」を考える |
| 7 | 指導計画の作成の基本とその基本 | 演習「環境の構成」「予想される幼児の姿」を考える |
| 8 | 指導計画の作成の基本とその基本 | 演習「保育者の援助・留意点」を考える |
| 9 | 指導計画の作成の基本とその基本 | 演習「部分指導案」の作成 |
| 10 | 乳児の特徴と指導計画 | |
| 11 | 幼児の特徴と指導計画 | グループ演習1「日案」の作成 |
| 12 | 幼児の特徴と指導計画 | グループ演習2「日案」の作成と発表 |
| 13 | カリキュラム・マネジメント | 保育の実践と評価 記録の取り方・読み取り方 |
| 14 | 幼小の接続(アプローチ・カリキュラム、スタート・カリキュラム) | |
| 15 | まとめ | |

評価

授業への参加度(30%)、授業時の課題・グループ活動(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】演習でのレポートや課題にはコメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】各回のテーマについて教科書や保育雑誌などで調べ、内容の観点を考えてみる。(各授業に対して30分)

【事後学修】授業で学んだ観点で各自の指導計画を仕上げたり、他の時期や学年に応用して指導計画を作成したりする。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開」フレーベル館

【参考図書】文部科学省 幼稚園教育要領解説書 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

内閣府/文部科学省/厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

フレーベル館

| | | | |
|---------|------------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育・教育課程論 | | |
| 担当教員名 | 桶田 ゆかり | | |
| ナンバリング | KAb311 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科DP1・2・3に該当する。また、カリキュラム・ポリシーの「保育と教育」の中でも特に3・4に該当する。

幼稚園教員免許状取得のための必須科目で、3～4年の実習の際に、保育を計画し実践していくための基礎になる視点を学ぶ。

科目の概要

本科目では、保育・教育課程の意義や役割、構成を理解し、保育内容の充実と質の向上のための綿密な計画及び評価の重要性を学ぶ。さらに、指導計画の作成を通して子どもの発達の過程と保育の流れ等について学び、理解を深める。

学修目標 (= 到達目標)

1. 保育所・こども園・幼稚園における保育・教育課程の意義や役割、教育(保育)目標や指導計画との関係、カリキュラム・マネジメントについて理解する。
2. 保育・教育課程の編成、指導計画の作成の方法を理解する。

内容

この授業は、講義を中心に、演習(個人・グループ)を多く取り入れ、指導計画を実際に作成しながら、学びを深めていく。

| | | |
|----|---------------------------------|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 授業の概要 |
| 2 | 保育の基本 | 幼稚園教育要領等の改訂の意味 |
| 3 | 幼稚園・認定こども園・保育所を知ろう | (共通点・相違点) |
| 4 | 教育目標・教育課程・指導計画 | と日々の保育の展開 |
| 5 | 指導計画の作成の基本とその方法 | 演習「幼児の姿(実態の把握)」を考える |
| 6 | 指導計画の作成の基本とその方法 | 演習「ねらい」「内容」を考える |
| 7 | 指導計画の作成の基本とその基本 | 演習「環境の構成」「予想される幼児の姿」を考える |
| 8 | 指導計画の作成の基本とその基本 | 演習「保育者の援助・留意点」を考える |
| 9 | 指導計画の作成の基本とその基本 | 演習「部分指導案」の作成 |
| 10 | 乳児の特徴と指導計画 | |
| 11 | 幼児の特徴と指導計画 | グループ演習1「日案」の作成 |
| 12 | 幼児の特徴と指導計画 | グループ演習2「日案」の作成と発表 |
| 13 | カリキュラム・マネジメント | 保育の実践と評価 記録の取り方・読み取り方 |
| 14 | 幼小の接続(アプローチ・カリキュラム、スタート・カリキュラム) | |
| 15 | まとめ | |

評価

授業への参加度 (30%)、授業時の課題・グループ活動 (70%) とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

【フィードバック】演習でのレポートや課題にはコメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】各回のテーマについて教科書や保育雑誌などで調べ、内容の観点を考えてみる。(各授業に対して30分)

【事後学修】授業で学んだ観点で各自の指導計画を仕上げたり、他の時期や学年に応用して指導計画を作成したりする。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開」フレーベル館

【参考図書】文部科学省 幼稚園教育要領解説書 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

内閣府/文部科学省/厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

フレーベル館

| | | | |
|---------|-----------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育方法 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子、横井 紘子、山田 陽子、桶田 ゆかり 他 | | |
| ナンバリング | KAB312 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針1,2,3に該当する。

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。3年前期までの専門科目の学習内容を踏まえて、保育を実践する力を養い、実習へとつなげていくという性質をもつ。

科目の概要

乳幼児期の子どもにとってふさわしい生活、環境、遊び、幼児理解に基づいた関わり方など、保育方法の基礎を学んだ上で、現場の保育者の保育に対する考え方や日々の保育実践、行事などの取り組みを直に聞く機会を持つ。現場の新鮮な話題や、多様な保育方法の実際や日常を具体的に知ることによって、現場を身近に感じ、自分が実践していくことを思い描いて保育方法を選択していくことの重要性に対する理解を深める。

学修目標

- ・ 幼児の生活や遊びの実態に即して、一人ひとりの発達特性 (見方、考え方、感じ方、関わり方など) を理解して、一人ひとりに合わせた指導の方法を考える。
- ・ 多様な保育方法の理論と実際を知り、一人ひとりに合わせた保育方法を考える。

内容

この授業は、講義を基本とするが、保育実践者や保育関係者による講義やワークショップを取り入れたり、実際の保育事例を示しながら展開し、各自が、これまでに自身の保育実践をふり返りながら、当事者性をもって、受講する仲間との意見交換などを通して、保育理解を深めていく。

| | |
|----|--|
| 1 | プーグ 子どもにとって集団で過ごすということは...入園期の子どもたち/1学期の姿から (横井) |
| 2 | DVD「あそんでぼくらは人間になる」鑑賞～子どもにとって遊びとは～ (曾野) |
| 3 | 映像から感じ取る 子どもの心 保育者の思い (山田) |
| 4 | DVD「4歳児のヒミツ」鑑賞～子どもを知ろう～ (桶田) |
| 5 | 生活とのつながりの中できらりと光る行事・生活発表会、誕生会など (山田) |
| 6 | 学びのめばえを育てる～0, 1, 2歳児の保育で大切にしたいこと～ (上垣内) |
| 7 | 折り紙から演劇への試み～ ワークショップ: 劇的空間のつくり方の話 等 (上垣内/曾野) |
| 8 | 子どもの遊びを引き出す保育者の援助～体を動かす遊びから～ (須田) |
| 9 | 子どもの遊びから見えること (曾野) |
| 10 | 附属幼稚園の先生のお話 (3歳児担任) (上垣内) |
| 11 | 附属幼稚園の先生のお話 (4歳児担任) (横井) |
| 12 | 附属幼稚園の先生のお話 (5歳児担任) (桶田) |
| 13 | 附属幼稚園の先生 3年間の子どもの育ちと幼稚園の役割 ほか (桶田/横井) |
| 14 | 実習を受け入れてくれる園側に立って考える (桶田) |
| 15 | まとめ (横井/曾野) |

評価

授業の終わりの小レポートや提出課題（50％）、期末課題レポート（50％）により評価を行い、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートは、翌週以降の授業内でコメントして返却する。

授業外学習

【事前予習】1時間程度。保育内容の指導法等の保育関連科目で学んだことを復習しておく。毎回のテーマに沿って、これまでの実習や自分の子ども時代の保育体験を思い出したり話し合ったりしておく。

【事後学修】1時間程度。授業を振り返り、資料などをもう一度読み返して、保育者としての自分の在り方について、様々な視点から考えてみる。各回に出された課題の作成。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、毎回の授業内容に応じて資料を配布するので、各自がファイリングしておく。

（参考図書）『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月刊行）。それ以外の書籍は授業時に適宜紹介する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 教育方法 | | |
| 担当教員名 | 星野 敦子 | | |
| ナンバリング | KAb213 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。幼稚園教諭を目指す学生のための教職教養科目 本科目は、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に、子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係を的確に捉えることとで、より幅広い学習を目指す。

「教育の目的の応じた教育方法の違いがわかる」「幼稚園教育要領における学習のねらいがわかる」「授業設計の手法がわかる」

内容

この授業は、講義を基本として、グループワークを取り入れながら進める

| | |
|----|-------------------------|
| 1 | 1. 教育の目的と方法 (ガイダンス) |
| 2 | 2. 教育方法の基礎理論 |
| 3 | 3. 幼児教育思想の展開 |
| 4 | 4. 問題解決学習の方法 |
| 5 | 5. 幼稚園教育・保育方法の歴史 |
| 6 | 6. 幼稚園教育要領・保育所指針改定のポイント |
| 7 | 7. 育ててほしい10の姿 |
| 8 | 8. 指導方法の工夫 (グループワーク) |
| 9 | 9. 環境による保育 |
| 10 | 10. 幼児の主体的な活動と環境の構成 |
| 11 | 11. 幼児の生活と遊びの充実 |
| 12 | 12. 保育方法と形態 |
| 13 | 13. 幼児教育における ICT 活用 |
| 14 | 14. 幼小接続とスタートカリキュラム |
| 15 | 15. 多文化社会への対応・まとめ |

評価

1 授業ごとの課題提出 (30%)

2 最終試験の達成度 (70%)

とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る (60分)

【事後学修】授業で学んだ内容のうち、キーワードにあたるものを選びなぜそれがキーワードになるのかをノートに記載する (60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼児教育の方法』小田 豊、青井倫子 編著 （北大路書房）

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 教育方法 | | |
| 担当教員名 | 星野 敦子 | | |
| ナンバリング | KAb213 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。幼稚園教諭を目指す学生のための教職教養科目 本科目は、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に、子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係を的確に捉えることとで、より幅広い学習を目指す。

「教育の目的の応じた教育方法の違いがわかる」「幼稚園教育要領における学習のねらいがわかる」「授業設計の手法がわかる」

内容

この授業は、講義を基本として、グループワークを取り入れながら進める

| | |
|----|-------------------------|
| 1 | 1. 教育の目的と方法 (ガイダンス) |
| 2 | 2. 教育方法の基礎理論 |
| 3 | 3. 幼児教育思想の展開 |
| 4 | 4. 問題解決学習の方法 |
| 5 | 5. 幼稚園教育・保育方法の歴史 |
| 6 | 6. 幼稚園教育要領・保育所指針改定のポイント |
| 7 | 7. 育ててほしい10の姿 |
| 8 | 8. 指導方法の工夫 (グループワーク) |
| 9 | 9. 環境による保育 |
| 10 | 10. 幼児の主体的な活動と環境の構成 |
| 11 | 11. 幼児の生活と遊びの充実 |
| 12 | 12. 保育方法と形態 |
| 13 | 13. 幼児教育における ICT 活用 |
| 14 | 14. 幼小接続とスタートカリキュラム |
| 15 | 15. 多文化社会への対応・まとめ |

評価

1 授業ごとの課題提出 (30%)

2 最終試験の達成度 (70%)

とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る (60分)

【事後学修】授業で学んだ内容のうち、キーワードにあたるものを選びなぜそれがキーワードになるのかをノートに記載する (60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼児教育の方法』小田 豊、青井倫子 編著 （北大路書房）

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 乳児保育 | | |
| 担当教員名 | 川喜田 昌代 | | |
| ナンバリング | KAb214 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 に該当する。

この科目は、保育士資格に必要とされる専門科目である。0歳児から3歳未満児の発達と保育について学び、乳児保育の専門性を高める。

学科のカリキュラム・ポリシーは、乳児保育や多文化保育などについての理解を通して、多様な保育形態や保育対象に対応する保育実践力を身につけるものである。

科目の概要

この科目は、乳児から1歳以上3歳未満の幼児の保育の内容を学ぶ科目である。

保育所保育指針において「生命の保持」「情緒の絆」という養護の大切さが詳細に言及され、乳児期及び1・2歳児の保育の内容がより明確となった。乳児保育についての基礎知識を理解し、この時期の子どもの発達に沿った援助の方法を学び、より専門的な視点で子どもに関わることができることを目的としている。

学修目標 (= 到達目標)

望ましい乳児保育の在り方を明確にし、基礎知識を理解する。

0・1・2歳児の発達援助に必要とされる子どもの見方やとらえ方、乳児保育を進めていく上での必要な方法を身につけていく。

内容

| | |
|----|---------------------------|
| 1 | オリエンテーション 乳児保育 とは |
| 2 | 乳児保育の理念と歴史的変遷 |
| 3 | 乳児保育の理念と役割 |
| 4 | 乳児保育の現状と課題 |
| 5 | 0歳児の発達と保育の配慮 |
| 6 | 0歳児の発達と保育の配慮 |
| 7 | 1歳児の発達と保育の配慮 |
| 8 | 1歳児の発達と保育の配慮 |
| 9 | 2歳児の発達と保育の配慮 |
| 10 | 2歳児の発達と保育の配慮 |
| 11 | 保育課程に基づく指導計画 |
| 12 | 個々の発達を促す生活と遊びの環境 |
| 13 | 保育所の勤務形態と協働・保護者とのパートナーシップ |
| 14 | 総合学習 |
| 15 | まとめ |

評価

項目ごとの小レポート及び試験によって行う。授業の参加態度及びレポート（30%）テスト（70%）で評価を行い、合格点に満たないものは、再試験となる。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習内容の確認をしておくこと

【事後学修】学習内容の復習をしておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

民秋 言「幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷」萌文書林
もう1冊は初回の授業で紹介する

【参考図書】保育所保育指針解説書

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 乳児保育 | | |
| 担当教員名 | 川喜田 昌代 | | |
| ナンバリング | KAb214 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 に該当する。

この科目は、保育士資格に必要とされる専門科目である。0歳児から3歳未満児の発達と保育について学び、乳児保育の専門性を高める。

学科のカリキュラム・ポリシーは、乳児保育や多文化保育などについての理解を通して、多様な保育形態や保育対象に対応する保育実践力を身につけるものである。

科目の概要

この科目は、乳児から1歳以上3歳未満の幼児の保育の内容を学ぶ科目である。

保育所保育指針において「生命の保持」「情緒の絆」という養護の大切さが詳細に言及され、乳児期及び1・2歳児の保育の内容がより明確となった。乳児保育についての基礎知識を理解し、この時期の子どもの発達に沿った援助の方法を学び、より専門的な視点で子どもに関わることができることを目的としている。

学修目標 (= 到達目標)

望ましい乳児保育の在り方を明確にし、基礎知識を理解する。

0・1・2歳児の発達援助に必要とされる子どもの見方やとらえ方、乳児保育を進めていく上での必要な方法を身につけていく。

内容

| | |
|----|---------------------------|
| 1 | オリエンテーション 乳児保育 とは |
| 2 | 乳児保育の理念と歴史的変遷 |
| 3 | 乳児保育の理念と役割 |
| 4 | 乳児保育の現状と課題 |
| 5 | 0歳児の発達と保育の配慮 |
| 6 | 0歳児の発達と保育の配慮 |
| 7 | 1歳児の発達と保育の配慮 |
| 8 | 1歳児の発達と保育の配慮 |
| 9 | 2歳児の発達と保育の配慮 |
| 10 | 2歳児の発達と保育の配慮 |
| 11 | 保育課程に基づく指導計画 |
| 12 | 個々の発達を促す生活と遊びの環境 |
| 13 | 保育所の勤務形態と協働・保護者とのパートナーシップ |
| 14 | 総合学習 |
| 15 | まとめ |

評価

項目ごとの小レポート及び試験によって行う。授業の参加態度及びレポート（30%）テスト（70%）で評価を行い、合格点に満たないものは、再試験となる。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習内容の確認をしておくこと

【事後学修】学習内容の復習をしておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

民秋 言「幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷」萌文書林
もう1冊は初回の授業で紹介する

【参考図書】保育所保育指針解説書

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 乳児保育 | | |
| 担当教員名 | 川喜田 昌代 | | |
| ナンバリング | KAb214 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 に該当する。

この科目は、保育士資格に必要とされる専門科目である。0歳児から3歳未満児の発達と保育について学び、乳児保育の専門性を高める。

学科のカリキュラム・ポリシーは、乳児保育や多文化保育などについての理解を通して、多様な保育形態や保育対象に対応する保育実践力を身につけるものである。

科目の概要

この科目は、乳児から1歳以上3歳未満の幼児の保育の内容を学ぶ科目である。

保育所保育指針において「生命の保持」「情緒の絆」という養護の大切さが詳細に言及され、乳児期及び1・2歳児の保育の内容がより明確となった。乳児保育についての基礎知識を理解し、この時期の子どもの発達に沿った援助の方法を学び、より専門的な視点で子どもに関わることができることを目的としている。

学修目標 (= 到達目標)

望ましい乳児保育の在り方を明確にし、基礎知識を理解する。

0・1・2歳児の発達援助に必要とされる子どもの見方やとらえ方、乳児保育を進めていく上での必要な方法を身につけていく。

内容

| | |
|----|---------------------------|
| 1 | オリエンテーション 乳児保育 とは |
| 2 | 乳児保育の理念と歴史的変遷 |
| 3 | 乳児保育の理念と役割 |
| 4 | 乳児保育の現状と課題 |
| 5 | 0歳児の発達と保育の配慮 |
| 6 | 0歳児の発達と保育の配慮 |
| 7 | 1歳児の発達と保育の配慮 |
| 8 | 1歳児の発達と保育の配慮 |
| 9 | 2歳児の発達と保育の配慮 |
| 10 | 2歳児の発達と保育の配慮 |
| 11 | 保育課程に基づく指導計画 |
| 12 | 個々の発達を促す生活と遊びの環境 |
| 13 | 保育所の勤務形態と協働・保護者とのパートナーシップ |
| 14 | 総合学習 |
| 15 | まとめ |

評価

項目ごとの小レポート及び試験によって行う。授業の参加態度及びレポート（30%）テスト（70%）で評価を行い、合格点に満たないものは、再試験となる。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習内容の確認をしておくこと

【事後学修】学習内容の復習をしておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

民秋 言「幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷」萌文書林
もう1冊は初回の授業で紹介する

【参考図書】保育所保育指針解説書

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 乳児保育 | | |
| 担当教員名 | 川喜田 昌代 | | |
| ナンバリング | KAb214 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 に該当する。

この科目は、保育士資格に必要とされる専門科目である。0歳児から3歳未満児の発達と保育について学び、乳児保育の専門性を高める。

学科のカリキュラム・ポリシーは、乳児保育や多文化保育などについての理解を通して、多様な保育形態や保育対象に対応する保育実践力を身につけるものである。

科目の概要

この科目は、乳児から1歳以上3歳未満の幼児の保育の内容を学ぶ科目である。

保育所保育指針において「生命の保持」「情緒の絆」という養護の大切さが詳細に言及され、乳児期及び1・2歳児の保育の内容がより明確となった。乳児保育についての基礎知識を理解し、この時期の子どもの発達に沿った援助の方法を学び、より専門的な視点で子どもに関わることができることを目的としている。

学修目標 (= 到達目標)

望ましい乳児保育の在り方を明確にし、基礎知識を理解する。

0・1・2歳児の発達援助に必要とされる子どもの見方やとらえ方、乳児保育を進めていく上での必要な方法を身につけていく。

内容

| | |
|----|---------------------------|
| 1 | オリエンテーション 乳児保育 とは |
| 2 | 乳児保育の理念と歴史的変遷 |
| 3 | 乳児保育の理念と役割 |
| 4 | 乳児保育の現状と課題 |
| 5 | 0歳児の発達と保育の配慮 |
| 6 | 0歳児の発達と保育の配慮 |
| 7 | 1歳児の発達と保育の配慮 |
| 8 | 1歳児の発達と保育の配慮 |
| 9 | 2歳児の発達と保育の配慮 |
| 10 | 2歳児の発達と保育の配慮 |
| 11 | 保育課程に基づく指導計画 |
| 12 | 個々の発達を促す生活と遊びの環境 |
| 13 | 保育所の勤務形態と協働・保護者とのパートナーシップ |
| 14 | 総合学習 |
| 15 | まとめ |

評価

項目ごとの小レポート及び試験によって行う。授業の参加態度及びレポート（30%）テスト（70%）で評価を行い、合格点に満たないものは、再試験となる。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】学習内容の確認をしておくこと
- 【事後学修】学習内容の復習をしておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

民秋 言「幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷」萌文書林
もう1冊は初回の授業で紹介する

【参考図書】保育所保育指針解説書

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|----|
| 科目名 | 乳児保育 | | |
| 担当教員名 | 川喜田 昌代 | | |
| ナンバリング | KAb314 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.3に該当する。

子どもの心理や発達特性を理解し、それに応じた保育を構築し実践することができることを通して、保育実践や保育内容にかかる知識と技能を獲得し、実践に生かすことができる。また、知識に基づいて保育者としての適切な思考や判断が行えること、自らの問題意識を持ち、それに取り組もうとするものである。

科目の概要

乳児保育 での学びを基に、0歳から3歳未満児の子ども発達に応じた保育と保育者の役割について具体的に理解を深め、実践力を養うための科目である。

学修目標

3歳未満児の発達の特性を理解し、それを支える保育者としての知識と技術を身に着ける。

3歳未満児の指導計画など様々な演習を通じて実践力を養う。

内容

グループワーク。ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

| | |
|----|-----------------|
| 1 | 乳児保育 オリエンテーション |
| 2 | 赤ちゃんの不思議な能力 |
| 3 | 身体の発育と身体機能の発達 |
| 4 | 情緒の発達と愛着形成(1) |
| 5 | 情緒の発達と愛着形成(2) |
| 6 | 保護者との連携 保護者への支援 |
| 7 | 乳児期の生活と具体的なその援助 |
| 8 | 0歳児～1歳児の保育と計画 |
| 9 | 1歳児～2歳児の保育と計画 |
| 10 | 2歳児～3歳児の保育と計画 |
| 11 | 乳児保育の実践に向けて |
| 12 | 乳児保育の実践に向けて |
| 13 | 模擬保育 グループ活動 |
| 14 | 模擬保育 グループ活動 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加態度及びレポート50%、試験50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】3歳未満児に関連する履修済み他科目について復習をしておく

【事後学修】実践場面で役立てられるようまとめておく

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

民秋言編著「幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷」萌文書林
そのほか、授業でプリント配布

【参考図書】 阿部和子編 「乳児保育の基本」萌文書林

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|----|
| 科目名 | 多文化保育論 | | |
| 担当教員名 | 大和 洋子 | | |
| ナンバリング | KAb315 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1、3 に該当する。近年日本において増えている、外国文化を背景に持つ家庭のこどもの保育を担当する際に気を付けるべきことを学ぶ。シラバスは予定であり、履修者のニーズや興味により、臨機応変に対応します。

科目の概要

日本の移民政策の歴史を追いながら、その変遷を学習し、近年の多文化の状況が起こっている背景を理解する。日本に住む外国人の中でも割合が多い、アジア諸地域の保育・幼児教育の実践ビデオを見て、共通点や違いを見つけ、その地域から日本に移住した家族が日本の就学前教育現場で体験するであろう問題、及びそのような子どもを受け入れた就学前施設側が直面するであろう困難点について話し合う。また、南米に出自がある子の場合はどのような配慮が必要かを学習する。学生の興味ある世界の幼児教育について調べ学習をして発表する。他国の実践を知ることにより、日本の幼児教育の位置づけを広い視野をもって理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業後に教育現場に入ることを前提に、現場で直面するであろう多文化の背景を持つ子どもの受け入れに関する知識を学ぶと同時に、対処できる素地を作る。

内容

基本的に、「講義」+「ペア/グループ/クラス・ディスカッション」の形式をとります。映像があるものに関しては、(必要に応じて「講義」) +「映像」+「ディスカッション」となります。

また、毎回授業の最後に一言フィードバックを提出してもらい、それに対して次週にフィードバックを返します。受け身的な授業ではないので、活発な参加を期待しています。

| | |
|----|--|
| 1 | オリエンテーション：自己/他己紹介。授業参加者皆で日本人とは、文化とは何かを考える。 |
| 2 | 記録ドキュメンタリー『青い目、茶色い目』を鑑賞。なぜ「多文化共生」が必要なのか |
| 3 | 日本の移民政策の歴史：移民送り出しの歴史、労働者としての移民受け入れ政策 |
| 4 | 日本在住の外国出自の人々：オールドカマーとニューカマー |
| 5 | アジアの就学前教育 日本・韓国 |
| 6 | アジアの就学前教育 中国・台湾 |
| 7 | アジアの就学前教育 シンガポール・香港 |
| 8 | 世界の就学前教育と多文化 (アメリカ・カナダ) 多文化主義国家 |
| 9 | 世界の就学前教育と多文化 (北欧) 移民・難民の受け入れと課題 |
| 10 | 世界の就学前教育と多文化 (ヨーロッパ) 移民・難民受け入れの狭間 |
| 11 | 就学前教育と貧困問題 |
| 12 | 就学前教育と宗教：指導者として気を付けなければならないこと |
| 13 | 就学前教育の国際比較< 保育者・教育者養成とカリキュラム > |
| 14 | 就学前教育の国際比較：何のための国際比較か |

評価

授業中のプレゼン及びディスカッションの参加・態度（40％）と、課題レポート（60％）を総合的に評価して、総合評価60点以上を合格とする。課題レポートのフィードバックは、次週に授業がある場合には授業中に、授業がない場合委員は、各自にメールにて文章で通知します。

授業外学習

【事前準備】

実習に行った園や施設での体験を振り返っておく。発表の際にはリサーチをして発表資料を作成する。

【事後学習】

毎回学習した内容を振り返り、復習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】泉 千勢・一見真理子・汐見稔幸編著『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店（2009年第2刷） 咲間 まり子 編『多文化保育・教育論』（株）みらい （2014年）ISBN:978-4-86015-319-9

【参考図書】OECD編著 星三和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳『OECD保育白書 人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較』明石書店

| | | | |
|---------|------------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育学 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | KAb416 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1, 3に該当する。

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目です。幼児教育学の中でさらにこの専門領域について追究し専門性を深めていくことを希望する学生を対象としています。ここでの学びが卒業研究に続いていきます。

科目の概要

保育の基礎となる発達理論について、その概念を抑え、保育という窓からどのようにとらえられるのか、それら発達理論を踏まえて保育をどのように展開していくのかについて、これまで学習してきた保育の知識と実習体験を生かしながら考えていきます。

資料や映像等を用いて、具体的な保育実践を通して保育を考えていきたいと思えます。

学修目標

- ・自分の保育実践を省察し子ども理解を深める
- ・保育者に求められる多様な役割を構造化してとらえる。
- ・1年間の保育の流れや卒園までの発達の経過を構造化してとらえる。
- ・自分の保育実践に新たな視点を加えることを目指す。

内容

この授業は、講義を基本とするが、多様な保育実践事例を紹介し、リアリティのある保育理解を目指す。

模擬保育室を使つての環境構成、附属幼稚園の保育観察など、フィールドワークやグループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学習を深めていく。

| | |
|----|-----------------------------|
| 1 | 保育とは |
| 2 | 子どもと保育者 (大人) の関係 |
| 3 | 自発的な活動としての遊び |
| 4 | 愛着理論について理解する |
| 5 | 愛着理論を保育の営みの中でとらえる |
| 6 | 愛着理論を踏まえた保育援助の在り方について考える |
| 7 | アフォーダンスについて理解する |
| 8 | 「環境を通しての保育」とアフォーダンス |
| 9 | アフォーダンスを踏まえた環境構成の在り方について考える |
| 10 | アフォーダンスを踏まえた保育援助の在り方について考える |
| 11 | 心の理論について理解する |
| 12 | 「仲間関係の発達」と心の理論 |
| 13 | 心の理論と特別な配慮が必要な子どもの理解と保育援助 |
| 14 | 心の理論を踏まえた長期的視野に立った指導計画と保育援助 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加状況（30%）、学期内の小レポート（40%）、学期末のレポート（30%）の比率で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業課題は、毎回のリアクションペーパーに記入したものにコメントして翌週返却。レポート課題は次週以降で解説した後、コメントを記載して返却。

授業外学習

【事前予習】1時間程度。乳幼児の発達の復習、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育保育要領の基本となる考えを確認しておく。前週に指示したテキストの指定箇所を読んでおく。

【事後学修】1時間程度。授業内に配布した資料やテキストをもとに、その週の学習内容を確認しておく。課題を作成する。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回プリント資料を配布する

【教科書】初回授業時に指定する

【推薦書】津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 376.1/T

津守真 『子ども学のはじまり』 フレーベル館

津守真・森上史朗監修 『倉橋惣三文庫全10巻』 フレーベル館

守永英子・保育を考える会 『保育の中の小さなこと大切なこと』 フレーベル館

その他、授業時に指示する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育学 | | |
| 担当教員名 | 横井 紘子 | | |
| ナンバリング | KAb416 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科の専門科目であり、卒業研究につながる選択科目である。幼児教育学科の学位授与方針の2・3に該当する。

教科書に沿い、テーマをもって教科書内の乳幼児の事例を仲間と共に深く読み込む。さらに、取りあげた事例と考察をふまえ、それらとつなげて捉えられる自らの実践を振り返り、自分の考えを言語化する作業を毎行なう。

子どもの実際の姿を一つ一つ丁寧に立ち止まって捉え直そうとする意識をもって学修することで、乳幼児期の子どもの世界をより深く理解すること、保育者に求められる感性を磨くこと、自分の考えを適切に表現する力を培うことをねらいとする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

| | |
|----|-----------------|
| 1 | はじめに 遊びってなんだろう？ |
| 2 | 子どもの成長と遊び |
| 3 | 年少と年長の違い |
| 4 | ままごとにおける豊かなあり方 |
| 5 | 模倣と真似 |
| 6 | 本質の浮き彫り |
| 7 | 模倣と真似における指標 |
| 8 | 乳児における遊びと現実 |
| 9 | 制作における創造力 |
| 10 | 競技と遊び |
| 11 | 遊びの移行と展開 |
| 12 | 遊びにおける言葉と感情 |
| 13 | 身体の動きと遊び |
| 14 | 遊びにおける充実感 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加度30%、毎回のレポート30%、最終レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートは、翌週以降の授業内で取り上げ、仲間と共有していく。

授業外学習

【事前準備】教科書の事前に指定した章を必ず読み、意見や疑問を持って出席すること。(各授業に対して40分)

【事後学修】授業の内容を復習し、自らの保育実践を振り返りながら、考えをまとめ、提出すること。紹介した文献を購読する努力をすること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遊びのリアリティー事例から読み解く子どもの豊かさと奥深さ 中田基昭 編著 / 大岩みちの・横井紘子 著
新曜社 2016

【参考図書】教室内で紹介する

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育臨床学 | | |
| 担当教員名 | 川喜田 昌代 | | |
| ナンバリング | KAb417 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

子どもと保育にかかわる課題を設定し、自ら探求する意欲とその基礎となる知識・技能を持つ、幼児教育学科の学科専門科目である。カリキュラム・ポリシーでは、2の「保育と教育」「保育内容」「発達と臨床」「生活と福祉」「健康と運動」の5つの領域で、各領域の専門的な知識と技術の習得を図り、全人的な人間理解を目指す科目の一つである。多領域の専門的見地から講義を受け、幅広く子どもと保育にかかわる課題について関心を持ち、卒業研究につなげていく。

科目の概要

乳児保育や多文化保育などについての理解を通して、多様な保育形態や保育対象に対応する保育実践力を身につけ、乳幼児期（0，1，2歳児）に必要な適切な保育の方法とは何かを考え、実践力に繋げていくことを目的とする。

学修目標（＝到達目標）

- ・ 乳児保育の実践及び課題について理解を深める。
- ・ 海外の乳児保育の在り方を知り比較・考察する。
- ・ 乳児保育と環境・子どもの発達理解を深め、問題点を探る。

内容

| | |
|----|--------------------|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 乳児保育の今日的課題 |
| 3 | 保育者との関係（発達援助と愛着） |
| 4 | さまざまな環境との関わり（仲間関係） |
| 5 | 保育援助の在り方 |
| 6 | 保育援助の在り方 |
| 7 | 乳児保育の保育カリキュラム |
| 8 | 乳児保育の保育カリキュラム |
| 9 | 海外の乳児保育 |
| 10 | 海外の乳児保育 |
| 11 | 事例検討とグループワーク |
| 12 | 事例検討とグループワーク |
| 13 | 事例検討とグループワーク |
| 14 | 発表 |
| 15 | まとめ |

評価

授業参加（出席）30%レポート30%学期末レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】乳幼児の発達過程の復習 保育所保育指針を読んでおく。

【事後学修】授業の内容を確認しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 初回の授業で指定する

【参考図書】 民秋言編著「幼稚園教育要領と保育所保育指針のと幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立」萌文書林

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育臨床学 | | |
| 担当教員名 | 山田 陽子 | | |
| ナンバリング | KAb417 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1. 2. 3 に該当する。

本科目は幼児教育学科の学科専門科目である。受講する学生は1・2年次に身に付けた保育の専門的な知識があり、保育所・幼稚園・特別支援学校にて参加観察実習を体験している。そこで本科目では、学習する内容と保育の実際をつなげて捉える視点を持ちながら、保育者の子ども理解の方法や遊びへの援助に対する考え方や姿勢を身に付ける。

科目の概要

本科目は、まずは遊びの本質について理解する。次に子どもの発達を促進させる遊びの価値や遊びを援助する保育者の役割等についての理解を深め、必要な知識を蓄える。さらに知識を実際に生かすことができるよう、子どもの日常的な遊び (例：砂遊び) に注目し、その活動独自の遊びの価値や予想される具体的な発達の姿を捉えて、小グループ毎に保護者向けのポスターを作成し、発表し合い、学生同士で学びの共有を図る。

学修目標

1. 子ども理解と発達に根差した遊びの本質や遊びの価値を理解し子どもと遊びへの考え方を深める
2. 日常的な遊びの価値に気づき、それを子どもの実際の発達につなげる援助の方法を捉える
3. 各自の中にある子ども観や保育観を耕すことで柔軟さを身に付け、新しい見方や考え方を加える

内容

この授業は内容に応じて講義、グループワーク、アクティブラーニングを組み合わせながら、学びを深めていく。

| | |
|----|--|
| 1 | 学びの環境の視点から捉える保育環境 |
| 2 | 遊びの特性と目的 |
| 3 | 保育における遊びの位置づけ |
| 4 | 遊びの理論 1 遊びの社会的ステージ (パーテン) |
| 5 | 遊びの理論 2 遊びの認知的ステージ (ピアジェ・シュラミンスキー) |
| 6 | 遊びの価値 (身体的発達・情緒的発達・社会的発達・認知的発達) とは |
| 7 | 3・4・5歳児のごっこ遊びの実践記録に見られる各年齢の遊びの楽しさと発達の姿 |
| 8 | 遊びによる発達援助 |
| 9 | 子どもの発達における戸外遊びの特別な役割 |
| 10 | 日常的な遊びの中にある遊びの価値を保護者に伝えるポスター製作 (グループワーク) 1 |
| 11 | 日常的な遊びの中にある遊びの価値を保護者に伝えるポスター製作 (グループワーク) 2 |
| 12 | 遊びの価値のポスター発表会 |
| 13 | 遊びのおもしろさ 子どもの遊びへの保育者の援助のあり方 鬼ごっこのおもしろさ |
| 14 | 鬼ごっこの種類別の遊び方・おもしろさ・育つ力・保育者の援助等に関するポスター製作 |
| 15 | 鬼ごっこのポスター製作とポスター発表会 |

評価

学修目標に関する授業時のレポート(40%)および学期末のレポート(50%)、さらに通常の授業態度(10%)により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】次回の授業に関連する資料を熟読し、分からない語句を調べる。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。毎回資料を配布する。

【推薦書】ステファニー・フィーニイ他 Who am I 研究会訳『保育学入門』ミネルヴァ書房

【参考図書】子どもと保育総合研究所森上史朗他『yaよくわかる保育原理第2版』ミネルヴァ書房

その他必要に応じて随時教室で紹介する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育臨床学 | | |
| 担当教員名 | 曾野 麻紀 | | |
| ナンバリング | KAb417 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1・2・3 に該当します。本科目は、子どもの育ちを支える保育の中で特に乳幼児の保育について追究し、専門性を深めていきます。卒業研究の土台となります。

科目の概要

乳幼児の発達について学びつつ、子どもにとってよりよい保育の環境、保育者の役割について理解を深めていきます。さまざまな課題に目を向け、実践力に繋げていくことを目的としています。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 乳幼児の発達について理解を深める。
- ・ 保育の環境と保育者の役割について理解を深める。
- ・ 今日の保育のさまざまな課題について興味、関心を深める。

内容

この授業では、講義を基本とし、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

| | |
|----|-----------------------|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 乳幼児保育の今日の課題 |
| 3 | 乳児期の発達 |
| 4 | 保育者との関係 (愛着) |
| 5 | 低年齢児の発達 |
| 6 | さまざまな環境との関わり (仲間関係) |
| 7 | 幼児期の発達と保育 3歳児 |
| 8 | 幼児期の発達と保育 4歳児 |
| 9 | 幼児期の発達と保育 5歳児 |
| 10 | 保育の環境と保育者の役割 |
| 11 | 保育の環境と保育者の役割 |
| 12 | 事例検討とグループワーク |
| 13 | 事例検討とグループワーク |
| 14 | 発表 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加度（30%）授業内容に関わるレポート（30%）学期末レポート（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最後に内容に関する質疑に対応し、理解を深められるようにする。提出されたレポートは、コメントを記載し翌週以降の授業で返却する。

授業外学習

【事前準備】乳幼児の発達過程について確認し、各年齢ごとの特徴をノート等にまとめておくこと。（各授業に対して60分程度）

【事後学修】授業内容についての復習は必須。教科書や授業で配付、紹介された資料や文献を確認し、発達や保育、保育者の役割についての気づきをノート等にまとめること。（各授業に対して60分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回の授業で指定する

【参考図書】民秋言編著「幼稚園教育要領と保育所保育指針のと幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立」萌文書林

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育実践論 | | |
| 担当教員名 | 桶田 ゆかり | | |
| ナンバリング | KAb418 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科のDP1・2・3に該当する。また、カリキュラム・ポリシーの「保育と教育」の中でも特に4に該当する。

本科目では、様々な活動を通して保育実践を検討する中で、幼児が体験し学んでいることを意識した保育の展開について学び、保育実践の望ましい在り方を理解し、実践力を身に付けることを目指す。

科目の概要

資料や画像を通して保育実践の具体的な内容を理解し、個人やグループで演習に取り組む中で、保育の楽しさや重要性、保育の展開の仕方を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 保育の具体的な内容を知り、保育の楽しさ・大切さを感じ、自ら考え実践していこうとする姿勢を身に付ける。
2. 様々な遊び・活動の中にある幼児の学びや「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し、保育実践の在り方を学ぶ。

内容

この授業は、講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、具体的に遊びや活動、園生活についての学びを深めていく。

- | | | |
|------|-----------------|------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション | 授業の概要 |
| 第2回 | 子どもの頃の遊びを思い出そう | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは |
| 第3回 | 遊びの中の学び | 運動的な遊びの中で体験していること |
| 第4回 | 遊びの中の学び | 子どもたちにとっての音楽 |
| 第5回 | グループワーク | 合奏を創ろう |
| 第6回 | 遊びの中の学び | 絵本の世界・言葉遊び |
| 第7回 | 遊びの中の学び | 表現する過程を楽しむ |
| 第8回 | グループワーク | 絵本の読み聞かせをしよう・絵本から劇を創ろう |
| 第9回 | 遊びの中の学び | 科学的な遊び・自然に関わる遊び |
| 第10回 | 幼児が作る動くおもちゃを作ろう | |
| 第11回 | 遊びや生活の中での学び | 基本的な生活習慣・安全指導 |
| 第12回 | 遊びや生活の中での学び | 園行事 |
| 第13回 | 遊びな生活の中での学び | 友達関係の発達・葛藤体験 |
| 第14回 | 保育の魅力 | 画像から学ぶ保育の楽しさ |

第15回 まとめ

評価

授業への参加度（30%）、授業時の個人やグループの課題（70%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】演習でのレポートや課題は、コメントを記載して翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】各回のキーワードについて調べまとめたり、自分でやってみたい活動を実際に探して保育の展開を考えたりする。（各授業に対して60分）

【事後学修】グループワークやディスカッションの内容を振り返り、他の学生の提案も含めてまとめ、実際の保育に生かせるようにしておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育実践論 | | |
| 担当教員名 | 近藤 有紀子 | | |
| ナンバリング | KAb418 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する

本科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、卒業研究につながる選択科目である。1・2年次での幼児教育の学びをさらに深め、専門的な知識を身につけることを目的とする。

科目の概要

「遊び」の本質・子ども理解について学ぶ。「遊び」については「遊び論」から価値や意義を考える。そこから、保育者の役割について理解を深め保育実践につなげる。また、いくつかの事例をこれまでの学びと実習での経験を基に考察する。

学修目標（＝到達目標）

1. 「遊び」の本質を理解する
2. 子どもにとっての「遊び」の価値や意義を考え、保育者の援助の方法を捉える
3. 事例考察などから、学びを共有し、思考の幅を広げる

内容

| | |
|----|-----------------|
| 1 | はじめに |
| 2 | 「遊び」について考える |
| 3 | 子どもにとっての「遊び」 |
| 4 | 「遊び論」から考える |
| 5 | 「遊び」を支えるもの |
| 6 | 子どもの「姿」 |
| 7 | 私（保育者）と子どもとの関わり |
| 8 | 私（保育者）と子どもとの関わり |
| 9 | 私（保育者）と子どもとの関わり |
| 10 | 事例を基に考える |
| 11 | 事例を基に考える |
| 12 | 事例を基に考える |
| 13 | 記録について考える |
| 14 | 記録について考える |
| 15 | まとめ |

評価

授業への取り組み30%、課題提出40%、筆記試験の達成度30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

授業外学習

【事前準備】授業に関連して提示する資料等を必ず読んでくること（各授業に対して60分）

【事後学修】授業内容の整理・まとめ・課題レポートの作成（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】授業内で紹介する

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育・教育心理学 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAd172 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針1.2.3.に主に対応する。幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムに関わる科目の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。保育とは人が人を育てることを通して自らもまた育つ営みであることを踏まえ、学習の対象を乳幼児から児童期を中心にしつつも、生涯発達の視点から胎児期から老年期まで理解する。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とから児童期、青年期の各時期における身の発達の過程と特徴、具体的には運動、言語、認知及び社会性等の特徴についての基礎的な知識を理解することを目指す。理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・教育における発達理解の意義について理解を深める。
- ・発達と学習活動を支援する基礎を学ぶための基礎的知識を身につける。

内容

講義形式ではあるが、学生自らが主体的に事前・事後学習を行うアクティブラーニングを目指す。

発達のそれぞれの時期の発達特徴と発達課題をライフサイクルの中で捉え、人間の成長・成熟の意味を問う。中心は乳幼児期となるが、親準備性という観点から青年期・成人前期も焦点を当てる。リアクションペーパーで多かった疑問や意見には授業内で教員がコメントをフィードバックする。

| | |
|----|--|
| 1 | 保育と心理学（1）：保育における実証性と保育実践 |
| 2 | 保育と心理学（2）：発達の記述から教育の規定へ・発達の独自性 |
| 3 | 子どもの発達と保育環境（1）：発達観・子ども観と保育観 |
| 4 | 子どもの発達と保育環境（2）：子どもの発達と環境 |
| 5 | 子どもの発達と保育環境（3）：社会情動的スキル・感情・自己の発達 |
| 6 | 子どもの発達と保育環境（4）：身体的機能と運動機能の発達 |
| 7 | 子どもの発達と保育環境（5）：知覚と認知の発達 |
| 8 | 子どもの発達と保育環境（6）：言葉と社会性の発達 |
| 9 | 人とのかかわりと子どもの発達（1）：人とのかかわりと子どもの発達 |
| 10 | 人とのかかわりと子どもの発達（2）：思いやりの心と道徳性の発達 |
| 11 | 学習に関する理論と生活・遊びを通しての学習（1）：学習のさまざまな理論 |
| 12 | 学習に関する理論（2）：学習の動機づけ・子どもの遊びや生活を通じた学習 |
| 13 | 生涯発達のプロセスと援助・支援（1）：生涯発達の考え方 |
| 14 | 生涯発達のプロセスと援助・支援（2）：各時期の発達の特徴と援助・支援、子育て支援 |

評価

授業への参加度（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

授業外学習

【事前予習】指定されたテキストの次回範囲をよく読み、レジユメを指定された用紙に作成してこること。約1時間から1時間半。

【事後学修】授業終了時にその日の学びの振り返りを記入したリアクションペーパーを提出する。自作レジユメや配布資料に基づいてしっかり復習し、理解しておく。約1時間。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・掘越紀香・古賀松香・丹羽さかの（編著）「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育の心理学』」（光生館,2019)

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

幼稚園教育要領(2018)など他科目の使用テキストや適宜補足プリントを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育・教育心理学 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAd172 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針1.2.3.に主に対応する。幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムに関わる科目の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。保育とは人が人を育てることを通して自らもまた育つ営みであることを踏まえ、学習の対象を乳幼児から児童期を中心にしつつも、生涯発達の視点から胎児期から老年期まで理解する。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とから児童期、青年期の各時期における身の発達の過程と特徴、具体的には運動、言語、認知及び社会性等の特徴についての基礎的な知識を理解することを目指す。理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・教育における発達理解の意義について理解を深める。
- ・発達と学習活動を支援する基礎を学ぶための基礎的知識を身につける。

内容

講義形式ではあるが、学生自らが主体的に事前・事後学習を行うアクティブラーニングを目指す。

発達のそれぞれの時期の発達特徴と発達課題をライフサイクルの中で捉え、人間の成長・成熟の意味を問う。中心は乳幼児期となるが、親準備性という観点から青年期・成人前期も焦点を当てる。リアクションペーパーで多かった疑問や意見には授業内で教員がコメントをフィードバックする。

| | |
|----|--|
| 1 | 保育と心理学（1）：保育における実証性と保育実践 |
| 2 | 保育と心理学（2）：発達の記述から教育の規定へ・発達の独自性 |
| 3 | 子どもの発達と保育環境（1）：発達観・子ども観と保育観 |
| 4 | 子どもの発達と保育環境（2）：子どもの発達と環境 |
| 5 | 子どもの発達と保育環境（3）：社会情動的スキル・感情・自己の発達 |
| 6 | 子どもの発達と保育環境（4）：身体的機能と運動機能の発達 |
| 7 | 子どもの発達と保育環境（5）：知覚と認知の発達 |
| 8 | 子どもの発達と保育環境（6）：言葉と社会性の発達 |
| 9 | 人とのかかわりと子どもの発達（1）：人とのかかわりと子どもの発達 |
| 10 | 人とのかかわりと子どもの発達（2）：思いやりの心と道徳性の発達 |
| 11 | 学習に関する理論と生活・遊びを通しての学習（1）：学習のさまざまな理論 |
| 12 | 学習に関する理論（2）：学習の動機づけ・子どもの遊びや生活を通じた学習 |
| 13 | 生涯発達のプロセスと援助・支援（1）：生涯発達の考え方 |
| 14 | 生涯発達のプロセスと援助・支援（2）：各時期の発達の特徴と援助・支援、子育て支援 |

評価

授業への参加度（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

授業外学習

【事前予習】指定されたテキストの次回範囲をよく読み、レジユメを指定された用紙に作成してこること。約1時間から1時間半。

【事後学修】授業終了時にその日の学びの振り返りを記入したリアクションペーパーを提出する。自作レジユメや配布資料に基づいてしっかり復習し、理解しておく。約1時間。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・掘越紀香・古賀松香・丹羽さかの（編著）「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育の心理学』」（光生館,2019)

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

幼稚園教育要領(2018)など他科目の使用テキストや適宜補足プリントを使用する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 生涯発達心理学 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAd174 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.3に該当する。本科目は、幼児教育学科の卒業必修科目、及び保育士資格取得の必修科目である。保育心理学での学びをふまえ、特別教育支援概論や子ども家庭支援論とも関連がある。

科目の概要

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族や家庭の意義や機能、親子関係や家族関係、子育て家庭をめぐる現代の社会状況とその課題、子どもの心の健康について理解する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 乳幼児期から老年期までの発達に関する心理学的な基礎的な知識を習得する。
2. 家族や家庭の意義及び機能について理解する。
3. 子育て家庭に関する現状と課題について理解する。
4. 子どもの心の健康とその課題について理解する。

内容

この授業は講義を基本とするが、各自事例などから考えることによって、学びを深めていく。

| | |
|----|---------------------|
| 1 | 乳幼児期の発達の特徴(1) |
| 2 | 乳幼児期の発達の特徴(2) |
| 3 | 学童期の発達の特徴 |
| 4 | 思春期から青年期の発達の特徴 |
| 5 | 成人期の発達の特徴 |
| 6 | 高齢期の発達の特徴 |
| 7 | 家族システムと家族の発達 |
| 8 | 親としての養育スタイルの形成 |
| 9 | 子育て環境の社会状況的变化 |
| 10 | ライフコースとワーク・ライフ・バランス |
| 11 | 多様な子育て家庭への支援 |
| 12 | 特別な配慮を必要とする家庭への支援 |
| 13 | 子どもを取り巻く生活環境とその影響 |
| 14 | 子どもの心の健康 |
| 15 | まとめ |

評価

毎回のレジュメ・課題が30点、期末テスト70点の合計100点満点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

【フィードバック】毎回授業の最初に前回の課題の説明を行い、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】毎回教科書の指定された個所を読み、レジュメを作成して持参する。（各授業に対して90分）

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジュメを修正・加筆する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】本郷一夫・神谷哲司編著「シードブック 子ども家庭支援の心理学」建帛社

【推薦書】授業内で紹介する

【参考図書】大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編「よくわかる子育て支援・家庭支援論」ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 生涯発達心理学 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAd174 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.3に該当する。本科目は、幼児教育学科の卒業必修科目、及び保育士資格取得の必修科目である。保育心理学での学びをふまえ、特別教育支援概論や子ども家庭支援論とも関連がある。

科目の概要

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族や家庭の意義や機能、親子関係や家族関係、子育て家庭をめぐる現代の社会状況とその課題、子どもの心の健康について理解する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 乳幼児期から老年期までの発達に関する心理学的な基礎的な知識を習得する。
2. 家族や家庭の意義及び機能について理解する。
3. 子育て家庭に関する現状と課題について理解する。
4. 子どもの心の健康とその課題について理解する。

内容

この授業は講義を基本とするが、各自事例などから考えることによって、学びを深めていく。

| | |
|----|---------------------|
| 1 | 乳幼児期の発達の特徴(1) |
| 2 | 乳幼児期の発達の特徴(2) |
| 3 | 学童期の発達の特徴 |
| 4 | 思春期から青年期の発達の特徴 |
| 5 | 成人期の発達の特徴 |
| 6 | 高齢期の発達の特徴 |
| 7 | 家族システムと家族の発達 |
| 8 | 親としての養育スタイルの形成 |
| 9 | 子育て環境の社会状況的变化 |
| 10 | ライフコースとワーク・ライフ・バランス |
| 11 | 多様な子育て家庭への支援 |
| 12 | 特別な配慮を必要とする家庭への支援 |
| 13 | 子どもを取り巻く生活環境とその影響 |
| 14 | 子どもの心の健康 |
| 15 | まとめ |

評価

毎回のレジュメ・課題が30点、期末テスト70点の合計100点満点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

【フィードバック】毎回授業の最初に前回の課題の説明を行い、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】毎回教科書の指定された個所を読み、レジュメを作成して持参する。（各授業に対して90分）

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジュメを修正・加筆する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】本郷一夫・神谷哲司編著「シードブック 子ども家庭支援の心理学」建帛社

【推薦書】授業内で紹介する

【参考図書】大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編「よくわかる子育て支援・家庭支援論」ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童保健学 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | KAf179 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1.3 に対応する

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

小児保健・母子保健の意義、統計をはじめ、母子保健行政の役割、子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。また、日常の保育の中で、子どもの健康に関する支援について理解し、健康課題に対応できるよう学習する。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 小児保健の意義が説明できる。
2. 小児保健・母子保健に関する統計が説明できる。
3. 子どもの発育・発達の特徴が説明できる。
4. 子どもの発達課題に応じた対応法について説明できる。
5. 保育所での安全管理のあり方について説明できる。

内容

この授業は講義を基本に、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 乳児・幼児の発達と反射
- 2 母子健康手帳の変遷と役割
- 3 乳児・幼児の発育と成長曲線
- 4 小児保健とは 母子保健統計
- 5 母子保健行政の流れ
- 6 乳児・幼児健診 就学時検診
- 7 乳児・幼児の栄養と消化吸収
- 8 子どもの睡眠
- 9 子どもの生活リズム
- 10 子どもにありがちな気になる行動
- 11 子どもの病的な気になる行動
- 12 子どもの環境整備 メディアリテラシー
- 13 事故と安全
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み30%と試験70%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、各自印刷するか、内容を閲覧できるタブレット・ノートパソコン等を持参する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童保健学 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | KAf179 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1.3 に対応する

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

小児保健・母子保健の意義、統計をはじめ、母子保健行政の役割、子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。また、日常の保育の中で、子どもの健康に関する支援について理解し、健康課題に対応できるよう学習する。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 小児保健の意義が説明できる。
2. 小児保健・母子保健に関する統計が説明できる。
3. 子どもの発育・発達の特徴が説明できる。
4. 子どもの発達課題に応じた対応法について説明できる。
5. 保育所での安全管理のあり方について説明できる。

内容

この授業は講義を基本に、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 乳児・幼児の発達と反射
- 2 母子健康手帳の変遷と役割
- 3 乳児・幼児の発育と成長曲線
- 4 小児保健とは 母子保健統計
- 5 母子保健行政の流れ
- 6 乳児・幼児健診 就学時検診
- 7 乳児・幼児の栄養と消化吸収
- 8 子どもの睡眠
- 9 子どもの生活リズム
- 10 子どもにありがちな気になる行動
- 11 子どもの病的な気になる行動
- 12 子どもの環境整備 メディアリテラシー
- 13 事故と安全
- 14 復習

評価

授業への取り組み30%と試験70%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。(各授業に対して30分)

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。(各授業に対して30分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、各自印刷するか、内容を閲覧できるタブレット・ノートパソコン等を持参する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容総論 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | KAc319 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園において、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養う。これまでの各授業や実習を振り返り、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表する。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

この授業は演習であり、6～8人のグループを作り、グループ毎に幼稚園を設計し発表する。仲間と討議し、作業を分担してすすめていくグループワークが基本であり、主体的な参加が必須である。

| | |
|----|--|
| 1 | 保育内容とは何か |
| 2 | グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定 |
| 3 | 教育方針の設定 |
| 4 | 園舎・園庭の設計 (安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮) |
| 5 | 保育内容の吟味 (子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える) |
| 6 | 幼稚園の特長・特色の明確化 |
| 7 | グループごとの発表1回目 (園の教育方針や園舎、園環境の特徴について) 質疑応答 |
| 8 | グループごとの発表2回目 |
| 9 | グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討 |
| 10 | 園の特性を生かした保育内容の具体化 (地域特性を反映した取り組みなど) |
| 11 | 保育内容にもとづいた教育課程 / 指導計画 (週案・日案) / 行事計画等の作成 |
| 12 | グループごとの発表1回目 (園のパンフレットを作成し、役割を決めて入園説明会を開く) |
| 13 | グループごとの発表2回目 |
| 14 | まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える |
| 15 | 各領域の関係性を考える |

評価

授業への参加態度 (20%)、グループ活動への取組みの姿勢とプレゼン内容 (20%)、グループ活動による作成資料の

提出（30%）、学期末のレポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】グループワークによる成果物は発表時にコメント，評価する。期末課題は、後日クラス全体へのコメントを行い、返却する。

授業外学習

【事前予習】1～2時間。幼稚園・保育所をグループでデザインしていく上での必要事項を調べてくる（教育要領や保育指針だけでなく、設置市町村の基本情報など）。

【事後学修】1～2時間。その時間に行った討議や作業を踏まえて次週に行う作業をグループ内で確認し、分担して準備、検索などを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

（他、必要に応じてプリント資料配布）

【参考書】『最新保育資料集』ミネルヴァ書房

適宜、紹介する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容総論 | | |
| 担当教員名 | 横井 紘子 | | |
| ナンバリング | KAc319 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園において、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養う。これまでの各授業や実習を振り返り、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表する。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

この授業は演習であり、6～8人のグループを作り、グループ毎に幼稚園を設計し発表する。仲間と討議し、作業を分担してすすめていくグループワークが基本であり、主体的な参加が必須である。

| | |
|----|--|
| 1 | 保育内容とは何か |
| 2 | グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定 |
| 3 | 教育方針の設定 |
| 4 | 園舎・園庭の設計 (安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮) |
| 5 | 保育内容の吟味 (子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える) |
| 6 | 幼稚園の特長・特色の明確化 |
| 7 | グループごとの発表1回目 (園の教育方針や園舎、園環境の特徴について) 質疑応答 |
| 8 | グループごとの発表2回目 |
| 9 | グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討 |
| 10 | 園の特性を生かした保育内容の具体化 (地域特性を反映した取り組みなど) |
| 11 | 保育内容にもとづいた教育課程 / 指導計画 (週案・日案) / 行事計画等の作成 |
| 12 | グループごとの発表1回目 (園のパンフレットを作成し、役割を決めて入園説明会を開く) |
| 13 | グループごとの発表2回目 |
| 14 | まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える |
| 15 | 各領域の関係性を考える |

評価

授業への参加態度 (20%)、グループ活動への取組みの姿勢とプレゼン内容 (20%)、グループ活動による作成資料の

提出（30%）、学期末のレポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】グループワークによる成果物は発表時にコメント，評価する。期末課題は、後日クラス全体へのコメントを行い、返却する。

授業外学習

【事前予習】1～2時間。幼稚園・保育所をグループでデザインしていく上での必要事項を調べてくる（教育要領や保育指針だけでなく、設置市町村の基本情報など）。

【事後学修】1～2時間。その時間に行った討議や作業を踏まえて次週に行う作業をグループ内で確認し、分担して準備、検索などを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

（他、必要に応じてプリント資料配布）

【参考書】『最新保育資料集』ミネルヴァ書房

適宜、紹介する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容総論 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | KAc319 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園において、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養う。これまでの各授業や実習を振り返り、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表する。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

この授業は演習であり、6～8人のグループを作り、グループ毎に幼稚園を設計し発表する。仲間と討議し、作業を分担してすすめていくグループワークが基本であり、主体的な参加が必須である。

| | |
|----|--|
| 1 | 保育内容とは何か |
| 2 | グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定 |
| 3 | 教育方針の設定 |
| 4 | 園舎・園庭の設計 (安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮) |
| 5 | 保育内容の吟味 (子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える) |
| 6 | 幼稚園の特長・特色の明確化 |
| 7 | グループごとの発表1回目 (園の教育方針や園舎、園環境の特徴について) 質疑応答 |
| 8 | グループごとの発表2回目 |
| 9 | グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討 |
| 10 | 園の特性を生かした保育内容の具体化 (地域特性を反映した取り組みなど) |
| 11 | 保育内容にもとづいた教育課程/指導計画 (週案・日案) / 行事計画等の作成 |
| 12 | グループごとの発表1回目 (園のパンフレットを作成し、役割を決めて入園説明会を開く) |
| 13 | グループごとの発表2回目 |
| 14 | まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える |
| 15 | 各領域の関係性を考える |

評価

授業への参加態度 (20%)、グループ活動への取組みの姿勢とプレゼン内容 (20%)、グループ活動による作成資料の

提出（30%）、学期末のレポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】グループワークによる成果物は発表時にコメント，評価する。期末課題は、後日クラス全体へのコメントを行い、返却する。

授業外学習

【事前予習】1～2時間。幼稚園・保育所をグループでデザインしていく上での必要事項を調べてくる（教育要領や保育指針だけでなく、設置市町村の基本情報など）。

【事後学修】1～2時間。その時間に行った討議や作業を踏まえて次週に行う作業をグループ内で確認し、分担して準備、検索などを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

（他、必要に応じてプリント資料配布）

【参考書】『最新保育資料集』ミネルヴァ書房

適宜、紹介する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容総論 | | |
| 担当教員名 | 横井 紘子 | | |
| ナンバリング | KAc319 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園において、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養う。これまでの各授業や実習を振り返り、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表する。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

この授業は演習であり、6～8人のグループを作り、グループ毎に幼稚園を設計し発表する。仲間と討議し、作業を分担してすすめていくグループワークが基本であり、主体的な参加が必須である。

| | |
|----|--|
| 1 | 保育内容とは何か |
| 2 | グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定 |
| 3 | 教育方針の設定 |
| 4 | 園舎・園庭の設計 (安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮) |
| 5 | 保育内容の吟味 (子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える) |
| 6 | 幼稚園の特長・特色の明確化 |
| 7 | グループごとの発表1回目 (園の教育方針や園舎、園環境の特徴について) 質疑応答 |
| 8 | グループごとの発表2回目 |
| 9 | グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討 |
| 10 | 園の特性を生かした保育内容の具体化 (地域特性を反映した取り組みなど) |
| 11 | 保育内容にもとづいた教育課程 / 指導計画 (週案・日案) / 行事計画等の作成 |
| 12 | グループごとの発表1回目 (園のパンフレットを作成し、役割を決めて入園説明会を開く) |
| 13 | グループごとの発表2回目 |
| 14 | まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える |
| 15 | 各領域の関係性を考える |

評価

授業への参加態度 (20%)、グループ活動への取組みの姿勢とプレゼン内容 (20%)、グループ活動による作成資料の

提出（30%）、学期末のレポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】グループワークによる成果物は発表時にコメント，評価する。期末課題は、後日クラス全体へのコメントを行い、返却する。

授業外学習

【事前予習】1～2時間。幼稚園・保育所をグループでデザインしていく上での必要事項を調べてくる（教育要領や保育指針だけでなく、設置市町村の基本情報など）。

【事後学修】1～2時間。その時間に行った討議や作業を踏まえて次週に行う作業をグループ内で確認し、分担して準備、検索などを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

（他、必要に応じてプリント資料配布）

【参考書】『最新保育資料集』ミネルヴァ書房

適宜、紹介する

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（健康） | | |
| 担当教員名 | 鈴木 康弘 | | |
| ナンバリング | KAc220 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学びます。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目です。幼児教育学科学位授与方針の1.2.3に該当します。

科目の概要

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していきます。さらに、生活リズムや基本的な生活習慣を身につけること、安全に生活することが健康的な生活の基盤となっていることを理解し、現状と課題、援助の方法についても探究していきます。

学修目標

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身につける。

内容

| | |
|----|--------------------------------------|
| 1 | 領域「健康」とは何か 遊びを中心とした保育と領域「健康」 |
| 2 | 領域「健康」のねらいと内容 |
| 3 | 内容の取り扱い（指導上、特に留意すべき事項について） |
| 4 | 子どもの生活リズム・生活習慣 |
| 5 | 子どもをめぐる食の現状と課題 |
| 6 | 食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク） |
| 7 | 食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の確認（グループワーク） |
| 8 | 食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の修正（グループワーク） |
| 9 | 食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の発表準備（グループワーク） |
| 10 | 食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の発表（グループワーク） |
| 11 | 子どもの身体の発達 |
| 12 | 子どもの運動能力の発達 |
| 13 | 安全への配慮 （リスクとハザード） |
| 14 | 安全への配慮 （事故の予防と応急処置） |
| 15 | 授業のまとめ |

評価

評価は、授業への取り組み（20点）、授業での課題（指導計画の立案・修正・発表 30点）及び期末試験（50点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

【フィードバック】 授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】 各回の授業内容と対応している教科書の部分を読んでおく。

【事後学修】 授業内容を振り返り、まとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 河邊貴子編，保育内容 健康，建帛社。

【参考書】 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領、保育所保育指針

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（健康） | | |
| 担当教員名 | 鈴木 康弘 | | |
| ナンバリング | KAc220 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学びます。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目です。幼児教育学科学位授与方針の1.2.3に該当します。

科目の概要

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していきます。さらに、生活リズムや基本的な生活習慣を身につけること、安全に生活することが健康的な生活の基盤となっていることを理解し、現状と課題、援助の方法についても探究していきます。

学修目標

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身につける。

| 内容 | |
|----|--------------------------------------|
| 1 | 領域「健康」とは何か 遊びを中心とした保育と領域「健康」 |
| 2 | 領域「健康」のねらいと内容 |
| 3 | 内容の取り扱い（指導上、特に留意すべき事項について） |
| 4 | 子どもの生活リズム・生活習慣 |
| 5 | 子どもをめぐる食の現状と課題 |
| 6 | 食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク） |
| 7 | 食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の確認（グループワーク） |
| 8 | 食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の修正（グループワーク） |
| 9 | 食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の発表準備（グループワーク） |
| 10 | 食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の発表（グループワーク） |
| 11 | 子どもの身体の発達 |
| 12 | 子どもの運動能力の発達 |
| 13 | 安全への配慮 （リスクとハザード） |
| 14 | 安全への配慮 （事故の予防と応急処置） |
| 15 | 授業のまとめ |

評価

評価は、授業への取り組み（20点）、授業での課題（指導計画の立案・修正・発表 30点）及び期末試験（50点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

【フィードバック】 授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】各回の授業内容と対応している教科書の部分を読んでおく。

【事後学修】授業内容を振り返り、まとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】河邊貴子編，保育内容 健康，建帛社。

【参考書】幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領、保育所保育指針

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（健康） | | |
| 担当教員名 | 横井 絃子 | | |
| ナンバリング | KAc220 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Cクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目である。幼児教育学科の学位授与方針の1.2.3に該当する。

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していく。

保育者として乳幼児の生活や遊びを理解していく基盤となる知識や態度を獲得していく意識をもって学修すること。保育内容の領域「健康」のねらいを理解し、それぞれの内容についての基本的知識を身につけることを通し、「健康」の視点から子ども理解を深めること、保育者の役割を捉えて保育を構想する力を身につけることが目標である。

内容

この授業は各回の内容に応じて、講義とともに、グループワークやプレゼンテーション、模擬保育や事例検討を取り入れ、演習形式で学びを深めていく。

| | | |
|----|-----------------|---------------------------------|
| 1 | 領域「健康」とは何か | 健康の定義を探る |
| 2 | 領域「健康」とは何か | 領域「健康」の歴史的変遷 小テスト |
| 3 | 心の安定と園生活 | 入園期の子どもの不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは |
| 4 | 心の安定と園生活 | 不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携 |
| 5 | 身体機能の発達と遊び | 発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き |
| 6 | 身体機能の発達と遊び | 自然との触れ合い / 戸外での遊び 小テスト |
| 7 | 身体機能の発達と遊び | 遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助 |
| 8 | 生活リズム・生活習慣 | 子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達 |
| 9 | 生活リズム・生活習慣 | 園における援助のあり方 / 家庭との連続性 小テスト |
| 10 | 食生活と健康 | 食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育 |
| 11 | 食生活と健康 | 食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク） |
| 12 | 食生活と健康 | 指導計画の発表 |
| 13 | 生活の場としての幼稚園・保育所 | 子どもが自ら生活の場を整えること |
| 14 | 安全管理と健康管理 | 園生活で起こる事故とその対応 / リスクとハザード |
| 15 | まとめ | 安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識 期末レポート |

評価

平常点20点 小テスト40点 期末レポート40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーは翌週の授業以降にコメントをつけて返していく

授業外学習

【事前準備】幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説その他資料の関連ページをその都度指示するので、読み、自分

なりに内容を理解したうえで授業に臨むこと。(各授業に対して40分)

【事後学修】配布するプリントを復習すると同時に、授業内容に関する新聞記事やニュースなどから、日常的に授業内容を自ら深める努力をすること。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

厚生労働省編 『保育所保育指針解説』 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館

(他に毎回プリント資料を配布します)

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（健康） | | |
| 担当教員名 | 横井 絃子 | | |
| ナンバリング | KAc220 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目である。幼児教育学科の学位授与方針の1.2.3に該当する。

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していく。

保育者として乳幼児の生活や遊びを理解していく基盤となる知識や態度を獲得していく意識をもって学修すること。保育内容の領域「健康」のねらいを理解し、それぞれの内容についての基本的知識を身につけることを通し、「健康」の視点から子ども理解を深めること、保育者の役割を捉えて保育を構想する力を身につけることが目標である。

内容

この授業は各回の内容に応じて、講義とともに、グループワークやプレゼンテーション、模擬保育や事例検討を取り入れ、演習形式で学びを深めていく。

| | | |
|----|-----------------|---------------------------------|
| 1 | 領域「健康」とは何か | 健康の定義を探る |
| 2 | 領域「健康」とは何か | 領域「健康」の歴史的変遷 小テスト |
| 3 | 心の安定と園生活 | 入園期の子どもの不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは |
| 4 | 心の安定と園生活 | 不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携 |
| 5 | 身体機能の発達と遊び | 発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き |
| 6 | 身体機能の発達と遊び | 自然との触れ合い / 戸外での遊び 小テスト |
| 7 | 身体機能の発達と遊び | 遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助 |
| 8 | 生活リズム・生活習慣 | 子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達 |
| 9 | 生活リズム・生活習慣 | 園における援助のあり方 / 家庭との連続性 小テスト |
| 10 | 食生活と健康 | 食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育 |
| 11 | 食生活と健康 | 食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク） |
| 12 | 食生活と健康 | 指導計画の発表 |
| 13 | 生活の場としての幼稚園・保育所 | 子どもが自ら生活の場を整えること |
| 14 | 安全管理と健康管理 | 園生活で起こる事故とその対応 / リスクとハザード |
| 15 | まとめ | 安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識 期末レポート |

評価

平常点20点 小テスト40点 期末レポート40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーは翌週の授業にコメントをつけて返していく

授業外学習

【事前準備】幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説その他資料の関連ページをその都度指示するので、読み、自分

なりに内容を理解したうえで授業に臨むこと。(各授業に対して40分)

【事後学修】配布するプリントを復習すると同時に、授業内容に関する新聞記事やニュースなどから、日常的に授業内容を自ら深める努力をすること。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

厚生労働省編 『保育所保育指針解説』 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館

(他に毎回プリント資料を配布します)

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（環境） | | |
| 担当教員名 | 曾野 麻紀 | | |
| ナンバリング | KAc221 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1・2・3に該当する。

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や学び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育を「環境」という視点から捉え、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出していくか、子どもの発達過程と一人ひとりの理解を深めながら、季節や状況に応じた援助や保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

1. 保育における「環境」という視点を通して、乳幼児と環境との関わりやその育ちを理解する
2. 保育の環境（「ひと」「もの」を含む）の具体的な活動を考え、計画できるようになる。
3. 「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を学ぶ。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深める。さらに、保育における総合的指導の理解を目的として、教室外での実践演習を行うことがある。

| | |
|----|-------------------------|
| 1 | 保育における「環境」とは |
| 2 | 子どもの育ちと環境に関わる力 |
| 3 | 子どもの育ちと環境に関わる力 |
| 4 | 領域「環境」内容の変遷 |
| 5 | 自然や季節との関わり 周囲の自然に気付く |
| 6 | 自然や季節との関わり 四季と保育 |
| 7 | 生き物との関わり |
| 8 | 物や道具との関わり 物や道具の意味と使い方 |
| 9 | 物や道具との関わり 物や道具を利用した保育実践 |
| 10 | 文字や標識、数量や図形との関わり |
| 11 | 地域社会や文化との関わり |
| 12 | 子どもが主体的に関わる環境構成を計画する |
| 13 | 計画した環境構成の振り返りと再構成 |
| 14 | 環境への関わりを促す保育者の役割 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加度（30%）、授業実践に関わるレポート（40%）、筆記試験（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最後に内容に関する質疑に対応し、理解を深められるようにする。提出されたレポートはコメ

ントを記載し、翌週以降の授業で全体講評とともに返却する。

授業外学習

【事前準備】幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」に示されるねらいと内容について、具体的な子どもの生活や保育活動と結び付けて考え、ノート等にまとめる。（各授業に対して60分程度）

【事後学修】授業内容についての復習は必須。授業内で配布、紹介された資料や文献、授業実践を踏まえた保育活動を具体的にイメージし、ノート等にまとめておく。（各授業に対して60分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「環境」無藤隆・福元真由美 編 萌文書林

【参考図書】 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館

「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（環境） | | |
| 担当教員名 | 曾野 麻紀 | | |
| ナンバリング | KAc221 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1・2・3に該当する。

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や学び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育を「環境」という視点から捉え、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出していくか、子どもの発達過程と一人ひとりの理解を深めながら、季節や状況に応じた援助や保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

1. 保育における「環境」という視点を通して、乳幼児と環境との関わりやその育ちを理解する
2. 保育の環境（「ひと」「もの」を含む）の具体的な活動を考え、計画できるようになる。
3. 「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を学ぶ。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深める。さらに、保育における総合的指導の理解を目的として、教室外での実践演習を行うことがある。

| | |
|----|-------------------------|
| 1 | 保育における「環境」とは |
| 2 | 子どもの育ちと環境に関わる力 |
| 3 | 子どもの育ちと環境に関わる力 |
| 4 | 領域「環境」内容の変遷 |
| 5 | 自然や季節との関わり 周囲の自然に気付く |
| 6 | 自然や季節との関わり 四季と保育 |
| 7 | 生き物との関わり |
| 8 | 物や道具との関わり 物や道具の意味と使い方 |
| 9 | 物や道具との関わり 物や道具を利用した保育実践 |
| 10 | 文字や標識、数量や図形との関わり |
| 11 | 地域社会や文化との関わり |
| 12 | 子どもが主体的に関わる環境構成を計画する |
| 13 | 計画した環境構成の振り返りと再構成 |
| 14 | 環境への関わりを促す保育者の役割 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加度（30%）、授業実践に関わるレポート（40%）、筆記試験（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最後に内容に関する質疑に対応し、理解を深められるようにする。提出されたレポートはコメ

ントを記載し、翌週以降の授業で全体講評とともに返却する。

授業外学習

【事前準備】幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」に示されるねらいと内容について、具体的な子どもの生活や保育活動と結び付けて考え、ノート等にまとめる。（各授業に対して60分程度）

【事後学修】授業内容についての復習は必須。授業内で配布、紹介された資料や文献、授業実践を踏まえた保育活動を具体的にイメージし、ノート等にまとめておく。（各授業に対して60分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「環境」無藤隆・福元真由美 編 萌文書林

【参考図書】 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館

「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（環境） | | |
| 担当教員名 | 曾野 麻紀 | | |
| ナンバリング | KAc221 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1・2・3に該当する。

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や学び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育を「環境」という視点から捉え、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出していくか、子どもの発達過程と一人ひとりの理解を深めながら、季節や状況に応じた援助や保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

1. 保育における「環境」という視点を通して、乳幼児と環境との関わりやその育ちを理解する
2. 保育の環境（「ひと」「もの」を含む）の具体的な活動を考え、計画できるようになる。
3. 「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を学ぶ。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深める。さらに、保育における総合的指導の理解を目的として、教室外での実践演習を行うことがある。

| | |
|----|-------------------------|
| 1 | 保育における「環境」とは |
| 2 | 子どもの育ちと環境に関わる力 |
| 3 | 子どもの育ちと環境に関わる力 |
| 4 | 領域「環境」内容の変遷 |
| 5 | 自然や季節との関わり 周囲の自然に気付く |
| 6 | 自然や季節との関わり 四季と保育 |
| 7 | 生き物との関わり |
| 8 | 物や道具との関わり 物や道具の意味と使い方 |
| 9 | 物や道具との関わり 物や道具を利用した保育実践 |
| 10 | 文字や標識、数量や図形との関わり |
| 11 | 地域社会や文化との関わり |
| 12 | 子どもが主体的に関わる環境構成を計画する |
| 13 | 計画した環境構成の振り返りと再構成 |
| 14 | 環境への関わりを促す保育者の役割 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加度（30%）、授業実践に関わるレポート（40%）、筆記試験（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最後に内容に関する質疑に対応し、理解を深められるようにする。提出されたレポートはコメ

ントを記載し、翌週以降の授業で全体講評とともに返却する。

授業外学習

【事前準備】幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」に示されるねらいと内容について、具体的な子どもの生活や保育活動と結び付けて考え、ノート等にまとめる。（各授業に対して60分程度）

【事後学修】授業内容についての復習は必須。授業内で配布、紹介された資料や文献、授業実践を踏まえた保育活動を具体的にイメージし、ノート等にまとめておく。（各授業に対して60分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「環境」無藤隆・福元真由美 編 萌文書林

【参考図書】 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館

「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（環境） | | |
| 担当教員名 | 曾野 麻紀 | | |
| ナンバリング | KAc221 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1・2・3に該当する。

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や学び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育を「環境」という視点から捉え、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出していくか、子どもの発達過程と一人ひとりの理解を深めながら、季節や状況に応じた援助や保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

1. 保育における「環境」という視点を通して、乳幼児と環境との関わりやその育ちを理解する
2. 保育の環境（「ひと」「もの」を含む）の具体的な活動を考え、計画できるようになる。
3. 「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を学ぶ。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深める。さらに、保育における総合的指導の理解を目的として、教室外での実践演習を行うことがある。

| | |
|----|-------------------------|
| 1 | 保育における「環境」とは |
| 2 | 子どもの育ちと環境に関わる力 |
| 3 | 子どもの育ちと環境に関わる力 |
| 4 | 領域「環境」内容の変遷 |
| 5 | 自然や季節との関わり 周囲の自然に気付く |
| 6 | 自然や季節との関わり 四季と保育 |
| 7 | 生き物との関わり |
| 8 | 物や道具との関わり 物や道具の意味と使い方 |
| 9 | 物や道具との関わり 物や道具を利用した保育実践 |
| 10 | 文字や標識、数量や図形との関わり |
| 11 | 地域社会や文化との関わり |
| 12 | 子どもが主体的に関わる環境構成を計画する |
| 13 | 計画した環境構成の振り返りと再構成 |
| 14 | 環境への関わりを促す保育者の役割 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加度（30%）、授業実践に関わるレポート（40%）、筆記試験（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最後に内容に関する質疑に対応し、理解を深められるようにする。提出されたレポートはコメ

ントを記載し、翌週以降の授業で全体講評とともに返却する。

授業外学習

【事前準備】幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」に示されるねらいと内容について、具体的な子どもの生活や保育活動と結び付けて考え、ノート等にまとめる。（各授業に対して60分程度）

【事後学修】授業内容についての復習は必須。授業内で配布、紹介された資料や文献、授業実践を踏まえた保育活動を具体的にイメージし、ノート等にまとめておく。（各授業に対して60分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「環境」無藤隆・福元真由美 編 萌文書林

【参考図書】 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館

「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|----------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（人間関係） | | |
| 担当教員名 | 山田 陽子 | | |
| ナンバリング | KAc322 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は、幼稚園教諭1種免許状及び保育士資格を取得する上での必修科目である。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における、人との関わりに関する領域「人間関係」について学ぶ。

科目の概要

領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達特質をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育者の姿勢、援助のあり方を、具体的な事例を通して学ぶ。

学修目標

1. 領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的知識を身につける。
2. 乳幼児期の人間関係の発達の過程を理解し、ふさわしい援助のあり方を学ぶ。
3. 子どもと保育者の信頼関係の重要性理解し、保育者の役割を考え身につける。

内容

この授業は内容に応じて講義、グループワーク、アクティブラーニングを組み合わせながら学びを深めていく。

| | |
|----|--|
| 1 | 人との関わりに関する領域「人間関係」とは |
| 2 | 「幼稚園教育要領」等の3法令における領域「人間関係」の理解を深める |
| 3 | 家庭での育ち 乳児期を中心に |
| 4 | 0～3歳未満児の保育者と信頼関係を基盤にした育ち 関わりが始まり |
| 5 | 0～3歳未満児の保育者と信頼関係を基盤にした育ち 通じ合うことの始まり |
| 6 | 3歳児の人間関係と保育者の援助 3歳児の世界 |
| 7 | 3歳児の人間関係と保育者の援助 ゆっくりと関係を深める |
| 8 | 4歳児の人間関係と保育者の援助 4歳児の世界 |
| 9 | 4歳児の人間関係と保育者の援助 子ども同士の関係性を考える |
| 10 | 5歳児の人間関係と保育者の援助 5歳児の世界 |
| 11 | 5歳児の人間関係と保育者の援助 友だち同士の目的をもって協同する |
| 12 | 仲間関係を育む過程での保育者の援助 |
| 13 | 子ども理解と協同性を育むための保育者の役割 |
| 14 | 地域の人々など様々な人とかかわる生活の場としての幼稚園、保育所、認定こども園 |
| 15 | まとめ |

評価

授業参加度及び態度（40%）、提出課題及び期末レポート（60%）を総合して評価を行い、総合評価60点以上を合格とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

授業外学習

【事前準備】

次回の授業に関連する教科書を熟読し、分からない語句を調べる。（各授業に対して60分）

【事後学修】

授業ノートをもとに内容の振り返りをおして、知識を身に付ける（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

友定啓子・小田豊編著 新保育シリーズ「保育内容 人間関係」光生館

【参考図書】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|----------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（人間関係） | | |
| 担当教員名 | 山田 陽子 | | |
| ナンバリング | KAc322 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1. 2. 3 に該当する。

本科目は、幼稚園教諭 1 種免許状及び保育士資格を取得する上での必修科目である。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における、人との関わりに関する領域「人間関係」について学ぶ。

科目の概要

領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達特質をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育者の姿勢、援助のあり方を、具体的な事例を通して学ぶ。

学修目標

1. 領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的知識を身につける。
2. 乳幼児期の人間関係の発達の過程を理解し、ふさわしい援助のあり方を学ぶ。
3. 子どもと保育者の信頼関係の重要性理解し、保育者の役割を考え身につける。

内容

この授業は内容に応じて講義、グループワーク、アクティブラーニングを組み合わせながら学びを深めていく。

| | |
|----|--|
| 1 | 人との関わりに関する領域「人間関係」とは |
| 2 | 「幼稚園教育要領」等の3法令における領域「人間関係」の理解を深める |
| 3 | 家庭での育ち 乳児期を中心に |
| 4 | 0～3歳未満児の保育者と信頼関係を基盤にした育ち 関わりが始まり |
| 5 | 0～3歳未満児の保育者と信頼関係を基盤にした育ち 通じ合うことの始まり |
| 6 | 3歳児の人間関係と保育者の援助 3歳児の世界 |
| 7 | 3歳児の人間関係と保育者の援助 ゆっくりと関係を深める |
| 8 | 4歳児の人間関係と保育者の援助 4歳児の世界 |
| 9 | 4歳児の人間関係と保育者の援助 子ども同士の関係性を考える |
| 10 | 5歳児の人間関係と保育者の援助 5歳児の世界 |
| 11 | 5歳児の人間関係と保育者の援助 友だち同士の目的をもって協同する |
| 12 | 仲間関係を育む過程での保育者の援助 |
| 13 | 子ども理解と協同性を育むための保育者の役割 |
| 14 | 地域の人々など様々な人とかかわる生活の場としての幼稚園、保育所、認定こども園 |
| 15 | まとめ |

評価

授業参加度及び態度（40%）、提出課題及び期末レポート（60%）を総合して評価を行い、総合評価60点以上を合格とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

授業外学習

【事前準備】

次回の授業に関連する教科書を熟読し、分からない語句を調べる。（各授業に対して60分）

【事後学修】

授業ノートをもとに内容の振り返りをおして、知識を身に付ける（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

友定啓子・小田豊編著 新保育シリーズ「保育内容 人間関係」光生館

【参考図書】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（人間関係） | | |
| 担当教員名 | 近藤 有紀子 | | |
| ナンバリング | KAc322 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 10クラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1,2,3に該当する。

本科目は、幼稚園教諭1種免許状及び保育士資格を取得する上での必修科目である。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における、人との関わりに関する領域「人間関係」について学ぶ。

科目の概要

領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特質をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育者の姿勢、援助のあり方を、具体的な事例を通して学ぶ。

学修目標

- ・領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的知識を身につける。
- ・乳幼児期の人間関係の発達の過程を理解し、ふさわしい援助のあり方を学ぶ。
- ・子どもと保育者の信頼関係の重要性を理解し、保育者の役割を考え身につける。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

| | |
|----|--|
| 1 | 人との関わりに関する領域「人間関係」とは |
| 2 | 幼稚園教育要領等の3法令における領域「人間関係」の理解を深める |
| 3 | 家庭での育ち 乳児期を中心に |
| 4 | 0～3歳未満児の保育者との信頼関係を基盤にした育ち 関わりの始まり |
| 5 | 0～3歳未満児の保育者との信頼関係を基盤にした育ち 通じ合うことの始まり |
| 6 | 3歳児の人間関係と保育者の援助 3歳児の世界 |
| 7 | 3歳児の人間関係と保育者の援助 ゆっくりと関係を深める |
| 8 | 4歳児の人間関係と保育者の援助 4歳児の世界 |
| 9 | 4歳児の人間関係と保育者の援助 子ども同士の関係性を考える |
| 10 | 5歳児の人間関係と保育者の援助 5歳児の世界 |
| 11 | 5歳児の人間関係と保育者の援助 友だち同士で目的をもって協同する |
| 12 | 仲間関係を育む過程での保育者の援助 |
| 13 | 子ども理解と協同性を育むための保育者の役割 |
| 14 | 地域の人々など様々な人とかかわる生活の場としての幼稚園、保育所、認定こども園 |
| 15 | まとめ |

評価

授業参加及び態度（40％）、提出課題及び期末レポート（60％）を総合して評価を行い、総合評価60点以上を合格とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

【フィードバック】提出された課題等は、コメントを記載し適宜返却する。

授業外学習

【事前準備】

次回の授業に関連する教科書の部分をよく読み、準備をしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】

授業ノートをもとにその日の内容を振り返り、深めておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

友定啓子・小田豊編著 新保育シリーズ「保育内容 人間関係」光生館

【参考図書】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（人間関係） | | |
| 担当教員名 | 近藤 有紀子 | | |
| ナンバリング | KAc322 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1,2,3に該当する。

本科目は、幼稚園教諭1種免許状及び保育士資格を取得する上での必修科目である。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における、人との関わりに関する領域「人間関係」について学ぶ。

科目の概要

領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特質をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育者の姿勢、援助のあり方を、具体的な事例を通して学ぶ。

学修目標

- ・領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的知識を身につける。
- ・乳幼児期の人間関係の過程を理解し、ふさわしい援助のあり方を学ぶ。
- ・子どもと保育者の信頼関係の重要性を理解し、保育者の役割を考え、身につける。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、を取り入れながら、学びを深めていく。

| | |
|----|--|
| 1 | 人との関わりに関する領域「人間関係」とは |
| 2 | 幼稚園教育要領等の3法令における領域「人間関係」の理解を深める |
| 3 | 家庭での育ち 乳児期を中心に |
| 4 | 0～3歳未満児の保育者との信頼関係を基盤にした育ち 関わりの始まり |
| 5 | 0～3歳未満児の保育者との信頼関係を基盤にした育ち 通じ合うことの始まり |
| 6 | 3歳児の人間関係と保育者の援助 3歳児の世界 |
| 7 | 3歳児の人間関係と保育者の援助 ゆっくりと関係を深める |
| 8 | 4歳児の人間関係と保育者の援助 4歳児の世界 |
| 9 | 4歳児の人間関係と保育者の援助 子ども同士の関係性を考える |
| 10 | 5歳児の人間関係と保育者の援助 5歳児の世界 |
| 11 | 5歳児の人間関係と保育者の援助 友だち同士で目的をもって協同する |
| 12 | 仲間関係を育む過程での保育者の援助 |
| 13 | 子ども理解と協同性を育むための保育者の役割 |
| 14 | 地域の人々など様々な人とかかわる生活の場としての幼稚園、保育所、認定こども園 |
| 15 | まとめ |

評価

授業参加及び態度（40%）、提出課題及び期末レポート（60%）を総合して評価を行い、総合評価60点以上を合格とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

【フィードバック】提出された課題等は、コメントを記載し適宜返却する。

授業外学習

【事前準備】

次回の授業に関連する教科書の部分をよく読み、準備をしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】

授業ノートをもとにその日の内容を振り返り、深めておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

友定啓子・小田豊編著 新保育シリーズ「保育内容 人間関係」光生館

【参考図書】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|----------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（言葉） | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | KAc323 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

発達理解、保育援助、教材研究、自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。子どもを受容し安心感を育てる言葉かけ、遊びの発展を促す言葉かけ、気持ちや考えを友だちに伝えたり聞こうとする態度を育てる言葉かけなどの保育援助を考える。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。文化の作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

この授業は演習であり、作品の作成と鑑賞、模擬保育、教材研究などを通して、リアリティのある学びを目指す。グループワークや発表の機会が多くもたれるので、主体的な参加が求められる。

| | |
|----|---|
| 1 | コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解 |
| 2 | 子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解 |
| 3 | 十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句 |
| 4 | 実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式 |
| 5 | 遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話 |
| 6 | - 1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）模擬保育 |
| 7 | - 2保育者の言葉と援助（映像による学習） |
| 8 | 文化財としての絵本と紙芝居、他の伝達媒体の役割と活用（情報機器の活用を含む） / 教材研究 |
| 9 | 文化財としての絵本と紙芝居 / 指導計画の作成（情報機器の特性に応じた活用方法） |
| 10 | 文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせ場面など児童文化財を活かした実践場面の模擬保育 |
| 11 | 言葉遊び・劇遊びの体験 / 言葉の楽しさや美しさに対する感覚 |
| 12 | 領域「言葉」の変遷と現代的課題 |
| 13 | 文字・数・記号の獲得と保育 |
| 14 | 気になる言葉の遅れや問題 |
| 15 | 絵本作りと合評 |

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業課題は、次週以降にそれを活用した授業を行い、解説し返却する。作品は、合評会を行い鑑賞後返却する。

授業外学習

【事前予習】 発達理解、教材研究、保育援助、言葉に対する感性を磨くの4つのテーマに基づく各回の授業に必要な事項（例：乳幼児期の言語発達、教師の役割）を1・2年次の学習をふりかえって復習しておく（1時間程度）。教材研究の週は教材の用意をする。

【事後学修】 レポートや作品作りなど発展的な取り組みを行う（1～2時間）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】 授業開始時に指示する

【参考図書】 授業開始時に指示する

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（言葉） | | |
| 担当教員名 | 横井 紘子 | | |
| ナンバリング | KAc323 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

発達理解、保育援助、教材研究、自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。子どもを受容し安心感を育てる言葉かけ、遊びの発展を促す言葉かけ、気持ちや考えを友だちに伝えたり聞こうとする態度を育てる言葉かけなどの保育援助を考える。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。文化の作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

この授業は演習であり、作品の作成と鑑賞、模擬保育、教材研究などを通して、リアリティのある学びを目指す。グループワークや発表の機会が多くもたれるので、主体的な参加が求められる。

| | |
|----|---|
| 1 | コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解 |
| 2 | 子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解 |
| 3 | 十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句 |
| 4 | 実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式 |
| 5 | 遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話 |
| 6 | - 1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）模擬保育 |
| 7 | - 2保育者の言葉と援助（映像による学習） |
| 8 | 文化財としての絵本と紙芝居、他の伝達媒体の役割と活用（情報機器の活用を含む） / 教材研究 |
| 9 | 文化財としての絵本と紙芝居 / 指導計画の作成（情報機器の特性に応じた活用方法） |
| 10 | 文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせ場面など児童文化財を活かした実践場面の模擬保育 |
| 11 | 言葉遊び・劇遊びの体験 / 言葉の楽しさや美しさに対する感覚 |
| 12 | 領域「言葉」の変遷と現代的課題 |
| 13 | 文字・数・記号の獲得と保育 |
| 14 | 気になる言葉の遅れや問題 |
| 15 | 絵本作りと合評 |

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業課題は、次週以降にそれを活用した授業を行い、解説し返却する。作品は、合評会を行い鑑賞後返却する。

授業外学習

【事前予習】 発達理解、教材研究、保育援助、言葉に対する感性を磨く4つのテーマに基づく各回の授業に必要な事項（例：乳幼児期の言語発達、教師の役割）を1・2年次の学習をふりかえって復習しておく（1時間程度）。教材研究の週は教材の用意をする。

【事後学修】 レポートや作品作りなど発展的な取り組みを行う（1～2時間）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】 授業開始時に指示する

【参考図書】 授業開始時に指示する

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（言葉） | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | KAc323 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Cクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

発達理解、保育援助、教材研究、自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。子どもを受容し安心感を育てる言葉かけ、遊びの発展を促す言葉かけ、気持ちや考えを友だちに伝えたり聞こうとする態度を育てる言葉かけなどの保育援助を考える。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。文化の作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

この授業は演習であり、作品の作成と鑑賞、模擬保育、教材研究などを通して、リアリティのある学びを目指す。グループワークや発表の機会が多くもたれるので、主体的な参加が求められる。

| | |
|----|---|
| 1 | コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解 |
| 2 | 子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解 |
| 3 | 十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句 |
| 4 | 実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式 |
| 5 | 遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話 |
| 6 | - 1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）模擬保育 |
| 7 | - 2保育者の言葉と援助（映像による学習） |
| 8 | 文化財としての絵本と紙芝居、他の伝達媒体の役割と活用（情報機器の活用を含む） / 教材研究 |
| 9 | 文化財としての絵本と紙芝居 / 指導計画の作成（情報機器の特性に応じた活用方法） |
| 10 | 文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせ場面など児童文化財を活かした実践場面の模擬保育 |
| 11 | 言葉遊び・劇遊びの体験 / 言葉の楽しさや美しさに対する感覚 |
| 12 | 領域「言葉」の変遷と現代的課題 |
| 13 | 文字・数・記号の獲得と保育 |
| 14 | 気になる言葉の遅れや問題 |
| 15 | 絵本作りと合評 |

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業課題は、次週以降にそれを活用した授業を行い、解説し返却する。作品は、合評会を行い鑑賞後返却する。

授業外学習

【事前予習】 発達理解、教材研究、保育援助、言葉に対する感性を磨く4つのテーマに基づく各回の授業に必要な事項（例：乳幼児期の言語発達、教師の役割）を1・2年次の学習をふりかえって復習しておく（1時間程度）。教材研究の週は教材の用意をする。

【事後学修】 レポートや作品作りなど発展的な取り組みを行う（1～2時間）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】 授業開始時に指示する

【参考図書】 授業開始時に指示する

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（言葉） | | |
| 担当教員名 | 横井 紘子 | | |
| ナンバリング | KAc323 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

発達理解、保育援助、教材研究、自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。子どもを受容し安心感を育てる言葉かけ、遊びの発展を促す言葉かけ、気持ちや考えを友だちに伝えたり聞こうとする態度を育てる言葉かけなどの保育援助を考える。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。文化の作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

この授業は演習であり、作品の作成と鑑賞、模擬保育、教材研究などを通して、リアリティのある学びを目指す。グループワークや発表の機会が多くもたれるので、主体的な参加が求められる。

| | |
|----|---|
| 1 | コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解 |
| 2 | 子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解 |
| 3 | 十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句 |
| 4 | 実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式 |
| 5 | 遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話 |
| 6 | - 1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）模擬保育 |
| 7 | - 2保育者の言葉と援助（映像による学習） |
| 8 | 文化財としての絵本と紙芝居、他の伝達媒体の役割と活用（情報機器の活用を含む） / 教材研究 |
| 9 | 文化財としての絵本と紙芝居 / 指導計画の作成（情報機器の特性に応じた活用方法） |
| 10 | 文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせ場面など児童文化財を活かした実践場面の模擬保育 |
| 11 | 言葉遊び・劇遊びの体験 / 言葉の楽しさや美しさに対する感覚 |
| 12 | 領域「言葉」の変遷と現代的課題 |
| 13 | 文字・数・記号の獲得と保育 |
| 14 | 気になる言葉の遅れや問題 |
| 15 | 絵本作りと合評 |

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業課題は、次週以降にそれを活用した授業を行い、解説し返却する。作品は、合評会を行い鑑賞後返却する。

授業外学習

【事前予習】 発達理解、教材研究、保育援助、言葉に対する感性を磨くの4つのテーマに基づく各回の授業に必要な事項（例：乳幼児期の言語発達、教師の役割）を1・2年次の学習をふりかえって復習しておく（1時間程度）。教材研究の週は教材の用意をする。

【事後学修】 レポートや作品作りなど発展的な取り組みを行う（1～2時間）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】 授業開始時に指示する

【参考図書】 授業開始時に指示する

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（音楽表現） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子 | | |
| ナンバリング | KAc324 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

乳幼児期の発達に応じた表現について、主に音楽面において理解し、援助・指導の方法について学ぶ。保育現場での音楽活動において求められる指導力、それを支える保育表現技術力を身につけることを目標としている。

科目の概要

「子どもの歌」の伴奏理論を学び、理論に基づいた伴奏を自分の力で伴奏付ができることを目的の1つとしている。子どもが歌うとはどういうことか理解した上で「子どもの歌」を様々な展開し指導できるよう、「子どもの歌」の深い理解を目指す。さらにリズム活動を支え、子どもと音楽で遊べるように、楽譜通り弾くということではなく、楽譜から離れて子どもの要求する音楽を演奏する技術を身につける。

学修目標（=到達目標）

個々人の技量に合わせながらも、相応しい伴奏ができ、保育現場で行われている様々な音楽活動に対応した演奏力及び指導力を身につけることを学修目標とする。

内容

この授業は理論を実践を通して学ぶ。音楽理論を実際に演奏しながら学ぶことで、演奏や指導法を支える基礎理論として認識し、子どもの音楽指導にとって必要なことは何かを身体を通して理解する。

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | オリエンテーション：子どもの歌の特徴を知る |
| 2 | 子どもの歌のリズム的特性～拍子に着目して～ |
| 3 | 子どもの歌のリズム的特性～特徴的なリズムに着目して～ |
| 4 | 子どもの歌の調性的特性 |
| 5 | 子どもの歌の和声的特性～基本的な和声構成に着目して～ |
| 6 | 子どもの歌の和声的特性～様々な和声に着目して～ |
| 7 | 子どもと歌うために～子どもの歌の伴奏～ |
| 8 | 子どもの歌の歌唱指導とは |
| 9 | リズム活動における音楽と身体 |
| 10 | リズム活動における音楽的援助 |
| 11 | 子どもの歌をアレンジする |
| 12 | 様々な音階による子どもの歌 |
| 13 | 子どもの歌を楽器で遊ぶ |
| 14 | 子どもの歌による合奏指導 |
| 15 | まとめ：保育内容の指導法（音楽表現）とは |

評価

毎回の授業の取り組み参加度を40%、筆記による確認テスト、課題プリントの提出等を含むまとめを60%とし、総合評価60点以上を合格点とする。

【フィードバック】提出課題、筆記試験は添削、採点ののち返却する。合格点に達しないときは再試験、課題の再提出を求める。

授業外学習

【事前予習】毎授業時に課題として出される子どもの歌を練習すること。理論的理解の為教科書の課題を予習する。1時間ほど。

【事後学修】授業内で学んだことの整理、復習を1時間ほど行う。毎回の課題をしっかりとこなすことに重点を置く。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】歌って、弾いて、書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ 二宮紀子著 音楽之友社 ￥2600

【推薦書】日本の子どもの歌 全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 ￥2600

【参考図書】乳幼児の音楽表現 小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井康子編著 中央法規 ￥1800

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（音楽表現） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子 | | |
| ナンバリング | KAc324 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

乳幼児期の発達に応じた表現について、主に音楽面において理解し、援助・指導の方法について学ぶ。保育現場での音楽活動において求められる指導力、それを支える保育表現技術力を身につけることを目標としている。

科目の概要

「子どもの歌」の伴奏理論を学び、理論に基づいた伴奏を自分の力で伴奏付ができることを目的の1つとしている。子どもが歌うとはどういうことか理解した上で「子どもの歌」を様々な展開し指導できるよう、「子どもの歌」の深い理解を目指す。さらにリズム活動を支え、子どもと音楽で遊べるように、楽譜通り弾くということではなく、楽譜から離れて子どもの要求する音楽を演奏する技術を身につける。

学修目標（＝到達目標）

個々人の技量に合わせながらも、相応しい伴奏ができ、保育現場で行われている様々な音楽活動に対応した演奏力及び指導力を身につけることを学修目標とする。

内容

この授業は理論を実践を通して学ぶ。音楽理論を実際に演奏しながら学ぶことで、演奏や指導法を支える基礎理論として認識し、子どもの音楽指導にとって必要なことは何かを身体を通して理解する。

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | オリエンテーション：子どもの歌の特徴を知る |
| 2 | 子どもの歌のリズム的特性～拍子に着目して～ |
| 3 | 子どもの歌のリズム的特性～特徴的なリズムに着目して～ |
| 4 | 子どもの歌の調性的特性 |
| 5 | 子どもの歌の和声的特性～基本的な和声構成に着目して～ |
| 6 | 子どもの歌の和声的特性～様々な和声に着目して～ |
| 7 | 子どもと歌うために～子どもの歌の伴奏～ |
| 8 | 子どもの歌の歌唱指導とは |
| 9 | リズム活動における音楽と身体 |
| 10 | リズム活動における音楽的援助 |
| 11 | 子どもの歌をアレンジする |
| 12 | 様々な音階による子どもの歌 |
| 13 | 子どもの歌を楽器で遊ぶ |
| 14 | 子どもの歌による合奏指導 |
| 15 | まとめ：保育内容の指導法（音楽表現）とは |

評価

毎回の授業の取り組み参加度を40%、筆記による確認テスト、課題プリントの提出等を含むまとめを60%とし、総合評価60点以上を合格点とする。

【フィードバック】提出課題、筆記試験は添削、採点ののち返却する。合格点に達しないときは再試験、課題の再提出を求める。

授業外学習

【事前予習】毎授業時に課題として出される子どもの歌を練習すること。理論的理解の為教科書の課題を予習する。1時間ほど。

【事後学修】授業内で学んだことの整理、復習を1時間ほど行う。毎回の課題をしっかりとこなすことに重点を置く。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】歌って、弾いて、書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ 二宮紀子著 音楽之友社 ￥2600

【推薦書】日本の子どもの歌 全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 ￥2600

【参考図書】乳幼児の音楽表現 小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井康子編著 中央法規 ￥1800

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（音楽表現） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子 | | |
| ナンバリング | KAc324 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

乳幼児期の発達に応じた表現について、主に音楽面において理解し、援助・指導の方法について学ぶ。保育現場での音楽活動において求められる指導力、それを支える保育表現技術力を身につけることを目標としている。

科目の概要

「子どもの歌」の伴奏理論を学び、理論に基づいた伴奏を自分の力で伴奏付ができることを目的の1つとしている。子どもが歌うとはどういうことか理解した上で「子どもの歌」を様々な展開し指導できるよう、「子どもの歌」の深い理解を目指す。さらにリズム活動を支え、子どもと音楽で遊べるように、楽譜通り弾くということではなく、楽譜から離れて子どもの要求する音楽を演奏する技術を身につける。

学修目標（=到達目標）

個々人の技量に合わせながらも、相応しい伴奏ができ、保育現場で行われている様々な音楽活動に対応した演奏力及び指導力を身につけることを学修目標とする。

内容

この授業は理論を実践を通して学ぶ。音楽理論を実際に演奏しながら学ぶことで、演奏や指導法を支える基礎理論として認識し、子どもの音楽指導にとって必要なことは何かを身体を通して理解する。

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | オリエンテーション：子どもの歌の特徴を知る |
| 2 | 子どもの歌のリズム的特性～拍子に着目して～ |
| 3 | 子どもの歌のリズム的特性～特徴的なリズムに着目して～ |
| 4 | 子どもの歌の調性的特性 |
| 5 | 子どもの歌の和声的特性～基本的な和声構成に着目して～ |
| 6 | 子どもの歌の和声的特性～様々な和声に着目して～ |
| 7 | 子どもと歌うために～子どもの歌の伴奏～ |
| 8 | 子どもの歌の歌唱指導とは |
| 9 | リズム活動における音楽と身体 |
| 10 | リズム活動における音楽的援助 |
| 11 | 子どもの歌をアレンジする |
| 12 | 様々な音階による子どもの歌 |
| 13 | 子どもの歌を楽器で遊ぶ |
| 14 | 子どもの歌による合奏指導 |
| 15 | まとめ：保育内容の指導法（音楽表現）とは |

評価

毎回の授業の取り組み参加度を40%、筆記による確認テスト、課題プリントの提出等を含むまとめを60%とし、総合評価60点以上を合格点とする。

【フィードバック】提出課題、筆記試験は添削、採点ののち返却する。合格点に達しないときは再試験、課題の再提出を求める。

授業外学習

【事前予習】毎授業時に課題として出される子どもの歌を練習すること。理論的理解の為教科書の課題を予習する。1時間ほど。

【事後学修】授業内で学んだことの整理、復習を1時間ほど行う。毎回の課題をしっかりとこなすことに重点を置く。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】歌って、弾いて、書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ 二宮紀子著 音楽之友社 ￥2600

【推薦書】日本の子どもの歌 全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 ￥2600

【参考図書】乳幼児の音楽表現 小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井康子編著 中央法規 ￥1800

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（音楽表現） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子 | | |
| ナンバリング | KAc324 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

乳幼児期の発達に応じた表現について、主に音楽面において理解し、援助・指導の方法について学ぶ。保育現場での音楽活動において求められる指導力、それを支える保育表現技術力を身につけることを目標としている。

科目の概要

「子どもの歌」の伴奏理論を学び、理論に基づいた伴奏を自分の力で伴奏付ができることを目的の1つとしている。子どもが歌うとはどういうことか理解した上で「子どもの歌」を様々な展開し指導できるよう、「子どもの歌」の深い理解を目指す。さらにリズム活動を支え、子どもと音楽で遊べるように、楽譜通り弾くということではなく、楽譜から離れて子どもの要求する音楽を演奏する技術を身につける。

学修目標（＝到達目標）

個々人の技量に合わせながらも、相応しい伴奏ができ、保育現場で行われている様々な音楽活動に対応した演奏力及び指導力を身につけることを学修目標とする。

内容

この授業は理論を実践を通して学ぶ。音楽理論を実際に演奏しながら学ぶことで、演奏や指導法を支える基礎理論として認識し、子どもの音楽指導にとって必要なことは何かを身体を通して理解する。

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | オリエンテーション：子どもの歌の特徴を知る |
| 2 | 子どもの歌のリズム的特性～拍子に着目して～ |
| 3 | 子どもの歌のリズム的特性～特徴的なリズムに着目して～ |
| 4 | 子どもの歌の調性的特性 |
| 5 | 子どもの歌の和声的特性～基本的な和声構成に着目して～ |
| 6 | 子どもの歌の和声的特性～様々な和声に着目して～ |
| 7 | 子どもと歌うために～子どもの歌の伴奏～ |
| 8 | 子どもの歌の歌唱指導とは |
| 9 | リズム活動における音楽と身体 |
| 10 | リズム活動における音楽的援助 |
| 11 | 子どもの歌をアレンジする |
| 12 | 様々な音階による子どもの歌 |
| 13 | 子どもの歌を楽器で遊ぶ |
| 14 | 子どもの歌による合奏指導 |
| 15 | まとめ：保育内容の指導法（音楽表現）とは |

評価

毎回の授業の取り組み参加度を40%、筆記による確認テスト、課題プリントの提出等を含むまとめを60%とし、総合評価60点以上を合格点とする。

【フィードバック】提出課題、筆記試験は添削、採点ののち返却する。合格点に達しないときは再試験、課題の再提出を求める。

授業外学習

【事前予習】毎授業時に課題として出される子どもの歌を練習すること。理論的理解の為教科書の課題を予習する。1時間ほど。

【事後学修】授業内で学んだことの整理、復習を1時間ほど行う。毎回の課題をしっかりとこなすことに重点を置く。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】歌って、弾いて、書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ 二宮紀子著 音楽之友社 ￥2600

【推薦書】日本の子どもの歌 全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 ￥2600

【参考図書】乳幼児の音楽表現 小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井康子編著 中央法規 ￥1800

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（造形表現） | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAc225 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

以下を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

- 1.プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について
- 2.自然との出会い-1- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 感じる
- 3.自然との出会い-2- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 切る、割る等
- 4.自然との出会い-3- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 結ぶ、つなげる等
- 5.自然との出会い-4- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 組み合わせる
- 6.自然との出会い-5- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 活かす
- 7.ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから
- 8.ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから
- 9..ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから
- 10.ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料を活かして
- 11.ものやひととの出会い-5- 絵の具とのかかわり 色水遊びから
- 12.ものやひととの出会い-6- 光とのかかわり 透明な素材から
- 13.ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして
- 14.ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える
- 15.エピローグ 全体の振り返りと総括

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社

〔推薦書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（造形表現） | | |
| 担当教員名 | 名達 英詔 | | |
| ナンバリング | KAc225 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

以下を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

- 1.プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について
- 2.自然との出会い-1- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 感じる
- 3.自然との出会い-2- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 切る、割る等
- 4.自然との出会い-3- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 結ぶ、つなげる等
- 5.自然との出会い-4- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 組み合わせる
- 6.自然との出会い-5- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 活かす
- 7.ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから
- 8.ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから
- 9..ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから
- 10.ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料を活かして
- 11.ものやひととの出会い-5- 絵の具とのかかわり 色水遊びから
- 12.ものやひととの出会い-6- 光とのかかわり 透明な素材から
- 13.ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして
- 14.ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える
- 15.エピローグ 全体の振り返りと総括

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社

〔推薦書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（造形表現） | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAc225 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

以下を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

- 1.プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について
- 2.自然との出会い-1- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 感じる
- 3.自然との出会い-2- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 切る、割る等
- 4.自然との出会い-3- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 結ぶ、つなげる等
- 5.自然との出会い-4- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 組み合わせる
- 6.自然との出会い-5- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 活かす
- 7.ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから
- 8.ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから
- 9..ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから
- 10.ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料を活かして
- 11.ものやひととの出会い-5- 絵の具とのかかわり 色水遊びから
- 12.ものやひととの出会い-6- 光とのかかわり 透明な素材から
- 13.ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして
- 14.ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える
- 15.エピローグ 全体の振り返りと総括

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社

〔推薦書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（造形表現） | | |
| 担当教員名 | 名達 英詔 | | |
| ナンバリング | KAc225 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

以下を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

- 1.プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について
- 2.自然との出会い-1- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 感じる
- 3.自然との出会い-2- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 切る、割る等
- 4.自然との出会い-3- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 結ぶ、つなげる等
- 5.自然との出会い-4- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 組み合わせる
- 6.自然との出会い-5- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 活かす
- 7.ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから
- 8.ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから
- 9..ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから
- 10.ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料を活かして
- 11.ものやひととの出会い-5- 絵の具とのかかわり 色水遊びから
- 12.ものやひととの出会い-6- 光とのかかわり 透明な素材から
- 13.ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして
- 14.ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える
- 15.エピローグ 全体の振り返りと総括

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社

〔推薦書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（身体表現） | | |
| 担当教員名 | 渡邊 孝枝 | | |
| ナンバリング | KAc326 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。体育基礎（身体表現）の履修が完了していることが受講条件となります。

科目の概要

体育基礎（身体表現）では、自分と他者の心身の変化を敏感に捉えていくことを身体表現活動を実際に体験しながら学びました。その学びをもとに自身の身体による表現力や創造性を育みながら、幼児の心身の変化をどう捉え、どのように幼児期の身体表現活動を展開、援助していくのかを学びます。

学修目標（=到達目標）

- 1、保育の場で身体表現活動を指導、展開して行くための知識や方法、留意点を理解すること。
- 2、幼児の身体表現にふさわしい題材を検討・開拓し、身体表現活動として展開できるようになること。
- 3、時に指導者の立場に立ち、時に幼児の立場に立って活動を行うことで、両方の視点から身体表現への理解を深めること。

内容

| | |
|----|--|
| 1 | 領域「表現」と身体表現について |
| 2 | 動きを生み出す 身近な遊びから発展 |
| 3 | 動きを生み出す 基本的な運動から発展 |
| 4 | 動きからイメージへ |
| 5 | イメージを広げる 音楽や道具を手掛かりに |
| 6 | イメージを広げる 想像の世界で |
| 7 | 動きとイメージを引き出す・広げる 擬音語・擬態語に着目する |
| 8 | 動きとイメージを引き出す・広げる 言葉かけを考える |
| 9 | 動きとイメージを引き出す・広げる 子どもそれぞれの捉え方や表し方を受け止める |
| 10 | 多様な環境での身体表現活動 探検して表現 |
| 11 | 多様な環境での身体表現活動 裸足で感じて表現 |
| 12 | 多様な身体表現活動の検討 捨てる素材を身体表現へ変化させる |
| 13 | 多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の計画 |
| 14 | 多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の実施 |
| 15 | 模擬保育を振り返るグループディスカッション / 授業のまとめ |

評価

積極的な授業への取り組みと毎時のコメント表・身体表現ノート50%、模擬保育等の計画・実施30%、レポート課題20%とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートに関しても確認し、質問等に返答した後返却する。

授業外学習

【事前予習】身近な素材からどのような身体表現活動に発展することができるかを常に考え、多様な題材を収集しておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柴真理子編著「臨床舞踊学への誘い 身体表現の力」ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（身体表現） | | |
| 担当教員名 | 渡邊 孝枝 | | |
| ナンバリング | KAc326 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。体育基礎（身体表現）の履修が完了していることが受講条件となります。

科目の概要

体育基礎（身体表現）では、自分と他者の心身の変化を敏感に捉えていくことを身体表現活動を実際に体験しながら学びました。その学びをもとに自身の身体による表現力や創造性を育みながら、幼児の心身の変化をどう捉え、どのように幼児期の身体表現活動を展開、援助していくのかを学びます。

学修目標（=到達目標）

- 1、保育の場で身体表現活動を指導、展開して行くための知識や方法、留意点を理解すること。
- 2、幼児の身体表現にふさわしい題材を検討・開拓し、身体表現活動として展開できるようになること。
- 3、時に指導者の立場に立ち、時に幼児の立場に立って活動を行うことで、両方の視点から身体表現への理解を深めること。

内容

| | |
|----|--|
| 1 | 領域「表現」と身体表現について |
| 2 | 動きを生み出す 身近な遊びから発展 |
| 3 | 動きを生み出す 基本的な運動から発展 |
| 4 | 動きからイメージへ |
| 5 | イメージを広げる 音楽や道具を手掛かりに |
| 6 | イメージを広げる 想像の世界で |
| 7 | 動きとイメージを引き出す・広げる 擬音語・擬態語に着目する |
| 8 | 動きとイメージを引き出す・広げる 言葉かけを考える |
| 9 | 動きとイメージを引き出す・広げる 子どもそれぞれの捉え方や表し方を受け止める |
| 10 | 多様な環境での身体表現活動 探検して表現 |
| 11 | 多様な環境での身体表現活動 裸足で感じて表現 |
| 12 | 多様な身体表現活動の検討 捨てる素材を身体表現へ変化させる |
| 13 | 多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の計画 |
| 14 | 多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の実施 |
| 15 | 模擬保育を振り返るグループディスカッション / 授業のまとめ |

評価

積極的な授業への取り組みと毎時のコメント表・身体表現ノート50%、模擬保育等の計画・実施30%、レポート課題2

0%とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートに関しても確認し、質問等に返答した後返却する。

授業外学習

【事前予習】身近な素材からどのような身体表現活動に発展することができるかを常に考え、多様な題材を収集しておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柴真理子編著「臨床舞踊学への誘い 身体表現の力」ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（身体表現） | | |
| 担当教員名 | 渡邊 孝枝 | | |
| ナンバリング | KAc326 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Cクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。体育基礎（身体表現）の履修が完了していることが受講条件となります。

科目の概要

体育基礎（身体表現）では、自分と他者の心身の変化を敏感に捉えていくことを身体表現活動を実際に体験しながら学びました。その学びをもとに自身の身体による表現力や創造性を育みながら、幼児の心身の変化をどう捉え、どのように幼児期の身体表現活動を展開、援助していくのかを学びます。

学修目標（＝到達目標）

- 1、保育の場で身体表現活動を指導、展開して行くための知識や方法、留意点を理解すること。
- 2、幼児の身体表現にふさわしい題材を検討・開拓し、身体表現活動として展開できるようになること。
- 3、時に指導者の立場に立ち、時に幼児の立場に立って活動を行うことで、両方の視点から身体表現への理解を深めること。

内容

| | |
|----|--|
| 1 | 領域「表現」と身体表現について |
| 2 | 動きを生み出す 身近な遊びから発展 |
| 3 | 動きを生み出す 基本的な運動から発展 |
| 4 | 動きからイメージへ |
| 5 | イメージを広げる 音楽や道具を手掛かりに |
| 6 | イメージを広げる 想像の世界で |
| 7 | 動きとイメージを引き出す・広げる 擬音語・擬態語に着目する |
| 8 | 動きとイメージを引き出す・広げる 言葉かけを考える |
| 9 | 動きとイメージを引き出す・広げる 子どもそれぞれの捉え方や表し方を受け止める |
| 10 | 多様な環境での身体表現活動 探検して表現 |
| 11 | 多様な環境での身体表現活動 裸足で感じて表現 |
| 12 | 多様な身体表現活動の検討 捨てる素材を身体表現へ変化させる |
| 13 | 多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の計画 |
| 14 | 多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の実施 |
| 15 | 模擬保育を振り返るグループディスカッション / 授業のまとめ |

評価

積極的な授業への取り組みと毎時のコメント表・身体表現ノート50%、模擬保育等の計画・実施30%、レポート課題2

0%とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートに関しても確認し、質問等に返答した後返却する。

授業外学習

【事前予習】身近な素材からどのような身体表現活動に発展することができるかを常に考え、多様な題材を収集しておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柴真理子編著「臨床舞踊学への誘い 身体表現の力」ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育内容の指導法（身体表現） | | |
| 担当教員名 | 渡邊 孝枝 | | |
| ナンバリング | KAc326 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。体育基礎（身体表現）の履修が完了していることが受講条件となります。

科目の概要

体育基礎（身体表現）では、自分と他者の心身の変化を敏感に捉えていくことを身体表現活動を実際に体験しながら学びました。その学びをもとに自身の身体による表現力や創造性を育みながら、幼児の心身の変化をどう捉え、どのように幼児期の身体表現活動を展開、援助していくのかを学びます。

学修目標（＝到達目標）

- 1、保育の場で身体表現活動を指導、展開して行くための知識や方法、留意点を理解すること。
- 2、幼児の身体表現にふさわしい題材を検討・開拓し、身体表現活動として展開できるようになること。
- 3、時に指導者の立場に立ち、時に幼児の立場に立って活動を行うことで、両方の視点から身体表現への理解を深めること。

内容

| | |
|----|--|
| 1 | 領域「表現」と身体表現について |
| 2 | 動きを生み出す 身近な遊びから発展 |
| 3 | 動きを生み出す 基本的な運動から発展 |
| 4 | 動きからイメージへ |
| 5 | イメージを広げる 音楽や道具を手掛かりに |
| 6 | イメージを広げる 想像の世界で |
| 7 | 動きとイメージを引き出す・広げる 擬音語・擬態語に着目する |
| 8 | 動きとイメージを引き出す・広げる 言葉かけを考える |
| 9 | 動きとイメージを引き出す・広げる 子どもそれぞれの捉え方や表し方を受け止める |
| 10 | 多様な環境での身体表現活動 探検して表現 |
| 11 | 多様な環境での身体表現活動 裸足で感じて表現 |
| 12 | 多様な身体表現活動の検討 捨てる素材を身体表現へ変化させる |
| 13 | 多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の計画 |
| 14 | 多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の実施 |
| 15 | 模擬保育を振り返るグループディスカッション / 授業のまとめ |

評価

積極的な授業への取り組みと毎時のコメント表・身体表現ノート50%、模擬保育等の計画・実施30%、レポート課題2

0%とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートに関しても確認し、質問等に返答した後返却する。

授業外学習

【事前予習】身近な素材からどのような身体表現活動に発展することができるかを常に考え、多様な題材を収集しておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柴真理子編著「臨床舞踊学への誘い 身体表現の力」ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 子どもと自然 | | |
| 担当教員名 | 二宮 穰 | | |
| ナンバリング | KAc227 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科のディプロマポリシー 3 に相当する。この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめとする季節の自然事象を活用しながら、学生自身が自然に親しみ、自然に関する理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、関心を持ち、性質や特徴を確かめる体験をすることで、自然事象とかかわるセンスを養い、未体験の自然事象とも、かかわりをもつことができるようになる。
2. さまざまな自然事象とのかかわり方を知り、それらの性質や特徴をより良く理解し、より好ましいかかわり方を考える体験をすることで、多くの自然事象とかかわりを深めることができるようになる。
3. 子どもと自然とのかかわりの実情について学んだうえで、1, 2 のような自分の体験を活かしつつ、自然とかかわる好ましい保育を立案・計画することで、子どもと自然とのかかわりを適切に援助する方法を具体的に考えることができるようになる。

内容

この授業は、講義とフィールドワークなどの実体験を基本に、授業外学習の成果を取り入れつつ、グループワークなども通じて、学びを深めていく。

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | 子どもにとっての自然 |
| 2 | 身近な自然体験 小動物とのかかわり |
| 3 | 身近な自然体験 植物とのかかわり |
| 4 | 身近な自然体験 自然事象とのかかわり |
| 5 | 身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用 |
| 6 | 動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か? |
| 7 | 動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか |
| 8 | 動物とのかかわり 実践事例に学ぶ |
| 9 | 植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か? |
| 10 | 植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか |
| 11 | 植物とのかかわり 実践事例に学ぶ |
| 12 | 自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か? |
| 13 | 自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか |
| 14 | 自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ |
| 15 | まとめ |

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。成績物は平常のレポート(40点)、試験に代わるレポート(60点)とし、総合評価60点以上を合格とする。提出された成績物は、必要に応じて誤りを正し、コメントを記入したうえで評点をつけ、平常のレポートについては次週以降、試験に代わるレポートについては成績確定後に返却する。

授業外学習

【事前予習】毎日10分、学内の自然や人の生活に現れる季節の移り変わりを観察し、把握したうえで授業に臨むこと(計15時間)。また、前時に指示された予習をしておくこと(計14時間)。

【事後学修】体験型の授業(2~5回)の後は、経験を今後に生かせるように平常のレポートにまとめること(計16時間)。また、授業内容を復習し、指示された課題に取り組むこと(計15時間)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】文部科学省『幼稚園教育要領解説(最新版)』、厚生労働省『保育所保育指針解説(最新版)』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)』

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 子どもと自然 | | |
| 担当教員名 | 二宮 穰 | | |
| ナンバリング | KAc227 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科のディプロマポリシー 3 に相当する。この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめとする季節の自然事象を活用しながら、学生自身が自然に親しみ、自然に関する理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、関心を持ち、性質や特徴を確かめる体験をすることで、自然事象とかかわるセンスを養い、未体験の自然事象とも、かかわりをもつことができるようになる。
2. さまざまな自然事象とのかかわり方を知り、それらの性質や特徴をより良く理解し、より好ましいかかわり方を考える体験をすることで、多くの自然事象とかかわりを深めることができるようになる。
3. 子どもと自然とのかかわりの実情について学んだうえで、1, 2 のような自分の体験を活かしつつ、自然とかかわる好ましい保育を立案・計画することで、子どもと自然とのかかわりを適切に援助する方法を具体的に考えることができるようになる。

内容

この授業は、講義とフィールドワークなどの実体験を基本に、授業外学習の成果を取り入れつつ、グループワークなども通じて、学びを深めていく。

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | 子どもにとっての自然 |
| 2 | 身近な自然体験 小動物とのかかわり |
| 3 | 身近な自然体験 植物とのかかわり |
| 4 | 身近な自然体験 自然事象とのかかわり |
| 5 | 身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用 |
| 6 | 動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か? |
| 7 | 動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか |
| 8 | 動物とのかかわり 実践事例に学ぶ |
| 9 | 植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か? |
| 10 | 植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか |
| 11 | 植物とのかかわり 実践事例に学ぶ |
| 12 | 自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か? |
| 13 | 自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか |
| 14 | 自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ |
| 15 | まとめ |

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。成績物は平常のレポート(40点)、試験に代わるレポート(60点)とし、総合評価60点以上を合格とする。提出された成績物は、必要に応じて誤りを正し、コメントを記入したうえで評点をつけ、平常のレポートについては次週以降、試験に代わるレポートについては成績確定後に返却する。

授業外学習

【事前予習】毎日10分、学内の自然や人の生活に現れる季節の移り変わりを観察し、把握したうえで授業に臨むこと(計15時間)。また、前時に指示された予習をしておくこと(計14時間)。

【事後学修】体験型の授業(2~5回)の後は、経験を今後に生かせるように平常のレポートにまとめること(計16時間)。また、授業内容を復習し、指示された課題に取り組むこと(計15時間)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】文部科学省『幼稚園教育要領解説(最新版)』、厚生労働省『保育所保育指針解説(最新版)』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育容量解説(最新版)』

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 子どもと自然 | | |
| 担当教員名 | 二宮 穰 | | |
| ナンバリング | KAc227 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科のディプロマポリシー 3 に相当する。この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめとする季節の自然事象を活用しながら、学生自身が自然に親しみ、自然に関する理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、関心を持ち、性質や特徴を確かめる体験をすることで、自然事象とかかわるセンスを養い、未体験の自然事象とも、かかわりをもつことができるようになる。
2. さまざまな自然事象とのかかわり方を知り、それらの性質や特徴をより良く理解し、より好ましいかかわり方を考える体験をすることで、多くの自然事象とかかわりを深めることができるようになる。
3. 子どもと自然とのかかわりの実情について学んだうえで、1, 2 のような自分の体験を活かしつつ、自然とかかわる好ましい保育を立案・計画することで、子どもと自然とのかかわりを適切に援助する方法を具体的に考えることができるようになる。

内容

この授業は、講義とフィールドワークなどの実体験を基本に、授業外学習の成果を取り入れつつ、グループワークなども通じて、学びを深めていく。

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | 子どもにとっての自然 |
| 2 | 身近な自然体験 小動物とのかかわり |
| 3 | 身近な自然体験 植物とのかかわり |
| 4 | 身近な自然体験 自然事象とのかかわり |
| 5 | 身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用 |
| 6 | 動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か? |
| 7 | 動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか |
| 8 | 動物とのかかわり 実践事例に学ぶ |
| 9 | 植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か? |
| 10 | 植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか |
| 11 | 植物とのかかわり 実践事例に学ぶ |
| 12 | 自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か? |
| 13 | 自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか |
| 14 | 自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ |
| 15 | まとめ |

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。成績物は平常のレポート(40点)、試験に代わるレポート(60点)とし、総合評価60点以上を合格とする。提出された成績物は、必要に応じて誤りを正し、コメントを記入したうえで評点をつけ、平常のレポートについては次週以降、試験に代わるレポートについては成績確定後に返却する。

授業外学習

【事前予習】毎日10分、学内の自然や人の生活に現れる季節の移り変わりを観察し、把握したうえで授業に臨むこと(計15時間)。また、前時に指示された予習をしておくこと(計14時間)。

【事後学修】体験型の授業(2~5回)の後は、経験を今後に生かせるように平常のレポートにまとめること(計16時間)。また、授業内容を復習し、指示された課題に取り組むこと(計15時間)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】文部科学省『幼稚園教育要領解説(最新版)』、厚生労働省『保育所保育指針解説(最新版)』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)』

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 子どもと自然 | | |
| 担当教員名 | 二宮 穰 | | |
| ナンバリング | KAc227 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科のディプロマポリシー 3 に相当する。この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめとする季節の自然事象を活用しながら、学生自身が自然に親しみ、自然に関する理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、関心を持ち、性質や特徴を確かめる体験をすることで、自然事象とかかわるセンスを養い、未体験の自然事象とも、かかわりをもつことができるようになる。
2. さまざまな自然事象とのかかわり方を知り、それらの性質や特徴をより良く理解し、より好ましいかかわり方を考える体験をすることで、多くの自然事象とかかわりを深めることができるようになる。
3. 子どもと自然とのかかわりの実情について学んだうえで、1, 2 のような自分の体験を活かしつつ、自然とかかわる好ましい保育を立案・計画することで、子どもと自然とのかかわりを適切に援助する方法を具体的に考えることができるようになる。

内容

この授業は、講義とフィールドワークなどの実体験を基本に、授業外学習の成果を取り入れつつ、グループワークなども通じて、学びを深めていく。

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | 子どもにとっての自然 |
| 2 | 身近な自然体験 小動物とのかかわり |
| 3 | 身近な自然体験 植物とのかかわり |
| 4 | 身近な自然体験 自然事象とのかかわり |
| 5 | 身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用 |
| 6 | 動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か? |
| 7 | 動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか |
| 8 | 動物とのかかわり 実践事例に学ぶ |
| 9 | 植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か? |
| 10 | 植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか |
| 11 | 植物とのかかわり 実践事例に学ぶ |
| 12 | 自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か? |
| 13 | 自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか |
| 14 | 自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ |
| 15 | まとめ |

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。成績物は平常のレポート(40点)、試験に代わるレポート(60点)とし、総合評価60点以上を合格とする。提出された成績物は、必要に応じて誤りを正し、コメントを記入したうえで評点をつけ、平常のレポートについては次週以降、試験に代わるレポートについては成績確定後に返却する。

授業外学習

【事前予習】毎日10分、学内の自然や人の生活に現れる季節の移り変わりを観察し、把握したうえで授業に臨むこと(計15時間)。また、前時に指示された予習をしておくこと(計14時間)。

【事後学修】体験型の授業(2~5回)の後は、経験を今後に生かせるように平常のレポートにまとめること(計16時間)。また、授業内容を復習し、指示された課題に取り組むこと(計15時間)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】文部科学省『幼稚園教育要領解説(最新版)』、厚生労働省『保育所保育指針解説(最新版)』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)』

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-----|
| 科目名 | 保育心理学 | | |
| 担当教員名 | 石田 有理 | | |
| ナンバリング | KAd129 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得及び保育士資格取得の必要要件である。幼児教育学科の学位授与方針 1 に該当する。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジュメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーを書くことにより、「書く力」を習得する。

乳幼児期の子どもについての理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

テキストの内容についてディスカッションしたり、事例をグループで検討し全体で共有したりすることを中心にした演習形式の授業である。

| | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握 |
| 2 | 子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育 |
| 3 | 子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用 |
| 4 | 子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達 |
| 5 | 子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り |
| 6 | 子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制 |
| 7 | 子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境 |
| 8 | 学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び |
| 9 | 学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う |
| 10 | 保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助 |
| 11 | 保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助 |
| 12 | 保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり |
| 13 | 保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援 |
| 14 | 保育における発達援助(5)発達援助における協働 |
| 15 | まとめ |

評価

毎回のレジュメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。毎回のレジュメ・リアクションペーパーについては、翌週の授業で返却し講評を行う。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業までに、教科書の指定箇所を読み、それについてのレジюмеを作成し、授業時に持参する。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジюмеを修正・加筆し、授業内容を自身の考察とともに整理し振り返る。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育・教育相談 | | |
| 担当教員名 | 向井 美穂 | | |
| ナンバリング | KAd330 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* ,選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科専門科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。保育者としての基本姿勢の一つを身につけることを目指す。幼児教育学科の学位授与方針の内、主に1,3に該当する。

科目の概要

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の方法についての基盤的な理解の上に、保育者は保護者との保育・教育相談をどのように担うべきかという理論と技法の基本を学ぶための教科である。

現代社会では、子どもの臨床的課題の解決、発展には、子どもへの臨床的なアプローチばかりだけでなく、保護者との保育・教育相談、カウンセリングが並行することによる保護者と保育者との連携の必要性がますます高まっている。そのため、保護者の相談に対応するうえでの基本的な理論と姿勢についての知識を習得することは保育者によって欠かせない要件となっている。

学修目標（到達目標）

- ・保育士・幼稚園教諭として、保育・教育相談の重要性を理解し、カウンセリングマインドの姿勢とスキルを身につける。
- ・乳幼児期の子どもとその保護者をめぐるさまざまな問題に対して、専門的な知識を習得し、柔軟かつ多面的に対応できるように支援方法について、理解を深める。

内容

子どもの発達および個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。授業では、基礎的知識を習得することだけでなく、子どもおよび保護者の支援についてロールプレイや事例を通して実践的に学ぶ。

保育・教育相談とは

カウンセリングの態度の基礎および技法（カウンセリングマインドおよび来談者中心療法について）

カウンセリングの態度の基礎および技法（さまざまな心理療法について）

人間理解のための臨床心理学概論 その1

人間理解のための臨床心理学概論 その2

子どもの発達理解とその方法について

子どもの発達と臨床（子どものSOSを読み取る）

子どもの発達と臨床（虐待への対応、トラウマを受けた子どものケアについて考える）

子どもの発達と臨床（発達障害の子どもへの支援）

乳幼児をもつ家庭への理解およびその支援

配慮の必要な保護者への支援事例についてのグループワーク その1

配慮の必要な保護者への支援事例についてのグループワーク その2

保育者が行う保育・教育相談の具体的展開

子どもの社会性を育てる関わりと保護者との相談関係を促進する関わり方

評価

最終課題（40%）、講義・グループワークへの参加度（30%）、小レポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】2年次までの学修内容の理解を深めるよう振り返っておくこと。さまざまな事例について、子どもの視点や保育者の視点だけでなく、保護者の視点からも考えること。指定されたテキストの該当箇所を必ず読み、自分の意見や疑問をもって参加すること（各授業毎に30分程度）。【事後学修】授業ノートをまとめ、自分の考えを文章にしてまとめること（各授業毎に30分程度）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内にて候補となるテキストを紹介し、指定する。

【推薦書】子ども理解とカウンセリングマインド - 保育臨床の視点から -

青木久子 間藤侑 河邊貴子 著 萌文書林

そのほか授業内で必要に応じて随時紹介する。

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育・教育相談 | | |
| 担当教員名 | 向井 美穂 | | |
| ナンバリング | KAd330 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科専門科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。保育者としての基本姿勢の一つを身につけることを目指す。幼児教育学科の学位授与方針の内、主に1,3に該当する。

科目の概要

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の方法についての基盤的な理解の上に、保育者は保護者との保育・教育相談をどのように担うべきかという理論と技法の基本を学ぶための教科である。

現代社会では、子どもの臨床的課題の解決、発展には、子どもへの臨床的なアプローチばかりだけでなく、保護者との保育・教育相談、カウンセリングが並行することによる保護者と保育者との連携の必要性がますます高まっている。そのため、保護者の相談に対応するうえでの基本的な理論と姿勢についての知識を習得することは保育者によって欠かせない要件となっている。

学修目標 (到達目標)

- ・保育士・幼稚園教諭として、保育・教育相談の重要性を理解し、カウンセリングマインドの姿勢とスキルを身につける。
- ・乳幼児期の子どもとその保護者をめぐるさまざまな問題に対して、専門的な知識を習得し、柔軟かつ多面的に対応できるように支援方法について、理解を深める。

内容

子どもの発達および個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。授業では、基礎的知識を習得することだけでなく、子どもおよび保護者の支援についてロールプレイや事例を通して実践的に学ぶ。

保育・教育相談とは

カウンセリングの態度の基礎および技法 (カウンセリングマインドおよび来談者中心療法について)

カウンセリングの態度の基礎および技法 (さまざまな心理療法について)

人間理解のための臨床心理学概論 その1

人間理解のための臨床心理学概論 その2

子どもの発達理解とその方法について

子どもの発達と臨床 (子どものSOSを読み取る)

子どもの発達と臨床 (虐待への対応、トラウマを受けた子どものケアについて考える)

子どもの発達と臨床 (発達障害の子どもへの支援)

乳幼児をもつ家庭への理解およびその支援

配慮の必要な保護者への支援事例についてのグループワーク その1

配慮の必要な保護者への支援事例についてのグループワーク その2

保育者が行う保育・教育相談の具体的展開

子どもの社会性を育てる関わりと保護者との相談関係を促進する関わり方

評価

最終課題（40％）、講義・グループワークへの参加度（30％）、小レポート（30％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】2年次までの学修内容の理解を深めるよう振り返っておくこと。さまざまな事例について、子どもの視点や保育者の視点だけでなく、保護者の視点からも考えること。指定されたテキストの該当箇所を必ず読み、自分の意見や疑問をもって参加すること（各授業毎に30分程度）。【事後学修】授業ノートをまとめ、自分の考えを文章にしてまとめること（各授業毎に30分程度）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内にて候補となるテキストを紹介し、指定する。

【推薦書】子ども理解とカウンセリングマインド - 保育臨床の視点から -

青木久子 間藤侑 河邊貴子 著 萌文書林

そのほか授業内で必要に応じて随時紹介する。

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

| | | | |
|---------|----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育・教育相談 | | |
| 担当教員名 | 向井 美穂 | | |
| ナンバリング | KAd330 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Cクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科専門科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。保育者としての基本姿勢の一つを身につけることを目指す。幼児教育学科の学位授与方針の内、主に1,3に該当する。

科目の概要

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の方法についての基盤的な理解の上に、保育者は保護者との保育・教育相談をどのように担うべきかという理論と技法の基本を学ぶための教科である。

現代社会では、子どもの臨床的課題の解決、発展には、子どもへの臨床的なアプローチばかりだけでなく、保護者との保育・教育相談、カウンセリングが並行することによる保護者と保育者との連携の必要性がますます高まっている。そのため、保護者の相談に対応するうえでの基本的な理論と姿勢についての知識を習得することは保育者によって欠かせない要件となっている。

学修目標（到達目標）

- ・保育士・幼稚園教諭として、保育・教育相談の重要性を理解し、カウンセリングマインドの姿勢とスキルを身につける。
- ・乳幼児期の子どもとその保護者をめぐるさまざまな問題に対して、専門的な知識を習得し、柔軟かつ多面的に対応できるように支援方法について、理解を深める。

内容

子どもの発達および個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。授業では、基礎的知識を習得することだけでなく、子どもおよび保護者の支援についてロールプレイや事例を通して実践的に学ぶ。

保育・教育相談とは

カウンセリングの態度の基礎および技法（カウンセリングマインドおよび来談者中心療法について）

カウンセリングの態度の基礎および技法（さまざまな心理療法について）

人間理解のための臨床心理学概論 その1

人間理解のための臨床心理学概論 その2

子どもの発達理解とその方法について

子どもの発達と臨床（子どものSOSを読み取る）

子どもの発達と臨床（虐待への対応、トラウマを受けた子どものケアについて考える）

子どもの発達と臨床（発達障害の子どもへの支援）

乳幼児をもつ家庭への理解およびその支援

配慮の必要な保護者への支援事例についてのグループワーク その1

配慮の必要な保護者への支援事例についてのグループワーク その2

保育者が行う保育・教育相談の具体的展開

子どもの社会性を育てる関わりと保護者との相談関係を促進する関わり方

評価

最終課題（40%）、講義・グループワークへの参加度（30%）、小レポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】2年次までの学修内容の理解を深めるよう振り返っておくこと。さまざまな事例について、子どもの視点や保育者の視点だけでなく、保護者の視点からも考えること。指定されたテキストの該当箇所を必ず読み、自分の意見や疑問をもって参加すること（各授業毎に30分程度）。【事後学修】授業ノートをまとめ、自分の考えを文章にしてまとめること（各授業毎に30分程度）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内にて候補となるテキストを紹介し、指定する。

【推薦書】子ども理解とカウンセリングマインド - 保育臨床の視点から -

青木久子 間藤侑 河邊貴子 著 萌文書林

そのほか授業内で必要に応じて随時紹介する。

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

| | | | |
|---------|----------------------|---------|--------|
| 科目名 | 保育・教育相談 | | |
| 担当教員名 | 向井 美穂 | | |
| ナンバリング | KAd330 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修*,選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科専門科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。保育者としての基本姿勢の一つを身につけることを目指す。幼児教育学科の学位授与方針の内、主に1,3に該当する。

科目の概要

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の方法についての基盤的な理解の上に、保育者は保護者との保育・教育相談をどのように担うべきかという理論と技法の基本を学ぶための教科である。

現代社会では、子どもの臨床的課題の解決、発展には、子どもへの臨床的なアプローチばかりだけでなく、保護者との保育・教育相談、カウンセリングが並行することによる保護者と保育者との連携の必要性がますます高まっている。そのため、保護者の相談に対応するうえでの基本的な理論と姿勢についての知識を習得することは保育者によって欠かせない要件となっている。

学修目標（到達目標）

- ・保育士・幼稚園教諭として、保育・教育相談の重要性を理解し、カウンセリングマインドの姿勢とスキルを身につける。
- ・乳幼児期の子どもとその保護者をめぐるさまざまな問題に対して、専門的な知識を習得し、柔軟かつ多面的に対応できるように支援方法について、理解を深める。

内容

子どもの発達および個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。授業では、基礎的知識を習得することだけでなく、子どもおよび保護者の支援についてロールプレイや事例を通して実践的に学ぶ。

保育・教育相談とは

カウンセリングの態度の基礎および技法（カウンセリングマインドおよび来談者中心療法について）

カウンセリングの態度の基礎および技法（さまざまな心理療法について）

人間理解のための臨床心理学概論 その1

人間理解のための臨床心理学概論 その2

子どもの発達理解とその方法について

子どもの発達と臨床（子どものSOSを読み取る）

子どもの発達と臨床（虐待への対応、トラウマを受けた子どものケアについて考える）

子どもの発達と臨床（発達障害の子どもへの支援）

乳幼児をもつ家庭への理解およびその支援

配慮の必要な保護者への支援事例についてのグループワーク その1

配慮の必要な保護者への支援事例についてのグループワーク その2

保育者が行う保育・教育相談の具体的展開

子どもの社会性を育てる関わりと保護者との相談関係を促進する関わり方

評価

最終課題（40%）、講義・グループワークへの参加度（30%）、小レポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】2年次までの学修内容の理解を深めるよう振り返っておくこと。さまざまな事例について、子どもの視点や保育者の視点だけでなく、保護者の視点からも考えること。指定されたテキストの該当箇所を必ず読み、自分の意見や疑問をもって参加すること（各授業毎に30分程度）。【事後学修】授業ノートをまとめ、自分の考えを文章にしてまとめること（各授業毎に30分程度）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内にて候補となるテキストを紹介し、指定する。

【推薦書】子ども理解とカウンセリングマインド - 保育臨床の視点から -

青木久子 間藤侑 河邊貴子 著 萌文書林

そのほか授業内で必要に応じて随時紹介する。

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|----|
| 科目名 | 乳幼児発達論 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAd432 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は幼児教育学科学位授与方針の1・2・3に対応する。人間の発達とは何かについて特に心理面に焦点を当て、研究方法や明らかにされて来た知見、今後の研究課題などについて、学生一人一人が問題意識を持ちつつ理解することを目指す。卒業研究で長田ゼミを希望する学生は履修することが望ましい。

科目の概要

乳幼児期から児童期への発達を中心に、最新の研究成果を紹介しながら、心理学に関連する様々な領域の発達について理解を深める。日常の経験や実習での体験などと併せて考えていくことにより、人間の発達について自ら包括的に考える力を養いたい。

学修目標

- ・乳幼児期から児童期への心理学的発達の特徴を研究例を通して理解する。
- ・最新の研究知見を日常の経験や実習での体験などと結びつけて考察し、人間の発達について包括的に考える力を身につける。
- ・各回の講義後に出される課題を次回授業開始前までに提出し、講義内容について自ら問題意識を持って理解を深める。

内容

各回の講義の内容の中から、学生各自が興味を持ったテーマについて、独自に調査してまとめたものを次回の授業前までに提出する形で、学生自らが積極的に授業に参加しながら学びを深める。

| | |
|----|-------------------|
| 1 | 発達心理学とは |
| 2 | 人生における胎児期・乳幼児期の意味 |
| 3 | 人間発達の可塑性 |
| 4 | 母子相互作用 |
| 5 | 世界の認識 |
| 6 | 気質・社会性 |
| 7 | 象徴機能の成立と言語発達 |
| 8 | 言語の機能と会話の発達 |
| 9 | 記憶 |
| 10 | 心の理論 |
| 11 | 遊びの発達 |
| 12 | 思考と語り |
| 13 | 科学する心 |
| 14 | 生活世界から学びの世界へ |
| 15 | まとめ・質疑応答 |

評価

授業中の提出課題（15回）100点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

各回の授業後に学生が提出した課題内容や質問に対して、その都度、教員から授業内でフィードバックを行う。

授業外学習

【事前予習】指定テキストの次回範囲をよく読んでおくこと。出来ればレジュメなどを事前にまとめておくことが望ましい。約1時間から1時間半。

【事後学修】授業資料を学内授業フォルダに格納するので、授業内容をよく復習し、理解しておくこと。興味を持ったテーマに関して、学生自身の観点から調査しまとめる課題に取り組む。約1時間半。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 内田伸子編 『よくわかる乳幼児心理学』 ミネルヴァ書房

【推薦書】 『生涯発達心理学とは何か:理論と方法（講座生涯発達心理学;第1巻）』無藤隆・やまだようこ編集（金子書房）

『人生への旅立ち:胎児・乳児・幼児前期(講座生涯発達心理学;第2巻)』麻生武・内田伸子編（金子書房）

『子ども時代を生きる:幼児から児童へ(講座生涯発達心理学;3)』内田伸子・南博文編（金子書房）

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 発達臨床論 | | |
| 担当教員名 | 権 明愛 | | |
| ナンバリング | KAd433 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

幼児教育専攻の専門科目であり、選択科目です。

科目の概要

子どもたちの育ちは様々です。何らかの心の問題や葛藤、発達の課題を抱えている子どもがいますが、発達心理学的な知見で子どもが抱えている課題を捉えなおし、どのように保育場面あるいは生活場面で援助したら良いかについて実践的に学んでいきます。

学修目標

発達臨床心理学の初歩的な知識を学びながら、今日の子どもの臨床的課題を把握します。子どもの発達を踏まえ、さまざまな問題が発生する原因について発達心理学的な見地から考え、その上で、一人の保育者として何が出来るのか、実践的に考えていくことを目標とします。

内容

何らかの支援が必要な子どもたちとはどのような状況（環境）にあるのかを知ることから始め、子どもたちの現状を理解するために、さまざまな文献、資料（視聴覚教材を含む）をもとに直面している課題と今後の展望についてディスカッションを通して学びを深めていきます。また子どもの育つ環境として望ましくない場合も現実の場面では多くあります。そうした状況にある親子についてどのような支援が出来るのか、また子どもが抱えている要因、親が抱えている要因、社会的環境要因についても学びながら援助の方法について考えていきます。

以下に述べるテーマを取り上げます。

子どもの育ちと養育環境について考える

養育環境の中で、愛着関係の視点で親子の問題と表に現れる子どもの行動の問題（発達障害、児童虐待、非行等）について考える

障害と家族支援について考える（第3回～第7回）

事例を通して発達障害支援と家族支援について考える（第8回～第9回）

子どもの活動と経験

おもちゃについてとその振り返り（第11回～第12回）

積木類のおもちゃについてとその振り返り（第13回～第14回）

まとめ

評価

授業内でのグループディスカッション及びグループワークへの参加度（30点）、授業内でのレポート（20点）、最終課題（50点）により総合的に評価します。60点以上を合格点とします。

「フォードバック」毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業前後それぞれ60分程の時間を利用して、与えられた課題に対して自分の意見が述べられるよう考えをまとめておいたり、授業で学んだ内容への理解を深めるため自主的に文献を探したり、自分の考えを文章にしてまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指定する

【推薦書】授業内で必要に応じて随時紹介する

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 発達臨床論 | | |
| 担当教員名 | 向井 美穂 | | |
| ナンバリング | KAd433 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の専門科目であり、選択科目です。子ども、子どもとかわる人々について理解を深め、広い視野から他者理解することができるように学びます。また、社会において必要とされる共感的に関わる力を習得する事を目指します。幼児教育学科の学位授与方針の1、2、3に該当します。

科目の概要

一人一人の子どもたちの育ちは様々ですが、その子ども達が生き生きと楽しく毎日を過ごすためにどのような関わりが必要かを心理学的見地から学んでいきます。何らかの心の問題や葛藤、発達の課題を持つ人に、心理学的な知識や技法を用いて実践的に援助する方法について学び、保育場面あるいは生活場面での実践について考えながら学んでいきます。

学修目標

臨床発達、臨床心理学の初歩的な知識を学びながら、今日の子どもの臨床的課題を把握します。子どもの発達を踏まえ、さまざまな問題が発生する原因について心理学的な見地から考え、その上で、一人の人間としてまた保育者として何が出来るのかを考えていくことを目標とします。

内容

何らかの心理的支援が必要な子どもたちとはどのような状況 (環境) にあるのかを知ることから始め、子どもたちの現状を理解するために、さまざまな文献、資料 (視聴覚教材を含む) をもとに直面している課題と今後の展望についてディスカッションを通して学びを深めていきます。また子どもの育つ環境として望ましくない場合も現実の場面では多くあります。そうした状況にある親子についてどのような支援が出来るのか、また子どもが抱えている要因、親が抱えている要因、社会的環境要因についても学びながら援助の方法について考えていきます。

また、グループワークやグループでの発表等も行い、インタラクティブに学び合い、そこから自分自身の考えを深め、それを発表することが求められます。

以下に述べるテーマを取り上げます。

1. 現代の子育て事情と支援を必要とする子どもの現状
支援が必要な問題について考える (3回)
2. 支援が必要とされる事例の検討とグループワーク (3回)
3. 子どもの要因 : 発達障害を中心に考える (3回)
4. 親の要因 (1回)
5. 社会的要因 (1回)
6. さまざまな環境での子どもの育ちについて (3回)
7. まとめ (1回)

評価

授業内でのグループディスカッション及びグループワークへの参加度（30%）、授業内でのレポート（20%）、最終課題（50%）により総合的に評価します。60点以上を合格点とします。

授業外学習

【事前予習】与えられた課題に対して自分の意見が述べられるよう考えをまとめておくこと。今まで学んだことを理解しているか自分自身で確認しておくこと。【事後学修】理解を深めるため自主的に文献を探したり、自分の考えを文章にしてまとめること。事前・事後学習とも毎回30～60分程度必要です。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指定します。

【推薦書】授業内で必要に応じて随時紹介します。

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介します。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 子ども家庭福祉 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | KAe134 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の学位授与方針1、3に該当する。学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられた学科卒業必修科目である。子どもや家庭をめぐる社会福祉の要素を学ぶものであり、保育専門職として身につけるべき知識や技術、自己課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は、「生活と福祉」の各科目において学ぶ各子ども家庭福祉の制度やサービス体系、関連性を提示し、各科目の基礎知識と理解につながるものである。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。児童の権利に関する条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

学修目標

1. 家庭生活の変遷を知り、子ども家庭福祉に関する基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設の現状を理解する。
3. 児童の権利に関する条約を始めとした、子どもの権利擁護について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

| | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 子ども家庭福祉とは |
| 2 | 子ども家庭福祉の法体系とその対象 |
| 3 | 児童福祉法の変遷と権利擁護 |
| 4 | 児童福祉施設と専門職（社会的養護を中心に） |
| 5 | 児童福祉施設と専門職（障がいのある子どもの支援を中心に） |
| 6 | 保育・教育施設と幼保一体化 |
| 7 | 保育・教育施設と幼保一体化 |
| 8 | 児童福祉法の変遷と専門機関・職の確認 / 前半講義のまとめ |
| 9 | 子ども家庭福祉の歴史の変遷（主に諸外国を中心に） |
| 10 | 子ども家庭福祉の歴史の変遷（主に戦前日本を中心に） |
| 11 | 子ども家庭福祉の歴史の変遷（主に戦後日本を中心に） |
| 12 | 子ども家庭福祉の現状 |
| 13 | 子ども家庭福祉の法体系と実施体制 |
| 14 | 子育て支援サービス、子ども家庭福祉の展望 |
| 15 | 歴史と子ども家庭福祉の現状の確認 / 後半講義のまとめ |

評価

授業毎リアクションペーパー（20点）、学修目標に関する課題（20点）、前半筆記テスト（30点）、後半筆記テスト

(30点)とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。[フィードバック]授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

授業外学習

【事前予習】授業では教科書1冊を学び終えることになる。授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読み、理解できない点は調べる等を2時間半程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。また、関連する文献、情報等の確認を1時間半程度行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書] 新・はじめて学ぶ社会福祉 児童家庭福祉論(第2版)(ミネルヴァ書房)、最新保育資料集2019(ミネルヴァ書房)、ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2019(中央法規)

[参考書] 保育所保育指針解説書(フレーベル館)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)、幼稚園教育要領解説(フレーベル館)

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|---------|
| 科目名 | 子ども家庭福祉 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | KAe134 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の学位授与方針1、3に該当する。学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられた学科卒業必修科目である。子どもや家庭をめぐる社会福祉の要素を学ぶものであり、保育専門職として身につけるべき知識や技術、自己課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は、「生活と福祉」の各科目において学ぶ各子ども家庭福祉の制度やサービス体系、関連性を提示し、各科目の基礎知識と理解につながるものである。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。児童の権利に関する条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

学修目標

1. 家庭生活の変遷を知り、子ども家庭福祉に関する基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設の現状を理解する。
3. 児童の権利に関する条約を始めとした、子どもの権利擁護について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

| | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 子ども家庭福祉とは |
| 2 | 子ども家庭福祉の法体系とその対象 |
| 3 | 児童福祉法の変遷と権利擁護 |
| 4 | 児童福祉施設と専門職（社会的養護を中心に） |
| 5 | 児童福祉施設と専門職（障がいのある子どもの支援を中心に） |
| 6 | 保育・教育施設と幼保一体化 |
| 7 | 保育・教育施設と幼保一体化 |
| 8 | 児童福祉法の変遷と専門機関・職の確認 / 前半講義のまとめ |
| 9 | 子ども家庭福祉の歴史の変遷（主に諸外国を中心に） |
| 10 | 子ども家庭福祉の歴史の変遷（主に戦前日本を中心に） |
| 11 | 子ども家庭福祉の歴史の変遷（主に戦後日本を中心に） |
| 12 | 子ども家庭福祉の現状 |
| 13 | 子ども家庭福祉の法体系と実施体制 |
| 14 | 子育て支援サービス、子ども家庭福祉の展望 |
| 15 | 歴史と子ども家庭福祉の現状の確認 / 後半講義のまとめ |

評価

授業毎リアクションペーパー（20点）、学修目標に関する課題（20点）、前半筆記テスト（30点）、後半筆記テスト

(30点)とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。[フィードバック]授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

授業外学習

【事前予習】授業では教科書1冊を学び終えることになる。授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読み、理解できない点は調べる等を2時間半程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。また、関連する文献、情報等の確認を1時間半程度行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書] 新・はじめて学ぶ社会福祉 児童家庭福祉論(第2版)(ミネルヴァ書房)、最新保育資料集2019(ミネルヴァ書房)、ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2019(中央法規)

[参考書] 保育所保育指針解説書(フレーベル館)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)、幼稚園教育要領解説(フレーベル館)

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|----|
| 科目名 | 子ども家庭福祉 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | KAe334 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は幼児教育学科の学位授与方針1.3に該当し、専門科目「生活福祉」に位置する選択科目である。子ども家庭福祉 をふまえて、現在の子ども家庭福祉問題に関わる援助の実際について、関わる機関、施設、領域、対象別にテーマを設けて検討する。特に、法改正の変遷や子どもをめぐる問題、子どもの権利の保護の実情等に即して、専門援助のあり方を考察できるようになることを目指す。

科目の概要 本講義では、子ども家庭福祉 をふまえて、現在の児童福祉問題に関わる援助の実際について、現代の子どもや家庭に関わる福祉課題の理解、理念の理解（講義1.2.3.4）、子ども家庭福祉の法制度、関わる機関、支援、施設の理解（講義5.6.7.8.9.10.11.12.13）をふまえ、今後の課題について考察ができる（講義14）ようになることを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における子どもや家庭の現状と福祉課題について理解する。 2. 子ども家庭福祉の法制度の基礎を理解する。 3. 子ども家庭福祉の援助体制や実際について理解する。 4. 子ども家庭福祉の動向と課題について理解する。

内容

本科目は講義を基本にしつつ、資料、ワークシートを活用したり、グループワークも取り入れながら学びを深めていく。

- 1 現代社会と子ども・家庭の生活実態
- 2 子ども・家庭福祉の歴史的展開と現代的ニーズ1
- 3 子ども・家庭福祉の歴史的展開と現代的ニーズ2
- 4 子ども家庭福祉の理念 児童の権利
- 5 子ども家庭福祉に関わる法と実施体制
- 6 子ども家庭福祉と自立支援
- 7 児童虐待の理解
- 8 児童虐待、家庭内暴力への援助と防止
- 9 子ども家庭福祉サービスの実際 1
- 10 子ども家庭福祉サービスの実際 2
- 11 子ども家庭福祉サービスの実際 3
- 12 子ども家庭福祉サービスの実際 4 児童福祉専門職の専門性
- 13 子ども家庭福祉サービスの新しい動きと倫理の課題
- 14 講義の総括
- 15 授業の振り返り フィードバック まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート(授業内含む)(20点)、試験(50点)、授業態度(リアクションペーパー提出含む)(30点)。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題レポート、試験のフィードバックは授業最終週に行う。

授業外学習

【事前予習】子ども家庭福祉、社会福祉の授業で習得した知識の確認。各授業の前回内容の復習と次回の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。

【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 講義中に示す

推薦書、参考文献等 講義中に適宜示す

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 社会福祉 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | KAe135 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は幼児教育学科の学位授与方針1.3に該当する学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し(講義1.2)社会福祉と児童の人権や子ども家庭福祉における支援の関連性について理解する(講義3.4)、そして、社会福祉に関わる基本的な制度、実施体系、専門職などについて理解を深め(講義5.6.7.8.9.10.11.12)、課題の考察、判断の根拠の提示(講義13)が可能になることを目的とする。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、グループでの討議も採り入れながら学びを深める。

| | |
|----|---|
| 1 | オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義 |
| 2 | 現代社会における社会福祉 取り巻く環境と歴史的展開 |
| 3 | 社会福祉と人権 (1) 社会福祉の理念 |
| 4 | 社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護 |
| 5 | 社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系 |
| 6 | 社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関 |
| 7 | 社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等とサービスの理解 |
| 8 | 社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者 |
| 9 | 社会福祉の制度と実施体系 (5) 社会保障及び関連制度の概要 |
| 10 | 社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則 |
| 11 | 社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術 |
| 12 | 社会福祉における相談援助 (3) 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み |
| 13 | 社会福祉の動向と課題 1 |
| 14 | 社会福祉の動向と課題 2 全体総括 |
| 15 | まとめ |

評価

学修目標に関する課題レポート(授業内含む)(20点)、試験(50点)、授業態度(リアクションペーパー提出含む)(30点)。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題レポート、試験のフィードバックは授業最終週に行う。

授業外学習

【事前予習】子ども家庭福祉 で習得した知識、これまでの社会関連知識等を確認すること、各授業の前回内容の復習と次の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】石田慎二・山縣文治編著「新・プリマーズ保育 福祉 社会福祉」ミネルヴァ書房
参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 社会福祉 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | KAe135 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は幼児教育学科の学位授与方針1.3に該当し、学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し (講義1.2) 社会福祉と児童の人権や子ども家庭福祉における支援の関連性について理解する (講義3.4)、そして、社会福祉に関わる基本的な制度、実施体系、専門職などについて理解を深め (講義5.6.7.8.9.10.11.12)、課題の考察、判断の根拠の提示 (講義13) が可能になることを目的とする。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、グループでの討議も採り入れながら学びを深める。

| | |
|----|---|
| 1 | オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義 |
| 2 | 現代社会における社会福祉 取り巻く環境と歴史的展開 |
| 3 | 社会福祉と人権 (1) 社会福祉の理念 |
| 4 | 社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護 |
| 5 | 社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系 |
| 6 | 社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関 |
| 7 | 社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等とサービスの理解 |
| 8 | 社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者 |
| 9 | 社会福祉の制度と実施体制 (5) 社会保障及び関連制度の概要 |
| 10 | 社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則 |
| 11 | 社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術 |
| 12 | 社会福祉における相談援助 (3) 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み |
| 13 | 社会福祉の動向と課題 1 |
| 14 | 社会福祉の動向と課題 2 全体総括 |
| 15 | まとめ |

評価

学修目標に関する課題レポート(授業内含む)(20点)、試験(50点)、授業態度(リアクションペーパー提出含む)(30点)。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題レポート、試験のフィードバックは授業最終週に行う。

授業外学習

【事前予習】子ども家庭福祉 で習得した知識、これまでの社会関連知識等を確認すること、各授業の前回内容の復習と次の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】石田慎二・山縣文治編著「新・プリマーズ保育 福祉 社会福祉」ミネルヴァ書房
参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 相談援助 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | KAe336 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の学位授与方針1、3に該当する。本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会的養護原理」「社会的養護内容」「子育て支援論」、3年次履修「保育・教育相談」や3・4年次の保育所実習及び施設実習とも関連性がある。

科目の概要

保育現場における相談援助の概要を理解し、具体的な方法と援助、展開について学ぶ。また、保育におけるソーシャルワークの応用について具体的な事例から学ぶ。保育士としてどのようなソーシャルワークを実践していくことが必要かについて考え、直接援助技術及び間接援助技術について理解を深める。

学修目標

1. 保育者に期待される相談援助の概要を知り、支援方法と技術について理解する。
2. 様々な子育て家庭への理解を深め、支援の必要性と内容を判断する力を養う。
3. 保護者に対する具体的なかかわり方とその計画・評価について理解する。
4. 保護者・地域・他の専門職との連携について理解する。

内容

視聴教材や臨床事例（保育場面、園庭開放、障害児など）を取り入れて、ロールプレイやグループディスカッションを重ねながら受講生相互に学びを深めていく。

| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 相談援助とは |
| 2 | 子どもの保育と共に行う保護者支援 |
| 3 | 保護者との相互理解と信頼形成にあたってのソーシャルワークの活用 |
| 4 | 相談援助の概要：相談援助とソーシャルワーク |
| 5 | 相談援助の概要：保育とソーシャルワーク |
| 6 | 地域と保育者の連携・協働 |
| 7 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの実際 |
| 8 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの実際 |
| 9 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの実際 |
| 10 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの理論と要点 |
| 11 | 相談援助の方法と技術：生活環境とソーシャルワーク |
| 12 | 相談援助の展開：事例に基づいた計画・記録・評価の作成 |
| 13 | 相談援助の展開：事例検討を元にした相談援助の展開 |
| 14 | 相談援助の展開：まとめ |
| 15 | 子育て家庭のニーズと保育者の専門性 |

評価

授業毎リアクションペーパーの内容評価（20点）、グループ学習及び授業課題（30点）、期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

授業外学習

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読などしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。また、保育所保育指針解説等を読む。1時間程度行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】子育て支援（中央法規）、保育所保育指針解説書(フレーベル館)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)、幼稚園教育要領解説(フレーベル館)

[推薦書] 子どもが育つ保護者も育つ 保育者のコミュニケーションスキル（少年写真新聞社）

[参考図書] 最新保育資料集2019（ミネルヴァ書房）

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 相談援助 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | KAe336 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修*, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の学位授与方針1、3に該当する。本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会的養護原理」「社会的養護内容」「子育て支援論」、3年次履修「保育・教育相談」や3・4年次の保育所実習及び施設実習とも関連性がある。

科目の概要

保育現場における相談援助の概要を理解し、具体的な方法と援助、展開について学ぶ。また、保育におけるソーシャルワークの応用について具体的な事例から学ぶ。保育士としてどのようなソーシャルワークを実践していくことが必要かについて考え、直接援助技術及び間接援助技術について理解を深める。

学修目標

1. 保育者に期待される相談援助の概要を知り、支援方法と技術について理解する。
2. 様々な子育て家庭への理解を深め、支援の必要性と内容を判断する力を養う。
3. 保護者に対する具体的なかかわり方とその計画・評価について理解する。
4. 保護者・地域・他の専門職との連携について理解する。

内容

視聴教材や臨床事例(保育場面、園庭開放、障害児など)を取り入れて、ロールプレイやグループディスカッションを重ねながら受講生相互に学びを深めていく。

| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 相談援助とは |
| 2 | 子どもの保育と共に行う保護者支援 |
| 3 | 保護者との相互理解と信頼形成にあたってのソーシャルワークの活用 |
| 4 | 相談援助の概要：相談援助とソーシャルワーク |
| 5 | 相談援助の概要：保育とソーシャルワーク |
| 6 | 地域と保育者の連携・協働 |
| 7 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの実際 |
| 8 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの実際 |
| 9 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの実際 |
| 10 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの理論と要点 |
| 11 | 相談援助の方法と技術：生活環境とソーシャルワーク |
| 12 | 相談援助の展開：事例に基づいた計画・記録・評価の作成 |
| 13 | 相談援助の展開：事例検討を元にした相談援助の展開 |
| 14 | 相談援助の展開：まとめ |
| 15 | 子育て家庭のニーズと保育者の専門性 |

評価

授業毎リアクションペーパーの内容評価（20点）、グループ学習及び授業課題（30点）、期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

授業外学習

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読などしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。また、保育所保育指針解説等を読む。1時間程度行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】子育て支援（中央法規）、保育所保育指針解説書(フレーベル館)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)、幼稚園教育要領解説(フレーベル館)

[推薦書] 子どもが育つ保護者も育つ 保育者のコミュニケーションスキル（少年写真新聞社）

[参考図書] 最新保育資料集2019（ミネルヴァ書房）

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|----------|
| 科目名 | 相談援助 | | |
| 担当教員名 | 権 明愛 | | |
| ナンバリング | KAe336 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 3 に該当する。

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、今まで学んできた保育に関する知識と関連しながらより実践的な学び科目である。

科目の概要

保育現場における相談援助の意義と基本について理解した上で、具体的な方法と技術について学ぶ。

適宜、視聴教材や臨床事例、ロールプレイを取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生相互に学びを深めていくことを求める。

学修目標（=到達目標）

- 1 . 現代社会における保育現場で求められる相談援助のニーズと内容について理解する。
- 2 . 保育現場における相談援助の基本について理解した上で、具体的な支援方法と技術について学ぶ。
- 3 . 保育所入所児童の保護者への保護者支援について学ぶ。
- 4 . 保育所の地域子育て支援における相談支援について学ぶ。
- 5 . 児童福祉施設における相談支援について学ぶ。

内容

| | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 相談援助とは |
| 2 | 現場で出会う支援対象と支援内容 |
| 3 | 相談援助の概要：基本理念と意義 |
| 4 | 相談援助の概要：相談援助とソーシャルワーク |
| 5 | 相談援助の概要：保育とソーシャルワーク |
| 6 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの実際 |
| 7 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの実際 |
| 8 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの理論と要点 |
| 9 | 相談援助の方法と技術：ロールプレイングによるケースワーク |
| 10 | 相談援助の方法と技術：生活環境とソーシャルワーク |
| 11 | 相談援助の方法と技術：グループワーク及びコミュニティワーク |
| 12 | 相談援助の展開：計画・記録・評価 |
| 13 | 相談援助の展開：事例検討を元にした相談援助の展開 |
| 14 | 保育所における危機場面と相談援助 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

「フォードワーク」毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】約60分程度の時間を利用し、シラバスで次回の授業内容を確認した上で、保育所保育指針解説等指定のテキストと参考図書を読んで置く。

【事後学修】授業後はノートを読み返し、内容の理解を深める。また、授業時に出た指針・要領の内容を再度確認しておく。それぞれの授業に対し、約60分前後の事後学修を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

授業ではレジユメを配布すると共に、常に保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を使用する。

【推薦書】

授業時に紹介する。

【参考図書】

最新保育資料集2018 .

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|----------|
| 科目名 | 相談援助 | | |
| 担当教員名 | 権 明愛 | | |
| ナンバリング | KAe336 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 3 に該当する。

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、今まで学んできた保育に関する知識とその周辺分野の知識と関連しながらより実践的な学ぶ科目である。

科目の概要

保育現場における相談援助の意義と基本について理解した上で、具体的な方法と技術について学ぶ。

適宜、視聴教材や臨床事例（保育場面、園庭開放、障害児など）、ロールプレイを取り入れ、グループディスカッションを重ねながら受講生相互に学びを深めていくことを求める。

学修目標（=到達目標）

- 1 . 現代社会における保育現場で求められる相談援助のニーズと内容について学ぶ。
- 2 . 相談援助の基本について理解した上で、具体的な支援方法と技術について学ぶ。
- 3 . 保育所入所児童の保護者支援について学ぶ。
- 4 . 保育所の地域子育て支援における相談支援について学ぶ。
- 5 . 児童福祉施設における相談援助について学ぶ。

内容

| | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 相談援助とは |
| 2 | 現場で出会う支援対象と支援内容 |
| 3 | 相談援助の概要：基本理念と意義 |
| 4 | 相談援助の概要：相談援助とソーシャルワーク |
| 5 | 相談援助の概要：保育とソーシャルワーク |
| 6 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの実際 |
| 7 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの実際 |
| 8 | 相談援助の方法と技術：ケースワークの理論と要点 |
| 9 | 相談援助の方法と技術：ロールプレイングによるケースワーク |
| 10 | 相談援助の方法と技術：生活環境とソーシャルワーク |
| 11 | 相談援助の方法と技術：グループワーク及びコミュニティワーク |
| 12 | 相談援助の展開：計画・記録・評価 |
| 13 | 相談援助の展開：事例検討を元にした相談援助の展開 |
| 14 | 保育所における危機場面と相談援助 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

「フィードバック」毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】約60分程度の時間を利用し、シラバスで次回の授業内容を確認した上で、保育所保育指針解説等指定のテキストと参考図書を読んで置く。

【事後学修】授業後はノートを読み返し、内容の理解を深める。また、授業時に出た指針・要領の内容を再度確認しておく。それぞれの授業に対し、約60分前後の事後学修を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

授業ではレジユメを配布すると共に、常に保育所保育指針解説書と幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を使用する。

【推薦書】

授業時に紹介する。

【参考図書】

最新保育資料集2018 .

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 社会的養護 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | KAe237 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は幼児教育学科の学位授与方針1.3に該当し、学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている保育士資格必修科目である。1年生で学ぶ保育専門職として修得すべき科目を踏まえて、社会的養護の概念、意義と課題理解を目標とする。科目の関連は特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護内容」をはじめとした保育、社会的養護に関わる各福祉領域の制度やサービス理解とつながりが深い科目である。

科目の概要 本講義では、社会的養護の原理について理念と歴史的展開変遷（講義1.2.3.4）、児童の権利擁護と養護理論（講義5）、法と制度施策体制と施設機関の理解、自立支援、虐待対応と防止等（講義6.7.8.9.10.11.12.13）理解と今後の課題について考察ができる（講義14）ことを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。 **講義の目標** 1．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2．社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3．社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4．社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5．社会的養護の現状と課題について理解する。

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、グループでの討議も採り入れながら学びを深める。

< 内容 >

- 1 現代社会における社会的養護の意義と理念
- 2 社会的養護の歴史的展開、変遷 1
- 3 社会的養護の歴史的展開、変遷 2
- 4 社会的養護と子ども家庭福祉政策の展開
- 5 児童の権利擁護と社会的養護
- 6 社会的養護の制度、仕組みと実施体系
- 7 家庭的養護と施設養護
- 8 社会的養護の専門職・実施者
- 9 施設養護の実際
- 10 施設養護の実際 - 日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等 -
- 11 施設養護とソーシャルワーク
- 12 施設等の運営管理と地域とのかかわり、社会的養護の現状と課題
- 13 被措置児童等の虐待防止と社会的養護
- 14 講義の総括、
- 15 学習のまとめ 学習に対するフィードバック

評価

学修目標に関する課題レポート(授業内含む)(20点)、試験(50点)、授業態度(リアクションペーパー提出含む)(30点)。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題レポート、試験のフィードバックは授業最終週に行う。

授業外学習

【事前予習】「子ども家庭福祉」、「社会福祉」の学習内容を確認のこと。各授業の前回内容の復習と次回の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。

【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 小池由佳・山縣文治他編著「社会的養護」ミネルヴァ書房

推薦書 講義中に適宜示す

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 社会的養護 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | KAe237 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は幼児教育学科の学位授与方針1．3に該当する学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている保育士資格必修科目である。1年生で学ぶ保育専門職として修得すべき科目を踏まえて、社会的養護の概念、意義と課題理解を目標とする。科目の関連は特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護内容」をはじめとした保育、社会的養護に関わる各福祉領域の制度やサービス理解とつながりが深い科目である。

科目の概要 本講義では、社会的養護の原理について理念と歴史的展開変遷（講義1.2.3.4）、児童の権利擁護と養護理論（講義5）、法と制度施策体制と施設機関の理解、自立支援、虐待対応と防止等（講義6.7.8.9.10.11.12.13）理解と今後の課題について考察ができる（講義14）ことを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。 **講義の目標** 1．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2．社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3．社会的養護の制度や実施体系等について理解する。4．社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。5．社会的養護の現状と課題について理解する。

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、グループでの討議も採り入れながら学びを深める。

< 内容 >

- 1 現代社会における社会的養護の意義と理念
- 2 社会的養護の歴史的展開、変遷 1
- 3 社会的養護の歴史的展開、変遷 2
- 4 社会的養護と子ども家庭福祉政策の展開
- 5 児童の権利擁護と社会的養護
- 6 社会的養護の制度、仕組みと実施体系
- 7 家庭的養護と施設養護
- 8 社会的養護の専門職・実施者
- 9 施設養護の実際
- 10 施設養護の実際 - 日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等 -
- 11 施設養護とソーシャルワーク
- 12 施設等の運営管理と地域とのかかわり、社会的養護の現状と課題
- 13 被措置児童等の虐待防止と社会的養護
- 14 講義の総括、
- 15 学習のまとめ 学習に対するフィードバック

評価

学修目標に関する課題レポート(授業内も含む)(20点)、試験(50点)、授業態度(リアクションペーパー提出含む)(30点)。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題レポート、試験のフィードバックは授業最終週に行う。

授業外学習

【事前予習】「子ども家庭福祉」、「社会福祉」の学習内容を確認のこと。各授業の前回内容の復習と次回の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。

【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 小池由佳・山縣文治他編著「社会的養護」ミネルヴァ書房

推薦書 講義中に適宜示す

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 社会的養護内容 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | KAe238 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の学位授与方針1、3に該当し、学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている保育士資格取得必修科目である。1年開講「子ども家庭福祉」「社会福祉」及び2年前期開講「社会的養護原理」等の子ども家庭福祉関係科目とのつながりが深い科目であり、これらで学んだ保育専門職として習得すべき内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。

科目の概要

社会的養護や子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援の実際について、臨床事例や視聴教材より具体的に学ぶ。授業展開ではグループディスカッションやグループワークを取り入れ、理解や認識を深める。

学修目標

1. 社会的養護を通して、子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める。
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。
3. 個々の児童に応じた支援計画や、日常生活の支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。
4. 社会的養護における子どもの権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。

内容

視聴教材や臨床事例を取り入れて、グループワークやディスカッションを重ねながら受講生相互に学びを深めていく。

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | 社会の中での子どもの位置づけ |
| 2 | 子どもの権利擁護と倫理 |
| 3 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 4 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 5 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 6 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 7 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 8 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 9 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 10 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 11 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 12 | 保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設 |
| 13 | 保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設 |
| 14 | 自立支援計画書の作成・方法、社会的養護と保育の接続 |
| 15 | まとめ |

評価

授業毎リアクションペーパーの内容評価（20点）、グループ学習及び授業課題（30点）、期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

授業外学習

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読などしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。1時間程度行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 保育者のための児童家庭福祉データブック2019（中央法規）、この他に、社会的養護原理と同じものを使用する。

[参考図書] 最新保育資料集2019（ミネルヴァ書房）

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 社会的養護内容 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | KAe238 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の学位授与方針1、3に該当し、学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている保育士資格取得必修科目である。1年開講「子ども家庭福祉」「社会福祉」及び2年前期開講「社会的養護原理」等の子ども家庭福祉関係科目とのつながりが深い科目であり、これらで学んだ保育専門職として習得すべき内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。

科目の概要

社会的養護や子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援の実際について、臨床事例や視聴教材より具体的に学ぶ。授業展開ではグループディスカッションやグループワークを取り入れ、理解や認識を深める。

学修目標

1. 社会的養護を通して、子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める。
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。
3. 個々の児童に応じた支援計画や、日常生活の支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。
4. 社会的養護における子どもの権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。

内容

視聴教材や臨床事例を取り入れて、グループワークやディスカッションを重ねながら受講生相互に学びを深めていく。

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | 社会の中での子どもの位置づけ |
| 2 | 子どもの権利擁護と倫理 |
| 3 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 4 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 5 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 6 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 7 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 8 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 9 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 10 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 11 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 12 | 保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設 |
| 13 | 保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設 |
| 14 | 自立支援計画書の作成・方法、社会的養護と保育の接続 |
| 15 | まとめ |

評価

授業毎リアクションペーパーの内容評価（20点）、グループ学習及び授業課題（30点）、期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

授業外学習

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読などしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。1時間程度行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 保育者のための児童家庭福祉データブック2019（中央法規）、この他に、社会的養護原理と同じものを使用する。

[参考図書] 最新保育資料集2019（ミネルヴァ書房）

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 社会的養護内容 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | KAe238 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の学位授与方針1、3に該当し、学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている保育士資格取得必修科目である。1年開講「子ども家庭福祉」「社会福祉」及び2年前期開講「社会的養護原理」等の子ども家庭福祉関係科目とのつながりが深い科目であり、これらで学んだ保育専門職として習得すべき内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。

科目の概要

社会的養護や子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援の実際について、臨床事例や視聴教材より具体的に学ぶ。授業展開ではグループディスカッションやグループワークを取り入れ、理解や認識を深める。

学修目標

1. 社会的養護を通して、子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める。
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。
3. 個々の児童に応じた支援計画や、日常生活の支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。
4. 社会的養護における子どもの権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。

内容

視聴教材や臨床事例を取り入れて、グループワークやディスカッションを重ねながら受講生相互に学びを深めていく。

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | 社会の中での子どもの位置づけ |
| 2 | 子どもの権利擁護と倫理 |
| 3 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 4 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 5 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 6 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 7 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 8 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 9 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 10 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 11 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 12 | 保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設 |
| 13 | 保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設 |
| 14 | 自立支援計画書の作成・方法、社会的養護と保育の接続 |
| 15 | まとめ |

評価

授業毎リアクションペーパーの内容評価（20点）、グループ学習及び授業課題（30点）、期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

授業外学習

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読などしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。1時間程度行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 保育者のための児童家庭福祉データブック2019（中央法規）、この他に、社会的養護原理と同じものを使用する。

[参考図書] 最新保育資料集2019（ミネルヴァ書房）

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 社会的養護内容 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | KAe238 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の学位授与方針1、3に該当し、学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている保育士資格取得必修科目である。1年開講「子ども家庭福祉」「社会福祉」及び2年前期開講「社会的養護原理」等の子ども家庭福祉関係科目とのつながりが深い科目であり、これらで学んだ保育専門職として習得すべき内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。

科目の概要

社会的養護や子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援の実際について、臨床事例や視聴教材より具体的に学ぶ。授業展開ではグループディスカッションやグループワークを取り入れ、理解や認識を深める。

学修目標

1. 社会的養護を通して、子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める。
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。
3. 個々の児童に応じた支援計画や、日常生活の支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。
4. 社会的養護における子どもの権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。

内容

視聴教材や臨床事例を取り入れて、グループワークやディスカッションを重ねながら受講生相互に学びを深めていく。

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | 社会の中での子どもの位置づけ |
| 2 | 子どもの権利擁護と倫理 |
| 3 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 4 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 5 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 6 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 7 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 8 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 9 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 10 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 11 | 保育者の基本的な養護援助・支援（1）児童養護施設など |
| 12 | 保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設 |
| 13 | 保育者の基本的な養護援助・支援（2）障害児系施設 |
| 14 | 自立支援計画書の作成・方法、社会的養護と保育の接続 |
| 15 | まとめ |

評価

授業毎リアクションペーパーの内容評価（20点）、グループ学習及び授業課題（30点）、期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

授業外学習

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読などしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。1時間程度行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 保育者のための児童家庭福祉データブック2019（中央法規）、この他に、社会的養護原理と同じものを使用する。

[参考図書] 最新保育資料集2019（ミネルヴァ書房）

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 子育て支援論 | | |
| 担当教員名 | 向井 美穂 | | |
| ナンバリング | KAe239 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は保育士養成課程カリキュラムの「保育の対象の理解に関する科目」の一つであり、「家庭の意義とその機能」、「子育て家庭を取り巻く社会的状況」、「子育て家庭の支援体制」、「子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携」について理解することが求められる。幼児教育学科の学位授与方針の内、主に1、3に該当する。

科目の概要

子育てを取り巻く昨今の社会的状況の変化を踏まえ、子育てや家族・家庭の現状を知ると共に、現代社会において求められている子育て支援、家族・家庭支援について考えを深めることを目指す。

学修目標 (= 到達目標)

- ・子育てを取り巻く地域や社会の状況と多様な支援ニーズについて理解し、子育て支援、家族・家庭支援に関する広い視野を身につける。
- ・子育て支援の実践例について主体的に学ぶ中で、子育て支援の必要性和意義について理解し、受講者自身が取り組むことが出来る子育て支援の方法について考えを深める。

内容

各授業毎に修得及び理解を要するテーマを提示する。その授業テーマに応じて、グループディスカッション及びグループワーク、発表等を取り入れる。また、授業内で自分自身の考えを発言することが求められる。講義形式の授業ではあるが、可能な限り双方向からの応答的な授業展開を目指す。

| | |
|----|---|
| 1 | 子育てと家族・家庭 (1) オリエンテーション「子どもが育つ」とは |
| 2 | 子育てと家族・家庭 (2) 「親になる」とは |
| 3 | 子育てと家族・家庭 (3) 家族・家庭の機能と役割 |
| 4 | 子育てを取り巻く社会的状況 (1) 子育て環境の変化 |
| 5 | 子育てを取り巻く社会的状況 (2) 子育て意識の変化 |
| 6 | 子育てを取り巻く社会的状況 (3) 必要な社会資源 |
| 7 | 子育て家庭支援の政策動向と展望 |
| 8 | 多様な支援の展開と関係機関との連携 (1) 子育て支援機関の概要と実践例 |
| 9 | 多様な支援の展開と関係機関との連携 (2) 子育て支援機関の概要と実践例 |
| 10 | 多様な支援の展開と関係機関との連携 (3) 子育て支援機関の概要と実践例 |
| 11 | 特別なニーズを持つ家族・家庭の子育て支援 (1) 特別なニーズへの対応の考え方 |
| 12 | 特別なニーズを持つ家族・家庭の支援 (2) 多様なニーズの理解 |
| 13 | 特別なニーズを持つ家族・家庭の支援 (3) 多様なニーズを踏まえた支援 |
| 14 | 諸外国の子育て家庭支援 |
| 15 | まとめ |

評価

毎回の授業後のリアクションペーパーと小課題（30%）、授業への参加度（20%）、最終課題（50%）により総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業内で指定されたテキストの該当箇所を読み、自分なりの問題意識を持ち考えを深めておくこと(各授業に対して30分程度)。また、事前課題を提示された場合は、意欲を持って取り組むこと。【事後学修】授業内で記入したノートとテキストを照らし合わせて復習し、自分の考えをまとめること(各授業に対して30分程度)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指定する。その他、適宜プリントを配布する。

【推薦書】松本園子他著「実践 家庭支援論」ななみ書房

小野澤昇他編著「子どもの生活を支える家庭支援論」ミネルヴァ書房

大豆生田啓友他編「よくわかる子育て支援・家族援助論」ミネルヴァ書房

【参考図書】適宜、授業内で紹介する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 子育て支援論 | | |
| 担当教員名 | 向井 美穂 | | |
| ナンバリング | KAe239 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は保育士養成課程カリキュラムの「保育の対象の理解に関する科目」の一つであり、「家庭の意義とその機能」、「子育て家庭を取り巻く社会的状況」、「子育て家庭の支援体制」、「子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携」について理解することが求められる。幼児教育学科の学位授与方針の内、主に1、3に該当する。

科目の概要

子育てを取り巻く昨今の社会的状況の変化を踏まえ、子育てや家族・家庭の現状を知ると共に、現代社会において求められている子育て支援、家族・家庭支援について考えを深めることを目指す。

学修目標 (= 到達目標)

- ・子育てを取り巻く地域や社会の状況と多様な支援ニーズについて理解し、子育て支援、家族・家庭支援に関する広い視野を身につける。
- ・子育て支援の実践例について主体的に学ぶ中で、子育て支援の必要性と意義について理解し、受講者自身が取り組むことが出来る子育て支援の方法について考えを深める。

内容

各授業毎に修得及び理解を要するテーマを提示する。その授業テーマに応じて、グループディスカッション及びグループワーク、発表等を取り入れる。また、授業内で自分自身の考えを発言することが求められる。講義形式の授業ではあるが、可能な限り双方向からの応答的な授業展開を目指す。

| | |
|----|---|
| 1 | 子育てと家族・家庭 (1) オリエンテーション「子どもが育つ」とは |
| 2 | 子育てと家族・家庭 (2) 「親になる」とは |
| 3 | 子育てと家族・家庭 (3) 家族・家庭の機能と役割 |
| 4 | 子育てを取り巻く社会的状況 (1) 子育て環境の変化 |
| 5 | 子育てを取り巻く社会的状況 (2) 子育て意識の変化 |
| 6 | 子育てを取り巻く社会的状況 (3) 必要な社会資源 |
| 7 | 子育て家庭支援の政策動向と展望 |
| 8 | 多様な支援の展開と関係機関との連携 (1) 子育て支援機関の概要と実践例 |
| 9 | 多様な支援の展開と関係機関との連携 (2) 子育て支援機関の概要と実践例 |
| 10 | 多様な支援の展開と関係機関との連携 (3) 子育て支援機関の概要と実践例 |
| 11 | 特別なニーズを持つ家族・家庭の子育て支援 (1) 特別なニーズへの対応の考え方 |
| 12 | 特別なニーズを持つ家族・家庭の支援 (2) 多様なニーズの理解 |
| 13 | 特別なニーズを持つ家族・家庭の支援 (3) 多様なニーズを踏まえた支援 |
| 14 | 諸外国の子育て家庭支援 |
| 15 | まとめ |

評価

毎回の授業後のリアクションペーパーと小課題（30%）、授業への参加度（20%）、最終課題（50%）により総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業内で指定されたテキストの該当箇所を読み、自分なりの問題意識を持ち考えを深めておくこと(各授業に対して30分程度)。また、事前課題を提示された場合は、意欲を持って取り組むこと。【事後学修】授業内で記入したノートとテキストを照らし合わせて復習し、自分の考えをまとめること(各授業に対して30分程度)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指定する。その他、適宜プリントを配布する。

【推薦書】松本園子他著「実践 家庭支援論」ななみ書房

小野澤昇他編著「子どもの生活を支える家庭支援論」ミネルヴァ書房

大豆生田啓友他編「よくわかる子育て支援・家族援助論」ミネルヴァ書房

【参考図書】適宜、授業内で紹介する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|----|
| 科目名 | 地域福祉論 | | |
| 担当教員名 | 佐藤 陽 | | |
| ナンバリング | KAe240 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1, 2, 3 を踏まえ、カリキュラムポリシーの生活と福祉において位置づけられている。本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。しかし、本科目においては、専門的な知識と技能の習得を図り全人的な人間理解をめざすものとする。

科目の概要

地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法について理解する。

学修目標

1. 地域福祉の基本的考え方について理解する。
2. 地域福祉の主体と対象について理解する。
3. 地域福祉に係る行政及び民間組織、専門職の役割と実際を理解する。
4. 地域福祉の推進方法について理解する。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

| | |
|----|---------------------|
| 1 | 地域福祉を知る |
| 2 | 地域福祉の実際について |
| 3 | 地域福祉の概観を捉える |
| 4 | 地域福祉の主体と対象 |
| 5 | 地域福祉における民間組織・住民の役割 |
| 6 | 地域福祉実践を知る |
| 7 | 社会福祉協議会の組織と役割 |
| 8 | 地域福祉の専門職と人材 |
| 9 | 社会福祉協議会の仕事 |
| 10 | ネットワーキングの意味と方法 |
| 11 | 地域福祉ネットワークの実際 |
| 12 | ボランティア・市民活動の推進と福祉教育 |
| 13 | 福祉教育・ボランティア学習の実際 |
| 14 | 地域福祉の課題 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加度10%(シンキングタイムで学生同士で話し合う)、毎回のリアクションペーパー等10%、中間レポート40%、筆記試験40%とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】厚生労働省HP「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書」「地域共生社会の実現に向けて」を確認し、自分なりに内容を整理しまとめる。(各授業に対して60分)。

【事後学修】復習することを必須とし、授業時に紹介されたHP、法律や政策、図書、国家試験問題等について各自で内容を理解し深められるよう、復習ノートを作成する(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦図書】新社会福祉士養成課程対応 第2版 地域福祉の理論と方法 株式会社みらい

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童養護論 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | KAe441 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は幼児教育学科の学位授与方針 1 . 3 に該当する学科専門科目における選択科目である。1年生、2年生で修得した保育に関わる専門科目 (特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護」、「社会的養護内容」等保育必修科目全般) を踏まえて、子ども家庭福祉、社会的養護の現状と専門性を深く理解し、課題を考察できるようになることを到達課題とする。さらに、実践的、発展的な学習をめざす科目である。

科目の概要 本科目では子ども家庭福祉、社会的養護について、現代の福祉援助課題に対応する児童福祉の基本的視座・意義や理念 (講義1.2.3.4.)、社会的養護の対象や方法、内容、課題の確認 (講義5.6.7.8.9)、学生自身の考察をしたことについて提示を求める (講義10.11.12.13.14)。

学修の目標 本講義では教材内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を学修できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、学生自身が課題を考察することを求める。授業ごとにリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。

講義の目標 1 現代の社会福祉、子ども家庭に対する福祉援助の意義や理念、対象、課題の理解 2 施設運営や援助体制、専門的支援内容、専門職の理解 3 自立支援の視点や権利擁護の視点から具体的な論点の理解 4 児童福祉、社会的養護の現状を踏まえた今後の展望理解と考察

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、グループでの討議もとり入れながら学びを深める。

内容

- 1 社会福祉・社会的養護の定義と関係
- 2 社会的養護、子ども家庭福祉の歴史1
- 3 社会的養護、子ども課程内施設援助の歴史2
- 4 社会福祉、子ども家庭福祉の意義と基本原理
- 5 社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護の現状
- 6 社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護の課題
- 7 社会的養護における援助の内容 1
- 8 社会的養護における援助の内容 2
- 9 社会的養護における援助の内容 3
- 10 子ども家庭福祉、社会的養護の課題 1
- 11 子ども家庭福祉、社会的養護の課題 2
- 12 子ども家庭福祉、社会的養護の課題 3
- 13 子ども家庭福祉、社会的養護の課題 4
- 14 授業内容の総括とフィードバック
- 15 振り返り、まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート(授業内含む)(20点)、試験(50点)、授業態度(リアクションペーパー提出含む)(30点)。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題レポート、試験のフィードバックは授業最終週に行う。

授業外学習

【事前予習】必要に応じて、子ども家庭福祉の課題の確認を行う各授業の前回内容の復習、次回の学習内容について提示したことに関わる知識確認、報告資料作成等を1時間半程度行う。

【事後学修】授業終了ごとに、授業中に扱われた事項、報告内容の復習、ノートやテキスト等の該当箇所、知識の確認を1時間半程度行う。さらに1時間程度、関連の文献、資料などから学習し、考察する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 講義内で示す。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童養護論 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | KAe441 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針1.3に該当する学科専門科目であり、卒業研究へつながらせる選択科目である。「すべての子ども」とその保護者、彼らを支援する保育者と社会資源について、具体的な事例から保育者の専門性を踏まえて理解し、課題を考察できるようになることを到達課題とする。

科目の概要

本科目では、当事者理解として、障害児者及び社会的養護に関係する子どもとそのきょうだい、保護者について理解を進めていく。また、発達支援や生活支援、家族支援についても具体的に考察すると共に、絵本の多様性と支援及び保育としての活用についても理解していく。

学修の目標

1. 当事者理解の視座を持ち、理解としての評価と共感的理解の重要性を理解する。
2. 当事者のきょうだい、家族支援について理解する。
3. 絵本の多様性を理解し、実際の援助の活用と保育での活用について理解する。
4. 保育者の援助と、より豊かな保育・生活を支えるための課題について考察する力を持つ。

内容

この授業は講義を基本に、グループワークやディスカッション、PBLを取り入れながら学びを深めていく。

| | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 「すべての子ども」の具体的な姿と実際、テーマ設定 |
| 2 | 当事者理解 事例を基にして |
| 3 | 当事者理解 事例を基にして |
| 4 | 当事者理解の考察と支援としての可能性 |
| 5 | 当事者理解と支援の考察内容の分かち合いと総括 |
| 6 | 絵本の魅力と可能性 |
| 7 | 障害のある子どもが作成した絵本から当事者に迫る |
| 8 | 子育て支援としての絵本の可能性に迫る |
| 9 | 絵本の魅力と可能性の考察内容の分かち合いと総括 |
| 10 | きょうだいについて知る |
| 11 | きょうだいの支援について考察する |
| 12 | 社会的養護下にある子どもへの理解 |
| 13 | 施設と地域が協働した社会的養護下にある子どもへの支援の実際 |
| 14 | 子どもの育ちに求められる要因と保育者の専門性 |
| 15 | まとめ |

評価

授業毎リアクションペーパー (15点)、授業課題 (35点)、グループ学習の発表 (50点) とし、総合評価60点以上

を合格とする。

〔フィードバック〕授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や発表内容に関するフィードバックは実施後行う。

授業外学習

【事前予習】必要に応じて、子ども家庭福祉の課題の確認を行う各授業の前回内容の復習、次回の学習内容について提示したことに関わる知識確認、報告資料作成等を1時間半程度行う。

【事後学修】授業終了ごとに、授業中に扱われた事項、報告内容の復習、ノートやテキスト等の該当箇所、知識の確認を1時間半程度行う。さらに1時間程度、関連の文献、資料などから学習し、考察する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内に適宜紹介する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童保健学 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | KAf242 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.3に対応する

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

児童保健学 での学びを基礎に、子どもがかかりやすい病気や予防について学ぶとともに、保育中に体調不良になった子どもへの対応ができるように学習する。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

学修目標（=到達目標）

1. 子どもの疾病とその予防について説明できる。
2. 保育中に子どもが体調不良になった時の対応を説明できる。
3. 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について説明できる。
4. 保育所と家族や地域との連携のあり方が説明できる。

内容

この授業は講義を基本に、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 子どもの視力・目の異常
- 2 事故防止 乳幼児突然死症候群
- 3 皮膚の病気 アトピー性皮膚炎
- 4 ウイルス性感染症1
- 5 歯科保健
- 6 ウイルス性感染症2
- 7 予防接種
- 8 耳鼻科疾患
- 9 受動喫煙による子どもへの影響
- 10 気管支ぜんそく・呼吸器
- 11 病気の予防と適切な対応
- 12 児童虐待とその対応
- 13 地域と家族
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み30%と試験70%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、各自印刷するか、内容を閲覧できるタブレット・ノートパソコン等を持参する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童保健学 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | KAf242 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.3に対応する

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

児童保健学 での学びを基礎に、子どもがかかりやすい病気や予防について学ぶとともに、保育中に体調不良になった子どもへの対応ができるように学習する。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

学修目標（=到達目標）

1. 子どもの疾病とその予防について説明できる。
2. 保育中に子どもが体調不良になった時の対応を説明できる。
3. 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について説明できる。
4. 保育所と家族や地域との連携のあり方が説明できる。

内容

この授業は講義を基本に、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 子どもの視力・目の異常
- 2 事故防止 乳幼児突然死症候群
- 3 皮膚の病気 アトピー性皮膚炎
- 4 ウイルス性感染症1
- 5 歯科保健
- 6 ウイルス性感染症2
- 7 予防接種
- 8 耳鼻科疾患
- 9 受動喫煙による子どもへの影響
- 10 気管支ぜんそく・呼吸器
- 11 病気の予防と適切な対応
- 12 児童虐待とその対応
- 13 地域と家族
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み30%と試験70%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、各自印刷するか、内容を閲覧できるタブレット・ノートパソコン等を持参する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童保健学演習 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | KAf243 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1.3 に対応する

子どもの健康増進や安全管理を演習から学び、観察力と対応力を身につける。

科目の概要

小児の発達段階に応じた心身の健康状態を理解するため、講義と演習を取り入れて、授業を展開する。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。

内容

この授業は演習に積極的に参加させ、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 子どもの正しい身体計測
- 2 体温測定、聴診器を使った心拍、呼吸数測定
- 3 デンバー式発達判定法
- 4 家庭で行う聴力・視力検査
- 5 叩かないしつけの技術
- 6 子どもの事故防止
- 7 手洗い実習、手洗い歌
- 8 ノロウイルス対策
- 9 調乳、哺乳、排気
- 10 乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴の手順
- 11 沐浴実習
- 12 夏の保育の注意
- 13 発熱、外傷、けいれん等の対応
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み40%と試験60%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。(各授業に対して30分)

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。(各授業に対して30分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、各自印刷するか、内容を閲覧できるタブレット・ノートパソコン等を持参する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童保健学演習 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | KAf243 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1.3 に対応する

子どもの健康増進や安全管理を演習から学び、観察力と対応力を身につける。

科目の概要

小児の発達段階に応じた心身の健康状態を理解するため、講義と演習を取り入れて、授業を展開する。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。

内容

この授業は演習に積極的に参加させ、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 子どもの正しい身体計測
- 2 体温測定、聴診器を使った心拍、呼吸数測定
- 3 デンバー式発達判定法
- 4 家庭で行う聴力・視力検査
- 5 叩かないしつけの技術
- 6 子どもの事故防止
- 7 手洗い実習、手洗い歌
- 8 ノロウイルス対策
- 9 調乳、哺乳、排気
- 10 乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴の手順
- 11 沐浴実習
- 12 夏の保育の注意
- 13 発熱、外傷、けいれん等の対応
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み40%と試験60%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、各自印刷するか、内容を閲覧できるタブレット・ノートパソコン等を持参する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童保健学演習 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | KAf243 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 10クラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1.3 に対応する

子どもの健康増進や安全管理を演習から学び、観察力と対応力を身につける。

科目の概要

小児の発達段階に応じた心身の健康状態を理解するため、講義と演習を取り入れて、授業を展開する。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。

内容

この授業は演習に積極的に参加させ、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 子どもの正しい身体計測
- 2 体温測定、聴診器を使った心拍、呼吸数測定
- 3 デンバー式発達判定法
- 4 家庭で行う聴力・視力検査
- 5 叩かないしつけの技術
- 6 子どもの事故防止
- 7 手洗い実習、手洗い歌
- 8 ノロウイルス対策
- 9 調乳、哺乳、排気
- 10 乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴の手順
- 11 沐浴実習
- 12 夏の保育の注意
- 13 発熱、外傷、けいれん等の対応
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み40%と試験60%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、各自印刷するか、内容を閲覧できるタブレット・ノートパソコン等を持参する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 児童保健学演習 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | KAf243 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1.3 に対応する

子どもの健康増進や安全管理を演習から学び、観察力と対応力を身につける。

科目の概要

小児の発達段階に応じた心身の健康状態を理解するため、講義と演習を取り入れて、授業を展開する。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。

内容

この授業は演習に積極的に参加させ、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 子どもの正しい身体計測
- 2 体温測定、聴診器を使った心拍、呼吸数測定
- 3 デンバー式発達判定法
- 4 家庭で行う聴力・視力検査
- 5 叩かないしつけの技術
- 6 子どもの事故防止
- 7 手洗い実習、手洗い歌
- 8 ノロウイルス対策
- 9 調乳、哺乳、排気
- 10 乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴の手順
- 11 沐浴実習
- 12 夏の保育の注意
- 13 発熱、外傷、けいれん等の対応
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み40%と試験60%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。(各授業に対して30分)

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。(各授業に対して30分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、各自印刷するか、内容を閲覧できるタブレット・ノートパソコン等を持参する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 食と発達 | | |
| 担当教員名 | 徳野 裕子 | | |
| ナンバリング | KAf244 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

保育士養成課程教育カリキュラムにおける " 保育の対象の理解に関する科目 " の一つであり、保育士資格を取得するためには必修の科目である。

科目の概要

保育者として、子どもの食生活を支援する力を身につけるため、栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達に応じた適切な栄養や食生活とは何かを学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学習する。以上の子どもの望ましい食生活を理解した上で、子どもや保護者に対する食育支援が実践できるように、演習として食育の媒体作成、発表を行う。

学修目標 (= 到達目標)

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身につける。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
3. 食育の基本と内容を理解する。
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

内容

この授業は、講義を基本にディスカッションを行いながら、深く学ぶと共に、まとめとして学んだことのアウトプットが上手いことができるかどうか確認するためにプレゼンを行う。

| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | ガイダンス、子どもの発達に応じた食について学ぶ意義 |
| 2 | 子どもの発育・発達と食生活 |
| 3 | 栄養に関する基本的な知識(栄養の基本概念と栄養素の種類と機能) |
| 4 | 栄養に関する基本的な知識(食事摂取基準と献立作成・調理の基本) |
| 5 | 妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴 |
| 6 | 乳児期の食生活(乳汁栄養) |
| 7 | 乳児期の食生活(子どもの発育・発達の関係と離乳の実際) |
| 8 | 幼児期の心身の発達と食生活 |
| 9 | 学童期・思春期の心身の発達と食生活 |
| 10 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 |
| 11 | 児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援 |
| 12 | 食育の基本と内容 |
| 13 | 食育のための媒体作成 |

| | |
|----|--------|
| 14 | 食育の発表会 |
| 15 | まとめ |

評価

毎回のリアクションペーパー等20%、授業内レポート20%、定期試験レポート50%、授業への参加度10%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。

授業外学習

【事前準備】教科書をよく読み、わからない用語や疑問をまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業で学んだ重要なポイントをノートにまとめる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】堤ちはる 他著：子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養，萌文書林

【参考図書】飯塚美和子 他著：最新子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために，学建書院
亀城和子 他著：保育所の食事を通して食育を，学建書院

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 食と発達 | | |
| 担当教員名 | 徳野 裕子 | | |
| ナンバリング | KAf244 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

保育士養成課程教育カリキュラムにおける " 保育の対象の理解に関する科目 " の一つであり、保育士資格を取得するためには必修の科目である。

科目の概要

保育者として、子どもの食生活を支援する力を身につけるため、栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達に応じた適切な栄養や食生活とは何かを学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学習する。以上の子どもの望ましい食生活を理解した上で、子どもや保護者に対する食育支援が実践できるように、演習として食育の媒体作成、発表を行う。

学修目標 (= 到達目標)

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身につける。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
3. 食育の基本と内容を理解する。
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

内容

この授業は、講義を基本にディスカッションを行いながら、深く学ぶと共に、まとめとして学んだことのアウトプットが上手いことができるかどうか確認するためにプレゼンを行う。

| | |
|----|------------------------------------|
| 1 | ガイダンス、子どもの発達に応じた食について学ぶ意義 |
| 2 | 子どもの発育・発達と食生活 |
| 3 | 栄養に関する基本的な知識 (栄養の基本概念と栄養素の種類と機能) |
| 4 | 栄養に関する基本的な知識 (食事摂取基準と献立作成・調理の基本) |
| 5 | 妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴 |
| 6 | 乳児期の食生活 (乳汁栄養) |
| 7 | 乳児期の食生活 (子どもの発育・発達の関係と離乳の実際) |
| 8 | 幼児期の心身の発達と食生活 |
| 9 | 学童期・思春期の心身の発達と食生活 |
| 10 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 |
| 11 | 児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援 |
| 12 | 食育の基本と内容 |
| 13 | 食育のための媒体作成 |

| | |
|----|--------|
| 14 | 食育の発表会 |
| 15 | まとめ |

評価

毎回のリアクションペーパー等20%、授業内レポート20%、定期試験レポート50%、授業への参加度10%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。

授業外学習

【事前準備】教科書をよく読み、わからない用語や疑問をまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業で学んだ重要なポイントをノートにまとめる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】堤ちはる 他著：子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養，萌文書林

【参考図書】飯塚美和子 他著：最新子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために，学建書院
亀城和子 他著：保育所の食事を通して食育を，学建書院

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 食と発達 | | |
| 担当教員名 | 中村 禎子 | | |
| ナンバリング | KAf244 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Cクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 幼児教育学科DP に該当する。

本科目は、保育士養成課程教育カリキュラムにおける”保育の対象の理解に関する科目”の一つであり、保育士資格を取得するためには必修の科目である。

科目の概要

保育者として、子どもの食生活を支援する力を身につけるため、栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達に応じた適切な栄養や食生活とは何かを学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学習する。以上の子どもの望ましい食生活を理解した上で、子どもや保護者に対する食育支援が実践できるように、演習として食育の媒体作成、発表を行う。

学修目標 (=到達目標)

- 1.健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身につける。
- 2.子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
- 3.食育の基本と内容を理解する。
- 4.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
- 5.特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

内容

講義、授業内課題、学生のプレゼンテーション、意見交換を実施する。

| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | ガイダンス, 子どもの発達に応じた食について学ぶ意義 |
| 2 | 子どもの発育・発達と食生活 |
| 3 | 栄養に関する基本的な知識(栄養の基本概念と栄養素の種類と機能) |
| 4 | 栄養に関する基本的な知識(食事摂取基準と献立作成・調理の基本) |
| 5 | 妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴 |
| 6 | 乳児期の食生活(乳汁栄養) |
| 7 | 乳児期の食生活(子どもの発育・発達の関係と離乳の実際) |
| 8 | 幼児期の心身の発達と食生活 |
| 9 | 学童期・思春期の心身の発達と食生活 |
| 10 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 |
| 11 | 児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援 |
| 12 | 食育の基本と内容 |
| 13 | 食育のための媒体作成 |
| 14 | 食育の発表会 |

評価

授業内レポート40点，定期試験レポート50点，授業態度10点とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】課題の返却、まとめを行う。

授業外学習

【事前準備】教科書をよく読み，わからない用語や疑問をまとめておく.60分

【事後学修】授業で学んだ重要なポイントをノートにまとめる.60分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる 他著：子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養，萌文書林

【推薦書】飯塚美和子 他著：最新子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために，学建書院

【参考図書】亀城和子 他著：保育所の食事を通して食育を，学建書院

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 食と発達 | | |
| 担当教員名 | 中村 禎子 | | |
| ナンバリング | KAf244 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 幼児教育学科DP に該当する。

本科目は、保育士養成課程教育カリキュラムにおける”保育の対象の理解に関する科目”の一つであり、保育士資格を取得するためには必修の科目である。

科目の概要

保育者として、子どもの食生活を支援する力を身につけるため、栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達に応じた適切な栄養や食生活とは何かを学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学習する。以上の子どもの望ましい食生活を理解した上で、子どもや保護者に対する食育支援が実践できるように、演習として食育の媒体作成、発表を行う。

学修目標 (=到達目標)

- 1.健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身につける。
- 2.子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
- 3.食育の基本と内容を理解する。
- 4.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
- 5.特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

内容

講義、授業内課題、学生のプレゼンテーション、意見交換を実施する。

| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | ガイダンス, 子どもの発達に応じた食について学ぶ意義 |
| 2 | 子どもの発育・発達と食生活 |
| 3 | 栄養に関する基本的な知識(栄養の基本概念と栄養素の種類と機能) |
| 4 | 栄養に関する基本的な知識(食事摂取基準と献立作成・調理の基本) |
| 5 | 妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴 |
| 6 | 乳児期の食生活(乳汁栄養) |
| 7 | 乳児期の食生活(子どもの発育・発達の関係と離乳の実際) |
| 8 | 幼児期の心身の発達と食生活 |
| 9 | 学童期・思春期の心身の発達と食生活 |
| 10 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 |
| 11 | 児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援 |
| 12 | 食育の基本と内容 |
| 13 | 食育のための媒体作成 |
| 14 | 食育の発表会 |
| 15 | 食育の発表会・まとめ |

評価

授業内レポート40点，定期試験レポート50点，授業態度10点とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】課題を返却し、まとめる。

授業外学習

【事前準備】教科書をよく読み，わからない用語や疑問をまとめておく.60分

【事後学修】授業で学んだ重要なポイントをノートにまとめる.60分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる 他著：子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養，萌文書林

【推薦書】飯塚美和子 他著：最新子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために，学建書院

【参考図書】亀城和子 他著：保育所の食事を通して食育を，学建書院

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 体育基礎（子どもと運動） | | |
| 担当教員名 | 鈴木 康弘 | | |
| ナンバリング | KAf245 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1. 2 に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動指導についてさらに深く専門的に学ぶ幼児運動論へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

学修目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

内容

| | |
|----|---------------------|
| 1 | オリエンテーション 授業の目的 |
| 2 | バンブーダンス |
| 3 | 音楽を使った準備運動 |
| 4 | 音楽を使った準備運動の練習 |
| 5 | 平均台を使った運動遊び |
| 6 | ボールを使った運動遊び |
| 7 | フープを使った運動遊び |
| 8 | マットを使った運動遊び |
| 9 | 跳び箱を使った運動遊び |
| 10 | 日本の伝承遊び あんたがたどこさ |
| 11 | 授業の振り返り（運動遊びノートの作成） |
| 12 | 授業の振り返り（運動遊びノートの作成） |
| 13 | 日本の伝承遊び 竹馬 |
| 14 | 日本の伝承遊び こま |
| 15 | 授業のまとめ |

評価

評価は、授業態度（25点）、授業での課題提出（運動遊びノートの作成 30点）、保育者としての運動遊びモデル（45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】各回の授業内容についてどのような遊びが考えられるのかについて自分なりに考えてみる。

【事後学修】各回の授業内容をまとめる。また、対応している教科書の部分（理論編）を読む。

【フィードバック】 授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 体育基礎（子どもと運動） | | |
| 担当教員名 | 鈴木 康弘 | | |
| ナンバリング | KAf245 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1. 2 に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動指導についてさらに深く専門的に学ぶ幼児運動論へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

学修目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

内容

| | |
|----|---------------------|
| 1 | オリエンテーション 授業の目的 |
| 2 | バンブーダンス |
| 3 | 音楽を使った準備運動 |
| 4 | 音楽を使った準備運動の練習 |
| 5 | 平均台を使った運動遊び |
| 6 | ボールを使った運動遊び |
| 7 | フープを使った運動遊び |
| 8 | マットを使った運動遊び |
| 9 | 跳び箱を使った運動遊び |
| 10 | 日本の伝承遊び あんたがたどこさ |
| 11 | 授業の振り返り（運動遊びノートの作成） |
| 12 | 授業の振り返り（運動遊びノートの作成） |
| 13 | 日本の伝承遊び 竹馬 |
| 14 | 日本の伝承遊び こま |
| 15 | 授業のまとめ |

評価

評価は、授業態度（25点）、授業での課題提出（運動遊びノートの作成 30点）、保育者としての運動遊びモデル（45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

【フィードバック】 授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】各回の授業内容についてどのような遊びが考えられるのかについて自分なりに考えてみる。

【事後学修】各回の授業内容をまとめる。また、対応している教科書の部分（理論編）を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 体育基礎（子どもと運動） | | |
| 担当教員名 | 鈴木 康弘 | | |
| ナンバリング | KAf245 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Cクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1. 2 に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動指導についてさらに深く専門的に学ぶ幼児運動論へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

学修目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

内容

| | |
|----|---------------------|
| 1 | オリエンテーション 授業の目的 |
| 2 | バンブーダンス |
| 3 | 音楽を使った準備運動 |
| 4 | 音楽を使った準備運動の練習 |
| 5 | 平均台を使った運動遊び |
| 6 | ボールを使った運動遊び |
| 7 | フープを使った運動遊び |
| 8 | マットを使った運動遊び |
| 9 | 跳び箱を使った運動遊び |
| 10 | 日本の伝承遊び あんたがたどこさ |
| 11 | 授業の振り返り（運動遊びノートの作成） |
| 12 | 授業の振り返り（運動遊びノートの作成） |
| 13 | 日本の伝承遊び 竹馬 |
| 14 | 日本の伝承遊び こま |
| 15 | 授業のまとめ |

評価

評価は、授業態度（25点）、授業での課題提出（運動遊びノートの作成 30点）、保育者としての運動遊びモデル（45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

【フィードバック】 授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】各回の授業内容についてどのような遊びが考えられるのかについて自分なりに考えてみる。

【事後学修】各回の授業内容をまとめる。また、対応している教科書の部分（理論編）を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 体育基礎（子どもと運動） | | |
| 担当教員名 | 鈴木 康弘 | | |
| ナンバリング | KAf245 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1. 2 に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動指導についてさらに深く専門的に学ぶ幼児運動論へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

学修目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

内容

| | |
|----|---------------------|
| 1 | オリエンテーション 授業の目的 |
| 2 | バンブーダンス |
| 3 | 音楽を使った準備運動 |
| 4 | 音楽を使った準備運動の練習 |
| 5 | 平均台を使った運動遊び |
| 6 | ボールを使った運動遊び |
| 7 | フープを使った運動遊び |
| 8 | マットを使った運動遊び |
| 9 | 跳び箱を使った運動遊び |
| 10 | 日本の伝承遊び あんたがたどこさ |
| 11 | 授業の振り返り（運動遊びノートの作成） |
| 12 | 授業の振り返り（運動遊びノートの作成） |
| 13 | 日本の伝承遊び 竹馬 |
| 14 | 日本の伝承遊び こま |
| 15 | 授業のまとめ |

評価

評価は、授業態度（25点）、授業での課題提出（運動遊びノートの作成 30点）、保育者としての運動遊びモデル（45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

【フィードバック】 授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】各回の授業内容についてどのような遊びが考えられるのかについて自分なりに考えてみる。

【事後学修】各回の授業内容をまとめる。また、対応している教科書の部分（理論編）を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 幼児運動論 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 康弘 | | |
| ナンバリング | KAf446 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼児教育学科の専門科目であり、学位授与方針1，3に該当します。幼児期の発達特性に基づいた運動指導について理解を深めていきます。

科目の概要

実際の子どもの運動指導（子ども元気プロジェクト2019）を経験し、運動遊びに関する環境設定や援助について実践を通して学修していく。

学修目標

1. 幼児期の運動遊びに関する環境設定や援助について基礎的な理論を説明できる。
2. 幼児への実際の運動指導を体験し、幼児の運動遊びに関する指導力を高める。

内容

| | |
|----|------------------------------------|
| 1 | ガイダンス（授業内容の詳細や授業の進め方等の説明） |
| 2 | 幼児期の運動能力の発達（講義） |
| 3 | 幼児期の発達特性に応じた運動指導のポイント（講義） |
| 4 | 遊びとしての運動指導のポイント（講義） |
| 5 | 運動遊び指導の立案（子ども元気プロジェクト2019の計画） |
| 6 | 運動遊び指導の立案（子ども元気プロジェクト2019の計画の修正） |
| 7 | 運動遊び指導の立案（子ども元気プロジェクト2019に向けた教材研究） |
| 8 | 運動遊び指導の立案（子ども元気プロジェクト2019に向けた教材研究） |
| 9 | 運動遊び指導の立案（子ども元気プロジェクト2019に向けた教材研究） |
| 10 | 運動遊びの実際（子ども元気プロジェクト2019Aでの実際の運動指導） |
| 11 | 運動遊びの実際（子ども元気プロジェクト2019Aでの実際の運動指導） |
| 12 | 子ども元気プロジェクト2019Aの振り返り |
| 13 | 運動遊びの実際（子ども元気プロジェクト2019Bでの実際の運動指導） |
| 14 | 運動遊びの実際（子ども元気プロジェクト2019Bでの実際の運動指導） |
| 15 | 子ども元気プロジェクト2019Bの振り返り |

評価

評価は、運動遊び活動案の作成過程と成果（30点）、実際の運動遊び活動における取り組みと成果（70点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

【フィードバック】 授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】 運動遊びに関する文献を読み、授業内容に対応できるよう準備する。

【事後学修】授業で指示された課題に取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 特に使用しない

推薦書 授業中に随時紹介する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|----|
| 科目名 | 健康教育学 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | KAf447 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の概要

幼児教育学科の学位授与方針 1.3 に対応する

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

授業の概要

児童保健学、での学びを基礎に、感染症、予防接種、安全管理など、保育の実践で出会うことの多い課題を取り上げて、学びを深める。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

授業の到達目標

1. 保育中によく起こる子どもの疾病・症状とその予防・対応について説明できる。
2. 子どものよくかかる感染症とその対応を説明できる。
3. 病気になった子どもの保育について説明できる。
4. 保育所における安全管理について説明できる。

内容

この授業は講義を基本に、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

1. 双子の養育 外出時の注意
2. 子どものけがとスポーツ外傷
3. 子どもの肥満とやせ
4. 熱中症、日射病などの夏の保育の注意
5. 食中毒と保育
6. 親子関係を良くするしつけのコツ
7. 慢性疾患と子ども
8. (感染症 蟻虫、シラミその他)
9. (感染症 プール熱、水いぼその他)
10. 最近の予防接種
11. 学校保健安全法と感染症
12. 病児保育、病後児保育、院内保育
13. 子どもへの薬の飲ませ方
14. 復習
15. まとめと解説

評価

授業への取り組み30%と試験70%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、各自印刷するか、内容を閲覧できるタブレット・ノートパソコン等を持参する。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 音楽基礎（歌唱法） | | |
| 担当教員名 | 藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg248 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針2に該当する。

本科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどのように歌ったら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる。
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる。
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、豊かに表現できるようにする。

| 内容 | |
|----|------------------------------------|
| 1 | ガイダンス |
| 2 | 歌うこととは |
| 3 | 声が出るしくみ |
| 4 | 発声法・呼吸法の基礎 |
| 5 | 発声法・呼吸法の応用 |
| 6 | 音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み） |
| 7 | 音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み） |
| 8 | 身体を用いた歌唱表現とは |
| 9 | 身体を用いた歌唱表現の創作と実践 |
| 10 | 子どもの歌唱作品・表現法の基礎 |
| 11 | 子どもの歌唱作品・表現法の応用 |
| 12 | 子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の計画、立案（グループ活動） |
| 13 | 子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇の創作（グループ活動） |
| 14 | グループ単位での実践 |
| 15 | まとめ（グループ単位での作品発表） |

評価

レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする

。【フィードバック】提出されたレポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】 各授業で学習する予定の歌（授業内で指示する）を読譜し、歌えるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】 各授業内で取り上げた歌の弾き歌いができるように練習する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国大学音楽教育学会『日本の子どもの歌』音楽之友社

【推薦書】

齊田晴仁『声の科学』音楽之友社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、アン・カーブ『「声」の秘密』草思社

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 音楽基礎（歌唱法） | | |
| 担当教員名 | 藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg248 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針2に該当する。

本科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどのように歌ったら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる。
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる。
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、豊かに表現できるようにする。

内容

| | |
|----|------------------------------------|
| 1 | ガイダンス |
| 2 | 歌うこととは |
| 3 | 声が出るしくみ |
| 4 | 発声法・呼吸法の基礎 |
| 5 | 発声法・呼吸法の応用 |
| 6 | 音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み） |
| 7 | 音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み） |
| 8 | 身体を用いた歌唱表現とは |
| 9 | 身体を用いた歌唱表現の創作と実践 |
| 10 | 子どもの歌唱作品・表現法の基礎 |
| 11 | 子どもの歌唱作品・表現法の応用 |
| 12 | 子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の計画、立案（グループ活動） |
| 13 | 子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇の創作（グループ活動） |
| 14 | グループ単位での実践 |
| 15 | まとめ（グループ単位での作品発表） |

評価

レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする

。【フィードバック】提出されたレポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】各授業で学習する予定の歌（授業内で指示する）を読譜し、歌えるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】各授業内で取り上げた歌の弾き歌いができるように練習する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国大学音楽教育学会『日本の子どもの歌』音楽之友社

【推薦書】

齊田晴仁『声の科学』音楽之友社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、アン・カーブ『「声」の秘密』草思社

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 音楽基礎（歌唱法） | | |
| 担当教員名 | 藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg248 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Cクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針2に該当する。

本科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどのように歌ったら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる。
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる。
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、豊かに表現できるようにする。

内容

| | |
|----|------------------------------------|
| 1 | ガイダンス |
| 2 | 歌うこととは |
| 3 | 声が出るしくみ |
| 4 | 発声法・呼吸法の基礎 |
| 5 | 発声法・呼吸法の応用 |
| 6 | 音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み） |
| 7 | 音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み） |
| 8 | 身体を用いた歌唱表現とは |
| 9 | 身体を用いた歌唱表現の創作と実践 |
| 10 | 子どもの歌唱作品・表現法の基礎 |
| 11 | 子どもの歌唱作品・表現法の応用 |
| 12 | 子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の計画、立案（グループ活動） |
| 13 | 子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇の創作（グループ活動） |
| 14 | グループ単位での実践 |
| 15 | まとめ（グループ単位での作品発表） |

評価

レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする

。【フィードバック】提出されたレポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】 各授業で学習する予定の歌（授業内で指示する）を読譜し、歌えるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】 各授業内で取り上げた歌の弾き歌いができるように練習する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国大学音楽教育学会『日本の子どもの歌』音楽之友社

【推薦書】

齊田晴仁『声の科学』音楽之友社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、アン・カーブ『「声」の秘密』草思社

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 音楽基礎（歌唱法） | | |
| 担当教員名 | 藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg248 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針2に該当する。

本科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどのように歌ったら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる。
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる。
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、豊かに表現できるようにする。

内容

| | |
|----|------------------------------------|
| 1 | ガイダンス |
| 2 | 歌うこととは |
| 3 | 声が出るしくみ |
| 4 | 発声法・呼吸法の基礎 |
| 5 | 発声法・呼吸法の応用 |
| 6 | 音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み） |
| 7 | 音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み） |
| 8 | 身体を用いた歌唱表現とは |
| 9 | 身体を用いた歌唱表現の創作と実践 |
| 10 | 子どもの歌唱作品・表現法の基礎 |
| 11 | 子どもの歌唱作品・表現法の応用 |
| 12 | 子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の計画、立案（グループ活動） |
| 13 | 子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇の創作（グループ活動） |
| 14 | グループ単位での実践 |
| 15 | まとめ（グループ単位での作品発表） |

評価

レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする

。【フィードバック】提出されたレポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】 各授業で学習する予定の歌（授業内で指示する）を読譜し、歌えるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】 各授業内で取り上げた歌の弾き歌いができるように練習する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国大学音楽教育学会『日本の子どもの歌』音楽之友社

【推薦書】

齊田晴仁『声の科学』音楽之友社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、アン・カーブ『「声」の秘密』草思社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 01 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 02 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 03 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、清水 真理子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 04 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得する。

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、市川 節子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 05 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 06 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得する。

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 07 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得する。

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 08 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 09 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、清水 真理子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 10 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得する。

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 12 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 13 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 14 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 15 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得する。

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、清水 真理子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 16 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、市川 節子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 17 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得する。

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 18 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得する。

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 20 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得する。

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 21 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得する。

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、清水 真理子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 22 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得する。

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、市川 節子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 23 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 24 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 25 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目はピアノ演奏の基礎技術習得を目的に再履修者のために設定された科目である。授業の形態は個人レッスン形式で、受講者の習熟度に応じて授業を進める。

科目の概要

バイエルピアノ教則本全曲を修了し、バイエルピアノ教則本修了程度以上の実力を有することが単位認定の必須要件である。すでに長い経験を持つ受講者から初心者まで習熟度に差がある為、バイエル修了程度の実力を有しない受講者は、バイエルから、バイエル修了程度以上の実力を有する受講者はレベルに応じて担当教員と相談して自由曲を選定し、授業を進める。

学修目標

初心者はバイエルを修了し、実技試験に合格をすることが目標であり、経験者は担当教員と相談して自由曲を決め、実技試験に向けて演奏レベルの向上を図り、実技試験に合格することが目標である。「バイエル教則本」を修了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノの演奏技術を少しでも向上させるために設定された科目であるので、保育現場で必要とされる基礎的な力を培う重要な科目として真摯に受講してほしい。

内容

本科目は後期開講科目なので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを修了しなくてはならないので、前期の間に学習を進める。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し、60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、自習してレベルを保つことに努める。

個人レッスンは1コマ（90分）を6～8人で分割して行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間でレッスンを行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りにレッスンを行えない場合も生じる。その場合は一人のレッスン時間に多少の差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして決定し進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技試験受験は不可とする。その場合、担当教員が指示する。

保育内容の指導法（音楽表現）は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位取得を受講の必須要件としている。音楽基礎（ピアノ基礎技術）、保育内容の指導法（音楽表現）は幼稚園教諭一種免許状必修科目であるので注意すること。

評価

バイエルを修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上のものは担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。授業への参加度(10%)、実技試験(90%)。

【フィードバック】実技試験後に担当教員が試験について講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員より指示された課題曲を練習し、必ず次の授業までに弾けるようにしておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 26 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目はピアノ演奏の基礎技術習得を目的に再履修者のために設定された科目である。授業の形態は個人レッスン形式で、受講者の習熟度に応じて授業を進める。

科目の概要

バイエルピアノ教則本全曲を修了し、バイエルピアノ教則本修了程度以上の実力を有することが単位認定の必須要件である。すでに長い経験を持つ受講者から初心者まで習熟度に差がある為、バイエル修了程度の実力を有しない受講者は、バイエルから、バイエル修了程度以上の実力を有する受講者はレベルに応じて担当教員と相談して自由曲を選定し、授業を進める。

学修目標

初心者はバイエルを修了し、実技試験に合格をすることが目標であり、経験者は担当教員と相談して自由曲を決め、実技試験に向けて演奏レベルの向上を図り、実技試験に合格することが目標である。「バイエル教則本」を修了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノの演奏技術を少しでも向上させるために設定された科目であるので、保育現場で必要とされる基礎的な力を培う重要な科目として真摯に受講してほしい。

内容

本科目は後期開講科目なので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを修了しなくてはならないので、前期の間に学習を進める。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し、60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、自習してレベルを保つことに努める。

個人レッスンは1コマ（90分）を6～8人で分割して行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間でレッスンを行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りにレッスンを行えない場合も生じる。その場合は一人のレッスン時間に多少の差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして決定し進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技試験受験は不可とする。その場合、担当教員が指示する。

保育内容の指導法（音楽表現）は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位取得を受講の必須要件としている。音楽基礎（ピアノ基礎技術）、保育内容の指導法（音楽表現）は幼稚園教諭一種免許状必修科目であるので注意すること。

評価

バイエルを修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上のものは担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。授業への参加度(10%)、実技試験(90%)。

【フィードバック】実技試験後に担当教員が試験について講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員より指示された課題曲を練習し、必ず次の授業までに弾けるようにしておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 27 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目はピアノ演奏の基礎技術習得を目的に再履修者のために設定された科目である。授業の形態は個人レッスン形式で、受講者の習熟度に応じて授業を進める。

科目の概要

バイエルピアノ教則本全曲を修了し、バイエルピアノ教則本修了程度以上の実力を有することが単位認定の必須要件である。すでに長い経験を持つ受講者から初心者まで習熟度に差がある為、バイエル修了程度の実力を有しない受講者は、バイエルから、バイエル修了程度以上の実力を有する受講者はレベルに応じて担当教員と相談して自由曲を選定し、授業を進める。

学修目標

初心者はバイエルを修了し、実技試験に合格をすることが目標であり、経験者は担当教員と相談して自由曲を決め、実技試験に向けて演奏レベルの向上を図り、実技試験に合格することが目標である。「バイエル教則本」を修了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノの演奏技術を少しでも向上させるために設定された科目であるので、保育現場で必要とされる基礎的な力を培う重要な科目として真摯に受講してほしい。

内容

本科目は後期開講科目なので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを修了しなくてはならないので、前期の間に学習を進める。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し、60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、自習してレベルを保つことに努める。

個人レッスンは1コマ（90分）を6～8人で分割して行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間でレッスンを行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りにレッスンを行えない場合も生じる。その場合は一人のレッスン時間に多少の差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして決定し進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技試験受験は不可とする。その場合、担当教員が指示する。

保育内容の指導法（音楽表現）は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位取得を受講の必須要件としている。音楽基礎（ピアノ基礎技術）、保育内容の指導法（音楽表現）は幼稚園教諭一種免許状必修科目であるので注意すること。

評価

バイエルを修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上のものは担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。授業への参加度(10%)、実技試験(90%)。

【フィードバック】実技試験後に担当教員が試験について講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員より指示された課題曲を練習し、必ず次の授業までに弾けるようにしておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 市川 節子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 30 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目はピアノ演奏の基礎技術習得を目的に再履修者のために設定された科目である。授業の形態は個人レッスン形式で、受講者の習熟度に応じて授業を進める。

科目の概要

バイエルピアノ教則本全曲を修了し、バイエルピアノ教則本修了程度以上の実力を有することが単位認定の必須要件である。すでに長い経験を持つ受講者から初心者まで習熟度に差がある為、バイエル修了程度の実力を有しない受講者は、バイエルから、バイエル修了程度以上の実力を有する受講者はレベルに応じて担当教員と相談して自由曲を選定し、授業を進める。

学修目標

初心者はバイエルを修了し、実技試験に合格をすることが目標であり、経験者は担当教員と相談して自由曲を決め、実技試験に向けて演奏レベルの向上を図り、実技試験に合格することが目標である。「バイエル教則本」を修了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノの演奏技術を少しでも向上させるために設定された科目であるので、保育現場で必要とされる基礎的な力を培う重要な科目として真摯に受講してほしい。

内容

本科目は後期開講科目なので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを修了しなくてはならないので、前期の間に学習を進める。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し、60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、自習してレベルを保つことに努める。

個人レッスンは1コマ（90分）を6～8人で分割して行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間でレッスンを行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りにレッスンを行えない場合も生じる。その場合は一人のレッスン時間に多少の差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして決定し進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技試験受験は不可とする。その場合、担当教員が指示する。

保育内容の指導法（音楽表現）は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位取得を受講の必須要件としている。音楽基礎（ピアノ基礎技術）、保育内容の指導法（音楽表現）は幼稚園教諭一種免許状必修科目であるので注意すること。

評価

バイエルを修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上のものは担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。授業への参加度(10%)、実技試験(90%)。
【フィードバック】実技試験後に担当教員が試験について講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員より指示された課題曲を練習し、必ず次の授業までに弾けるようにしておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 28 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目はピアノ演奏の基礎技術習得を目的に再履修者のために設定された科目である。授業の形態は個人レッスン形式で、受講者の習熟度に応じて授業を進める。

科目の概要

バイエルピアノ教則本全曲を修了し、バイエルピアノ教則本修了程度以上の実力を有することが単位認定の必須要件である。すでに長い経験を持つ受講者から初心者まで習熟度に差がある為、バイエル修了程度の実力を有しない受講者は、バイエルから、バイエル修了程度以上の実力を有する受講者はレベルに応じて担当教員と相談して自由曲を選定し、授業を進める。

学修目標

初心者はバイエルを修了し、実技試験に合格をすることが目標であり、経験者は担当教員と相談して自由曲を決め、実技試験に向けて演奏レベルの向上を図り、実技試験に合格することが目標である。「バイエル教則本」を修了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノの演奏技術を少しでも向上させるために設定された科目であるので、保育現場で必要とされる基礎的な力を培う重要な科目として真摯に受講してほしい。

内容

本科目は後期開講科目なので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを修了しなくてはならないので、前期の間に学習を進める。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し、60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、自習してレベルを保つことに努める。

個人レッスンは1コマ（90分）を6～8人で分割して行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間でレッスンを行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りにレッスンを行えない場合も生じる。その場合は一人のレッスン時間に多少の差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして決定し進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技試験受験は不可とする。その場合、担当教員が指示する。

保育内容の指導法（音楽表現）は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位取得を受講の必須要件としている。音楽基礎（ピアノ基礎技術）、保育内容の指導法（音楽表現）は幼稚園教諭一種免許状必修科目であるので注意すること。

評価

バイエルを修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上のものは担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。授業への参加度(10%)、実技試験(90%)。

【フィードバック】実技試験後に担当教員が試験について講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員より指示された課題曲を練習し、必ず次の授業までに弾けるようにしておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 29 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目はピアノ演奏の基礎技術習得を目的に再履修者のために設定された科目である。授業の形態は個人レッスン形式で、受講者の習熟度に応じて授業を進める。

科目の概要

バイエルピアノ教則本全曲を修了し、バイエルピアノ教則本修了程度以上の実力を有することが単位認定の必須要件である。すでに長い経験を持つ受講者から初心者まで習熟度に差がある為、バイエル修了程度の実力を有しない受講者は、バイエルから、バイエル修了程度以上の実力を有する受講者はレベルに応じて担当教員と相談して自由曲を選定し、授業を進める。

学修目標

初心者はバイエルを修了し、実技試験に合格をすることが目標であり、経験者は担当教員と相談して自由曲を決め、実技試験に向けて演奏レベルの向上を図り、実技試験に合格することが目標である。「バイエル教則本」を修了して単位を得ることは必須目標ではあるが、ピアノの演奏技術を少しでも向上させるために設定された科目であるので、保育現場で必要とされる基礎的な力を培う重要な科目として真摯に受講してほしい。

内容

本科目は後期開講科目なので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを修了しなくてはならないので、前期の間に学習を進める。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し、60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、自習してレベルを保つことに努める。

個人レッスンは1コマ（90分）を6～8人で分割して行う。出された課題をこなしていれば全員均等な時間でレッスンを行うが、課題をこなしておらずに受講した場合、担当教員の判断で時間通りにレッスンを行えない場合も生じる。その場合は一人のレッスン時間に多少の差が出る。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして決定し進めていく。

または の学生で、欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、実技試験受験は不可とする。その場合、担当教員が指示する。

保育内容の指導法（音楽表現）は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位取得を受講の必須要件としている。音楽基礎（ピアノ基礎技術）、保育内容の指導法（音楽表現）は幼稚園教諭一種免許状必修科目であるので注意すること。

評価

バイエルを修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上のものは担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。授業への参加度(10%)、実技試験(90%)。

【フィードバック】実技試験後に担当教員が試験について講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員より指示された課題曲を練習し、必ず次の授業までに弾けるようにしておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 19 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れれば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得する。

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（ピアノ基礎技術） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子、市川 節子 | | |
| ナンバリング | KAg149 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 11 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目指す。授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。

科目の概要

授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。

学修目標

子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析でき、自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

内容

本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。

バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能であるので、ぜひ相談してもらいたい。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。

バイエル修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエル修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。

経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。各レッスン室には3～4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあうことを重視する。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌のもつリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を修得す

る。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

評価

所定のピアノ課題を修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、バイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上の者は担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。MLでの学びに関しては筆記試験が実施される。評価は、授業への参加度(10%)、筆記試験(30%)、実技試験(60%)

授業外学習

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは毎日練習する)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」二宮紀子著 音楽之友社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 金勝 裕子 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 01 |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 薮崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 02 |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 03 |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 清水 真理子 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 04 |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 05 |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 06 |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 市川 節子 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 07 |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 市川 節子 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 08 |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 清水 真理子 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 09 |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 矢部 尚子 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 10 |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 浜野 範子 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 11 |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 12 |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 13 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 音楽基礎（楽器演奏） | | |
| 担当教員名 | 薮崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg250 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 14 |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科学位授与方針2に該当する。本科目は、音楽基礎（ピアノ基礎技術）において単位を取得した学生の、次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン・合唱・その他の形態で行い、声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては連弾も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本とする。

学修目標

保育者に必要な音楽表現を身に着けると同時に、音楽表現を楽しむ姿勢を培うこと。

内容

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）の単位を取得した学生を対象に、さらなるスキルアップを希望する学生に授業を行う。多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、個人レッスンはもちろんのこと、場合によっては、連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。保育内容の指導法（音楽表現）で扱う、伴奏法の内容は含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。

機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。機種はELシリーズとする。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも、歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

評価

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

授業外学習

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までに着実にこなす。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が配布する。

邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 造形基礎（感じて表現） | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAg151 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳・幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用について
2. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 1 新聞紙
3. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 2 新聞紙
4. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 3 新聞紙
5. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 1 フィンガーペインティング
6. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 2 フィンガーペインティング
7. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 3
8. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 4
9. 破いた形からイメージを広げて
10. 粘土を使った表現について学ぶ 1 土粘土

11. 粘土を使った表現について学ぶ 2 土粘土
12. 触感覚と表現について お花紙
13. 色画用紙を活かした表現を学ぶ
14. 光とのかかわり LEDライト
15. エピローグ 全体の振り返りと総括

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験したり、教科書等で確認したりすること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作第2版』建帛社

〔推薦書〕平田智久・小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 造形基礎（感じて表現） | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAg151 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳・幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用について
2. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 1 新聞紙
3. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 2 新聞紙
4. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 3 新聞紙
5. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 1 フィンガーペインティング
6. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 2 フィンガーペインティング
7. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 3
8. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 4
9. 破いた形からイメージを広げて
10. 粘土を使った表現について学ぶ 1 土粘土

- 11.粘土を使った表現について学ぶ 2 土粘土
- 12.触感覚と表現について お花紙
- 13.色画用紙を活かした表現を学ぶ
- 14.光とのかかわり LEDライト
- 15.エピローグ 全体の振り返りと総括

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験したり、教科書等で確認したりすること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作第2版』建帛社

〔推薦書〕平田智久・小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 造形基礎（感じて表現） | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAg151 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Cクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳・幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接接触して体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用について
2. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 1 新聞紙
3. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 2 新聞紙
4. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 3 新聞紙
5. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 1 フィンガーペインティング
6. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 2 フィンガーペインティング
7. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 3
8. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 4
9. 破いた形からイメージを広げて
10. 粘土を使った表現について学ぶ 1 土粘土

- 11.粘土を使った表現について学ぶ 2 土粘土
- 12.触感覚と表現について お花紙
- 13.色画用紙を活かした表現を学ぶ
- 14.光とのかかわり LEDライト
- 15.エピローグ 全体の振り返りと総括

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する(60点)。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出(40点)とし、総合評価60点以上で合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験したり、教科書等で確認したりすること。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作第2版』建帛社

〔推薦書〕平田智久・小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 造形基礎（感じて表現） | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAg151 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳・幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接接触して体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用について
2. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 1 新聞紙
3. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 2 新聞紙
4. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 3 新聞紙
5. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 1 フィンガーペインティング
6. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 2 フィンガーペインティング
7. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 3
8. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 4
9. 破いた形からイメージを広げて
10. 粘土を使った表現について学ぶ 1 土粘土

11. 粘土を使った表現について学ぶ 2 土粘土
12. 触感覚と表現について お花紙
13. 色画用紙を活かした表現を学ぶ
14. 光とのかかわり LEDライト
15. エピローグ 全体の振り返りと総括

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する(60点)。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出(40点)とし、総合評価60点以上で合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験したり、教科書等で確認したりすること。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作第2版』建帛社

〔推薦書〕平田智久・小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 造形基礎（考えて表現） | | |
| 担当教員名 | 名達 英詔 | | |
| ナンバリング | KAg152 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きなものです。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士が理解し合う手段として欠かせない行動のひとつです。そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳・幼児・児童期に保障していけるでしょうか。

科目の概要

身近な素材やものの形や色、感触やイメージ等に親しみ、考え、表現する活動を通して、造形表現の楽しさや喜びを味わうとともに造形表現に関する知識・技能を習得し、将来、保育者として必要となる実践的な力をつけていきます。

学修目標

様々な材料体験や表現を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

内容

本授業は、グループワーク、ディスカッション、講義等織り交ぜながら実践的に学びを深めていきます。

| | |
|----|--|
| 1 | オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など |
| 2 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 1 |
| 3 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 2 |
| 4 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 3 |
| 5 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 4 |
| 6 | つくったもので遊び場づくり |
| 7 | 前半のまとめ：造形について考えるグループディスカッションとプレゼンテーション |
| 8 | 様々な描画材料を使った表現：クレヨン等 |
| 9 | 様々な描画材料を使った表現：マーカー等 |
| 10 | 身近にある材料を使った表現：木材等 |
| 11 | 身近にある材料を使った表現：紙等 |
| 12 | 身近にある材料を使った表現：自然材等 |
| 13 | 身近な材料でつくって遊ぶ 1 |
| 14 | 身近な材料でつくって遊ぶ 2 |
| 15 | まとめ：造形について考える |

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを教科書なども参考にしながら一冊のスケッチブックにまとめ、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合

評価し60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

授業外学習

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具・身支度・体調を準備すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・授業内で適宜紹介

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 造形基礎（考えて表現） | | |
| 担当教員名 | 名達 英詔 | | |
| ナンバリング | KAg152 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きなものです。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士が理解し合う手段として欠かせない行動のひとつです。そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳・幼児・児童期に保障していけるでしょうか。

科目の概要

身近な素材やものの形や色、感触やイメージ等に親しみ、考え、表現する活動を通して、造形表現の楽しさや喜びを味わうとともに造形表現に関する知識・技能を習得し、将来、保育者として必要となる実践的な力をつけていきます。

学修目標

様々な材料体験や表現を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

内容

本授業は、グループワーク、ディスカッション、講義等織り交ぜながら実践的に学びを深めていきます。

| | |
|----|--|
| 1 | オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など |
| 2 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 1 |
| 3 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 2 |
| 4 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 3 |
| 5 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 4 |
| 6 | つくったもので遊び場づくり |
| 7 | 前半のまとめ：造形について考えるグループディスカッションとプレゼンテーション |
| 8 | 様々な描画材料を使った表現：クレヨン等 |
| 9 | 様々な描画材料を使った表現：マーカー等 |
| 10 | 身近にある材料を使った表現：木材等 |
| 11 | 身近にある材料を使った表現：紙等 |
| 12 | 身近にある材料を使った表現：自然材等 |
| 13 | 身近な材料でつくって遊ぶ 1 |
| 14 | 身近な材料でつくって遊ぶ 2 |
| 15 | まとめ：造形について考える |

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを教科書なども参考にしながら一冊のスケッチブックにまとめ、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合

評価し60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

授業外学習

【事前予習】必要に応じ、授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・授業内で適宜紹介

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 造形基礎（考えて表現） | | |
| 担当教員名 | 名達 英詔 | | |
| ナンバリング | KAg152 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きなものです。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士が理解し合う手段として欠かせない行動のひとつです。そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳・幼児・児童期に保障していけるでしょうか。

科目の概要

身近な素材やものの形や色、感触やイメージ等に親しみ、考え、表現する活動を通して、造形表現の楽しさや喜びを味わうとともに造形表現に関する知識・技能を習得し、将来、保育者として必要となる実践的な力をつけていきます。

学修目標

様々な材料体験や表現を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

内容

本授業は、グループワーク、ディスカッション、講義等織り交ぜながら実践的に学びを深めていきます。

| | |
|----|--|
| 1 | オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など |
| 2 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 1 |
| 3 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 2 |
| 4 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 3 |
| 5 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 4 |
| 6 | つくったもので遊び場づくり |
| 7 | 前半のまとめ：造形について考えるグループディスカッションとプレゼンテーション |
| 8 | 様々な描画材料を使った表現：クレヨン等 |
| 9 | 様々な描画材料を使った表現：マーカー等 |
| 10 | 身近にある材料を使った表現：木材等 |
| 11 | 身近にある材料を使った表現：紙等 |
| 12 | 身近にある材料を使った表現：自然材等 |
| 13 | 身近な材料でつくって遊ぶ 1 |
| 14 | 身近な材料でつくって遊ぶ 2 |
| 15 | まとめ：造形について考える |

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを教科書なども参考にしながら一冊のスケッチブックにまとめ、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合

評価し60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

授業外学習

【事前予習】必要に応じ、授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・授業内で適宜紹介

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 造形基礎（考えて表現） | | |
| 担当教員名 | 名達 英詔 | | |
| ナンバリング | KAg152 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きなものです。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士が理解し合う手段として欠かせない行動のひとつです。そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳・幼児・児童期に保障していけるでしょうか。

科目の概要

身近な素材やものの形や色、感触やイメージ等に親しみ、考え、表現する活動を通して、造形表現の楽しさや喜びを味わうとともに造形表現に関する知識・技能を習得し、将来、保育者として必要となる実践的な力をつけていきます。

学修目標

様々な材料体験や表現を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

内容

本授業は、グループワーク、ディスカッション、講義等織り交ぜながら実践的に学びを深めていきます。

| | |
|----|---|
| 1 | オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など |
| 2 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 1 |
| 3 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 2 |
| 4 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 3 |
| 5 | 身近にある材料を使った表現：段ボール 4 |
| 6 | つくったもので遊び場づくり |
| 7 | 前半のまとめ：造形について考える グループディスカッションとプレゼンテーション |
| 8 | 様々な描画材料を使った表現：クレヨン等 |
| 9 | 様々な描画材料を使った表現：マーカー等 |
| 10 | 身近にある材料を使った表現：木材等 |
| 11 | 身近にある材料を使った表現：紙等 |
| 12 | 身近にある材料を使った表現：自然材等 |
| 13 | 身近な材料でつくって遊ぶ 1 |
| 14 | 身近な材料でつくって遊ぶ 2 |
| 15 | まとめ：造形について考える |

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを教科書なども参考にしながら一冊のスケッチブックにまとめ、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合

評価し60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

授業外学習

【事前予習】必要に応じ、授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・授業内で適宜紹介

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 体育基礎（身体表現） | | |
| 担当教員名 | 渡邊 孝枝、鈴木 瑛貴 | | |
| ナンバリング | KAg253 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針2に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。保育内容の指導法（身体表現）、身体表現論、身体表現論演習と身体表現について専門的に学んでいくための基礎となります。

科目の概要

様々なからだの動きや動きの感じを体験することを通して、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を敏感に捉えることのできる学生の育成を図ります。幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら、身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていきます。

学修目標（＝到達目標）

- 1、体を大きく動かし、現時点での自分の運動能力、運動体力を最大限に発揮すること。
- 2、幼児の身体表現活動の援助方法や環境設定についての基礎を理解すること。
- 3、実際に動いて感じたことを保育の場面でどう生すことができるか、考えを深めること。

内容

| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 身体表現について（渡邊・鈴木） |
| 2 | 保育者にふさわしいからだづくり リズムに合わせて踊る（鈴木） |
| 3 | 保育者にふさわしいからだづくり 動きを覚える・表現する（鈴木） |
| 4 | 保育者にふさわしいからだづくり 発表する（鈴木） |
| 5 | 変身を楽しむ身体表現 動物ごっこ（鈴木） |
| 6 | 変身を楽しむ身体表現 忍者ごっこ（鈴木） |
| 7 | 題材を工夫した身体表現 新聞紙（渡邊・鈴木） |
| 8 | 題材を工夫した身体表現 パラバルーン（渡邊） |
| 9 | こころとからだをときほぐす レクリエーションゲーム（渡邊） |
| 10 | こころとからだをときほぐす フォークダンス（渡邊） |
| 11 | 遊びから身体表現へ 色々なじゃんけん（渡邊） |
| 12 | 遊びから身体表現へ 手遊びからからだ遊びへ（渡邊） |
| 13 | 身体表現の作品創作 グループごとの創作活動（渡邊・鈴木） |
| 14 | 身体表現の作品創作 グループごとの発表（渡邊・鈴木） |
| 15 | まとめ（渡邊・鈴木） |

評価

積極的な授業への取り組みと授業記録・身体表現ノート50%、発表や実技試験25%、レポート課題25%とし、総合評

価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。

【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートについても確認し、質問等に返答した後返却する。

授業外学習

【事前予習】授業内で紹介した書籍や映像資料を見ておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、実技試験に向けた復習を行うこと

。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で紹介します。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 体育基礎（身体表現） | | |
| 担当教員名 | 渡邊 孝枝、鈴木 瑛貴 | | |
| ナンバリング | KAg253 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針2に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。保育内容の指導法（身体表現）、身体表現論、身体表現論演習と身体表現について専門的に学んでいくための基礎となります。

科目の概要

様々なからだの動きや動きの感じを体験することを通して、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を敏感に捉えることのできる学生の育成を図ります。幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら、身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていきます。

学修目標（＝到達目標）

- 1、体を大きく動かし、現時点での自分の運動能力、運動体力を最大限に発揮すること。
- 2、幼児の身体表現活動の援助方法や環境設定についての基礎を理解すること。
- 3、実際に動いて感じたことを保育の場面でどう生すことができるか、考えを深めること。

内容

| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 身体表現について（渡邊・鈴木） |
| 2 | こころとからだをときほぐす レクリエーションゲーム（渡邊） |
| 3 | こころとからだをときほぐす フォークダンス（渡邊） |
| 4 | 遊びから身体表現へ 色々なじゃんけん（渡邊） |
| 5 | 遊びから身体表現へ 手遊びからからだ遊びへ（渡邊） |
| 6 | 題材を工夫した身体表現 パラバルーン（渡邊） |
| 7 | 題材を工夫した身体表現 新聞紙（渡邊・鈴木） |
| 8 | 保育者にふさわしいからだづくり リズムに合わせて踊る（鈴木） |
| 9 | 保育者にふさわしいからだづくり 動きを覚える・表現する（鈴木） |
| 10 | 保育者にふさわしいからだづくり 発表する（鈴木） |
| 11 | 変身を楽しむ身体表現 動物ごっこ（鈴木） |
| 12 | 変身を楽しむ身体表現 忍者ごっこ（鈴木） |
| 13 | 身体表現の作品創作 グループごとの創作活動（渡邊・鈴木） |
| 14 | 身体表現の作品創作 グループごとの発表（渡邊・鈴木） |
| 15 | まとめ（渡邊・鈴木） |

評価

積極的な授業への取り組みと授業記録・身体表現ノート50%、発表や実技試験25%、レポート課題25%とし、総合評

価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。

【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートについても確認し、質問等に返答した後返却する。

授業外学習

【事前予習】授業内で紹介した書籍や映像資料を見ておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、実技試験に向けた復習を行うこと

。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で紹介します。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 体育基礎（身体表現） | | |
| 担当教員名 | 渡邊 孝枝、鈴木 瑛貴 | | |
| ナンバリング | KAg253 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針2に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。保育内容の指導法（身体表現）、身体表現論、身体表現論演習と身体表現について専門的に学んでいくための基礎となります。

科目の概要

様々なからだの動きや動きの感じを体験することを通して、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を敏感に捉えることのできる学生の育成を図ります。幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら、身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていきます。

学修目標（＝到達目標）

- 1、体を大きく動かし、現時点での自分の運動能力、運動体力を最大限に発揮すること。
- 2、幼児の身体表現活動の援助方法や環境設定についての基礎を理解すること。
- 3、実際に動いて感じたことを保育の場面でどう生すことができるか、考えを深めること。

内容

| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 身体表現について（渡邊・鈴木） |
| 2 | 保育者にふさわしいからだづくり リズムに合わせて踊る（鈴木） |
| 3 | 保育者にふさわしいからだづくり 動きを覚える・表現する（鈴木） |
| 4 | 保育者にふさわしいからだづくり 発表する（鈴木） |
| 5 | 変身を楽しむ身体表現 動物ごっこ（鈴木） |
| 6 | 変身を楽しむ身体表現 忍者ごっこ（鈴木） |
| 7 | 題材を工夫した身体表現 新聞紙（渡邊・鈴木） |
| 8 | 題材を工夫した身体表現 パラバルーン（渡邊） |
| 9 | こころとからだをときほぐす レクリエーションゲーム（渡邊） |
| 10 | こころとからだをときほぐす フォークダンス（渡邊） |
| 11 | 遊びから身体表現へ 色々なじゃんけん（渡邊） |
| 12 | 遊びから身体表現へ 手遊びからからだ遊びへ（渡邊） |
| 13 | 身体表現の作品創作 グループごとの創作活動（渡邊・鈴木） |
| 14 | 身体表現の作品創作 グループごとの発表（渡邊・鈴木） |
| 15 | まとめ（渡邊・鈴木） |

評価

積極的な授業への取り組みと授業記録・身体表現ノート50%、発表や実技試験25%、レポート課題25%とし、総合評

価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。

【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートについても確認し、質問等に返答した後返却する。

授業外学習

【事前予習】授業内で紹介した書籍や映像資料を見ておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、実技試験に向けた復習を行うこと

。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で紹介します。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 体育基礎（身体表現） | | |
| 担当教員名 | 渡邊 孝枝、鈴木 瑛貴 | | |
| ナンバリング | KAg253 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針2に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。保育内容の指導法（身体表現）、身体表現論、身体表現論演習と身体表現について専門的に学んでいくための基礎となります。

科目の概要

様々なからだの動きや動きの感じを体験することを通して、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を敏感に捉えることのできる学生の育成を図ります。幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら、身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていきます。

学修目標（＝到達目標）

- 1、体を大きく動かし、現時点での自分の運動能力、運動体力を最大限に発揮すること。
- 2、幼児の身体表現活動の援助方法や環境設定についての基礎を理解すること。
- 3、実際に動いて感じたことを保育の場面でどう生すことができるか、考えを深めること。

内容

| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 身体表現について（渡邊・鈴木） |
| 2 | こころとからだをときほぐす レクリエーションゲーム（渡邊） |
| 3 | こころとからだをときほぐす フォークダンス（渡邊） |
| 4 | 遊びから身体表現へ 色々なじゃんけん（渡邊） |
| 5 | 遊びから身体表現へ 手遊びからからだ遊びへ（渡邊） |
| 6 | 題材を工夫した身体表現 パラバルーン（渡邊） |
| 7 | 題材を工夫した身体表現 新聞紙（渡邊・鈴木） |
| 8 | 保育者にふさわしいからだづくり リズムに合わせて踊る（鈴木） |
| 9 | 保育者にふさわしいからだづくり 動きを覚える・表現する（鈴木） |
| 10 | 保育者にふさわしいからだづくり 発表する（鈴木） |
| 11 | 変身を楽しむ身体表現 動物ごっこ（鈴木） |
| 12 | 変身を楽しむ身体表現 忍者ごっこ（鈴木） |
| 13 | 身体表現の作品創作 グループごとの創作活動（渡邊・鈴木） |
| 14 | 身体表現の作品創作 グループごとの発表（渡邊・鈴木） |
| 15 | まとめ（渡邊・鈴木） |

評価

積極的な授業への取り組みと授業記録・身体表現ノート50%、発表や実技試験25%、レポート課題25%とし、総合評

価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。

【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートについても確認し、質問等に返答した後返却する。

授業外学習

【事前予習】授業内で紹介した書籍や映像資料を見ておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、実技試験に向けた復習を行うこと

。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で紹介します。

| | | | |
|---------|-----------------------------|---------|-----|
| 科目名 | 表現総論 | | |
| 担当教員名 | 川喜田 昌代、上垣内 伸子、向井 美穂、長田 瑞恵 他 | | |
| ナンバリング | KAg354 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針2に該当する。

本科目は、幼児教育学科の「表現」は幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の中で保育の内容の領域の一つになっている。その表現領域は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、想像性を豊かにする」というねらいが示されている。

科目の概要

各専門分野から、「表現」について考えていく。表現は乳幼児期の保育を考え実践していく上で重要である。保育者として、人として表現すること受け止めることの意味を改めて問い直す事は必要であり、音楽や造形、身体表現だけでなく、さまざまな視点から表現することを学び、表現豊かな人間性を育むことに繋げていく。

学修目標（＝到達目標）

さまざまな表現の方法を知り、自分の表現の仕方考える機会とする。

表現することの意義や意味についての認識を深め、さまざまな特性や状態に対応した表現行動についての理解をひろげる。

内容

| | |
|----|--|
| 1 | ガイダンス（川喜田昌代） |
| 2 | 新しいカリキュラムが目指す領域「表現」のあり方（上垣内伸子） |
| 3 | 子どもの表現と保育者の表現との重なり合い（横井紘子） |
| 4 | 子どもが表現しようとする、保育者が捉えようとする「場」を考える（近藤有紀子） |
| 5 | 子どもと大人、子ども同士が表現し合い受けとめ合う中で生まれるもの（山田陽子） |
| 6 | 発達心理学から見た“表”と“現”～コミュニケーションと創造・想像力～（長田瑞恵） |
| 7 | 関係性の中で育まれる子どもの心の表現（向井美恵） |
| 8 | 生命に対する感性とその感性の育ちを考える（権明愛） |
| 9 | 子どもの愛おしむ絵本に根付く「くうき」について（鈴木晴子） |
| 10 | 表現によって体と心を癒す（加藤則子） |
| 11 | 保育者としての表現と健康（鈴木康弘） |
| 12 | 音楽表現について考える（藪崎伸一郎） |
| 13 | 身体表現のはじまりを見つめる（渡邊孝枝） |
| 14 | 造形と表現（名達英詔） |
| 15 | まとめ（川喜田昌代） |

評価

授業への参加度（50点）、筆記試験（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

授業外学習

【事前準備】保育の内容の領域「表現」について確認しておく。

【事後学修】配付資料を参考に復習し、「表現」に対する理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書】適宜紹介する

【参考図書】適宜紹介する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 言語文化表現 | | |
| 担当教員名 | 橋本 千鶴 | | |
| ナンバリング | KAg155 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

幼稚園教諭免許・保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、幼稚園教諭・保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの健全な心身の発達に深いかかわりをもつ豊かな児童文化財の中から、絵本、紙芝居、素話、人形劇、言葉遊び、わらべうたなどの言語表現活動に焦点を当て、楽しみながら、保育活動への具体的展開方法を実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. さまざまな児童文化財について積極的に学び、親しむことを通して、将来の保育者として必要な知識や技能を身につける。
2. 多様な言語表現活動を楽しみながら、豊かな言語感覚を養い、言葉に対する感性を磨く。
3. 子どもの発達段階に適した絵本、紙芝居、素話、人形劇などを選定することができる。

内容

この授業は、子どもの健全な心身の発達を目指す言語表現活動についてグループワークや模擬保育を中心に実践的に学び、将来の保育者として必要な知識や技能を身に付けていく。

| | |
|----|--|
| 1 | オリエンテーション 素話と言葉遊び |
| 2 | 児童文化とは 保育の中の遊び |
| 3 | 絵本の読み聞かせ(1) 絵本の歴史・物語の教材解釈 |
| 4 | 絵本の読み聞かせ(2) 昔話 |
| 5 | 絵本の読み聞かせ(3) 教材研究と読み聞かせの練習 (グループワーク) |
| 6 | 絵本の読み聞かせ(4) 模擬保育 (グループワーク) |
| 7 | 素話の発表 模擬保育 (グループワーク) |
| 8 | 紙芝居の演じ方(1) 紙芝居の歴史・演じ方の実際 (グループワーク) |
| 9 | 紙芝居の演じ方(2) 模擬保育 (グループワーク・図書館フォーラム使用) |
| 10 | いろいろな児童文化財の紹介と実演(1) 人形劇の演じ方の練習 (グループワーク) |
| 11 | いろいろな児童文化財の紹介と実演(2) 人形劇の演じ方の発表 (グループワーク) |
| 12 | 制作絵本の発表と合評会 |
| 13 | わらべうた、手あそびうたの実演 |
| 14 | 声を届ける～群読 (グループワーク) |
| 15 | まとめ (オノマトペ・授業全体のまとめ) |

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポートは、コメントを記載し、翌週の授業内で返却する。制作絵本は合評会を経て提出後、翌週の授業内で評価、紹介しながら返却する。

授業外学習

【事前準備】教科書の授業該当頁を読み児童文化財について下調べをし、実演前にはよく練習してくる。「幼稚園教育要領」等を読み、保育活動への具体的展開方法を考えておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだことを復習してノートにまとめる習慣をつけ、さらに児童文化財への興味関心を広げる。自分の実演をふり返り、改善点をはっきりさせて再度練習する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】皆川美恵子 武田京子 編著「新版 児童文化」 ななみ書房 2016年

【推薦書】「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」 チャイルド本社 2017年

【参考図書】授業で適宜紹介する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 言語文化表現 | | |
| 担当教員名 | 橋本 千鶴 | | |
| ナンバリング | KAg155 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

幼稚園教諭免許・保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、幼稚園教諭・保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの健全な心身の発達に深いかかわりをもつ豊かな児童文化財の中から、絵本、紙芝居、素話、人形劇、言葉遊び、わらべうたなどの言語表現活動に焦点を当て、楽しみながら、保育活動への具体的展開方法を実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. さまざまな児童文化財について積極的に学び、親しむことを通して、将来の保育者として必要な知識や技能を身につける。
2. 多様な言語表現活動を楽しみながら、豊かな言語感覚を養い、言葉に対する感性を磨く。
3. 子どもの発達段階に適した絵本、紙芝居、素話、人形劇などを選定することができる。

内容

この授業は、子どもの健全な心身の発達を目指す言語表現活動についてグループワークや模擬保育を中心に実践的に学び、将来の保育者として必要な知識や技能を身に付けていく。

| | |
|----|--|
| 1 | オリエンテーション 素話と言葉遊び |
| 2 | 児童文化とは 保育の中の遊び |
| 3 | 絵本の読み聞かせ(1) 絵本の歴史・物語の教材解釈 |
| 4 | 絵本の読み聞かせ(2) 昔話 |
| 5 | 絵本の読み聞かせ(3) 教材研究と読み聞かせの練習 (グループワーク) |
| 6 | 絵本の読み聞かせ(4) 模擬保育 (グループワーク) |
| 7 | 素話の発表 模擬保育 (グループワーク) |
| 8 | 紙芝居の演じ方(1) 紙芝居の歴史・演じ方の実際 (グループワーク) |
| 9 | 紙芝居の演じ方(2) 模擬保育 (グループワーク・図書館フォーラム使用) |
| 10 | いろいろな児童文化財の紹介と実演(1) 人形劇の演じ方の練習 (グループワーク) |
| 11 | いろいろな児童文化財の紹介と実演(2) 人形劇の演じ方の発表 (グループワーク) |
| 12 | 制作絵本の発表と合評会 |
| 13 | わらべうた、手あそびうたの実演 |
| 14 | 声を届ける～群読 (グループワーク) |
| 15 | まとめ (オノマトペ・授業全体のまとめ) |

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポートは、コメントを記載し、翌週の授業内で返却する。制作絵本は合評会を経て提出後、翌週の授業内で評価、紹介しながら返却する。

授業外学習

【事前準備】教科書の授業該当頁を読み児童文化財について下調べをし、実演前にはよく練習してくる。「幼稚園教育要領」等を読み、保育活動への具体的展開方法を考えておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだことを復習してノートにまとめる習慣をつけ、さらに児童文化財への興味関心を広げる。自分の実演をふり返り、改善点をはっきりさせて再度練習する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】皆川美恵子 武田京子 編著「新版 児童文化」 ななみ書房 2016年

【推薦書】「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」 チャイルド本社
2017年

【参考図書】授業で適宜紹介する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 言語文化表現 | | |
| 担当教員名 | 吉岡 晶子 | | |
| ナンバリング | KAg155 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Cクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる保育士の基礎的保育技術を習得する演目として位置づけられている。

科目の概要

子どもを取り巻く環境には様々な文化的要素がある。その中の言語文化的な分野、絵本、紙芝居、わらべうた、言葉遊び、人形劇などに焦点をあてて学ぶ。児童文化とはなにかについて考えると共に、教材の選び方、生かし方、実際の保育の場でどのように展開されているか、また、環境構成のありかたについても実践的に学ぶ。

学修目標（=到達目標）

子どもの周りにある言語文化への興味関心を広め、教材研究する。また、実践することで幼児の発達を踏まえた保育技術を養う。子どもをとりまく文化や文化財をとおり、子どもについて、保育者について、保育のあり方について学ぶ。

内容

この授業は講義を基本に、実技、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、教材研究、学びを深めていく。

| | |
|----|------------------------------|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 幼稚園生活の中での遊び、遊具、行事などの児童文化に触れる |
| 3 | いろいろな絵本について |
| 4 | 絵本・紙芝居の選び方 |
| 5 | 絵本・紙芝居の読み聞かせ体験 |
| 6 | 昔話 |
| 7 | 幼年童話 |
| 8 | お話・お話作り |
| 9 | 伝承遊びとわらべうた・言葉遊び |
| 10 | 人形劇 |
| 11 | ペープサートについて |
| 12 | ペープサート体験 |
| 13 | 伝統的玩具と遊び・季節の行事と言葉 |
| 14 | 絵本つくりと合評・子どもの言語表現 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加度（取り組み）30% 提出物30% 試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：提出物に関して評価したり、疑問点や学びについて返答し、さらに学びが深まり学習意欲が高まるようにする。

授業外学習

【事前準備】幼稚園教育要領・保育所保育指針を読む。指定された教科書をよみ予習すること。(各授業40分)

【事後学修】授業で学んだことについてノートをまとめ、さらに教材研究(絵本・紙芝居を読む、実体験を積む)を深める。(各授業40分 テーマごとに40分) 児童文化への興味関心を広げ探究する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】新版 児童文化 皆川美恵子 武田京子編著 ななみ書房

【推薦書】幼稚園教育要領 保育所保育指針 絵本各種

| | | | |
|---------|------------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 言語文化表現 | | |
| 担当教員名 | 吉岡 晶子 | | |
| ナンバリング | KAg155 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 1 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当する。

本科目は、保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる保育士の基礎的保育技術を習得する演目として位置づけられている。

科目の概要

子どもを取り巻く環境には様々な文化的要素がある。その中の言語文化的な分野、絵本、紙芝居、わらべうた、言葉遊び、人形劇などに焦点をあてて学ぶ。子どもの幸せを願いつつ児童文化とはなにかについて考えると共に、教材の選び方、生かし方、実際の保育の場でどのように展開されているか、また、環境構成のありかたについても実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

子どもの周りにある言語文化への興味関心を広め、教材研究する。また、実践することで幼児の発達を踏まえた保育技術を養う。子どもをとりまく文化や文化財をとおり、子どもについて、保育者について、保育のあり方について学ぶ。

内容

この授業は講義を基本に、実技、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、教材研究、学びを深めていく。

| | |
|----|------------------------------|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 幼稚園生活の中での遊び、遊具、行事などの児童文化に触れる |
| 3 | いろいろな絵本について |
| 4 | 絵本・紙芝居の選び方 |
| 5 | 絵本・紙芝居の読み聞かせ体験 |
| 6 | 昔話 |
| 7 | 幼年童話 |
| 8 | お話・お話作り |
| 9 | 伝承遊びとわらべうた・言葉遊び |
| 10 | 人形劇 |
| 11 | ペープサートについて |
| 12 | ペープサート体験 |
| 13 | 伝統的玩具と遊び・季節の行事と言葉 |
| 14 | 絵本つくりと合評・子どもの言語表現 |
| 15 | まとめ |

評価

授業への参加度（取り組み）30% 提出物30% 試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：提出物に関して評価したり、疑問点や学びについて返答し、さらに学びが深まり学習意欲が高まるようにする。

授業外学習

【事前準備】幼稚園教育要領・保育所保育指針を読むこと 指定された教科書をよみ予習すること。（各授業40分）

【事後学修】授業で学んだことについてノートをまとめ、さらに教材研究（絵本・紙芝居を読む、実体験を積むなど）を深める。（各授業40分 テーマごとに40分）児童文化への興味関心を広げ探究する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】新版 児童文化 皆川美恵子 武田京子編著 ななみ書房

【推薦書】幼稚園教育要領 保育所保育指針 b絵本各種

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | ネイチャー・ワーク | | |
| 担当教員名 | 宮野 周、名達 英詔 | | |
| ナンバリング | KAg256 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第 1 回：プロローグ 森に入るとは デジタルカメラなどの情報機器の活用について

第 2 回：森に出かけよう！

第 3 回：自然との対話 風・光・影 その1 感じる

第 4 回：自然との対話 風・光・影 その2 分かち合い

第 5 回：自然との対話 風・光・影 その3 みつけ

第 6 回：森ってどんなところ？

第 7 回：自然との対話 樹木・鳥 その1 感じる

第 8 回：自然との対話 樹木・花 その2 みつけ

第 9 回：子どもと自然

第 1 0 回：自然との対話 樹木・虫 その3

第 1 1 回：自然の中に生きる その1 感じる

第 1 2 回：自然の中に生きる その2 みつけ

第 1 3 回：自然の中に生きる その3 これまでの体験のまとめ

第 1 4 回：オリジナルスケッチブックの製作

第 1 5 回：エピローグ オリジナルスケッチブックの発表と総括

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブック (自作) にまとめ、自分のための資料集とすること (60点)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する (40点)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応

じて活動について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。（各授業に対して30分）

【事後学修】集めたメモや写真資料を整理し、授業で体験したことを振り返り、理解を深めること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳) 「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | ネイチャー・ワーク | | |
| 担当教員名 | 宮野 周、名達 英詔 | | |
| ナンバリング | KAg256 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第 1 回：プロローグ 森に入るとは デジタルカメラなどの情報機器の活用について

第 2 回：森に出かけよう！

第 3 回：自然との対話 風・光・影 その1 感じる

第 4 回：自然との対話 風・光・影 その2 分かち合い

第 5 回：自然との対話 風・光・影 その3 みつけ

第 6 回：森ってどんなところ？

第 7 回：自然との対話 樹木・鳥 その1 感じる

第 8 回：自然との対話 樹木・花 その2 みつけ

第 9 回：子どもと自然

第 1 0 回：自然との対話 樹木・虫 その3

第 1 1 回：自然の中に生きる その1 感じる

第 1 2 回：自然の中に生きる その2 みつけ

第 1 3 回：自然の中に生きる その3 これまでの体験のまとめ

第 1 4 回：オリジナルスケッチブックの製作

第 1 5 回：エピローグ オリジナルスケッチブックの発表と総括

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブック (自作) にまとめ、自分のための資料集とすること (60点)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する (40点)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応

じて活動について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。（各授業に対して30分）

【事後学修】集めたメモや写真資料を整理し、授業で体験したことを振り返り、理解を深めること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳) 「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | ネイチャー・ワーク | | |
| 担当教員名 | 宮野 周、名達 英詔 | | |
| ナンバリング | KAg256 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 10クラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第 1 回：プロローグ 森に入るとは デジタルカメラなどの情報機器の活用について

第 2 回：森に出かけよう！

第 3 回：自然との対話 風・光・影 その1 感じる

第 4 回：自然との対話 風・光・影 その2 分かち合い

第 5 回：自然との対話 風・光・影 その3 みつけ

第 6 回：森ってどんなところ？

第 7 回：自然との対話 樹木・鳥 その1 感じる

第 8 回：自然との対話 樹木・花 その2 みつけ

第 9 回：子どもと自然

第 1 0 回：自然との対話 樹木・虫 その3

第 1 1 回：自然の中に生きる その1 感じる

第 1 2 回：自然の中に生きる その2 みつけ

第 1 3 回：自然の中に生きる その3 これまでの体験のまとめ

第 1 4 回：オリジナルスケッチブックの製作

第 1 5 回：エピローグ オリジナルスケッチブックの発表と総括

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブック (自作) にまとめ、自分のための資料集とすること (60点)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する (40点)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応

じて活動について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。（各授業に対して30分）

【事後学修】集めたメモや写真資料を整理し、授業で体験したことを振り返り、理解を深めること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳) 「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | ネイチャー・ワーク | | |
| 担当教員名 | 宮野 周、名達 英詔 | | |
| ナンバリング | KAg256 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ 森に入るとは デジタルカメラなどの情報機器の活用について

第2回：森に出かけよう！

第3回：自然との対話 風・光・影 その1 感じる

第4回：自然との対話 風・光・影 その2 分かち合い

第5回：自然との対話 風・光・影 その3 みつけ

第6回：森ってどんなところ？

第7回：自然との対話 樹木・鳥 その1 感じる

第8回：自然との対話 樹木・花 その2 みつけ

第9回：子どもと自然

第10回：自然との対話 樹木・虫 その3

第11回：自然の中に生きる その1 感じる

第12回：自然の中に生きる その2 みつけ

第13回：自然の中に生きる その3 これまでの体験のまとめ

第14回：オリジナルスケッチブックの製作

第15回：エピローグ オリジナルスケッチブックの発表と総括

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブック（自作）にまとめ、自分のための資料集とすること(60点)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40点)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応

じて活動について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。（各授業に対して30分）

【事後学修】集めたメモや写真資料を整理し、授業で体験したことを振り返り、理解を深めること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

・レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳) 「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | ミュージック・クリエーション | | |
| 担当教員名 | 藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg357 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 2 に該当する。

本科目は、保育者に求められる幅広い音楽表現を学ぶ科目である。既存の音楽表現に限定せず、履修者が感性を研ぎ澄まし、試行錯誤を重ねることで、総合的な音楽表現の獲得をめざす。

科目の概要

基礎的な音楽に関する知識を学び、実際に歌い、様々な楽器に触れて、歌う、動く、楽器を演奏するなど、音楽表現の方法を学ぶ。また、身近にある「音」に対する感覚を磨き、身の周りにある音から音楽的表現の可能性を見出す感性を磨く。さらに合唱する、合奏する等のグループ活動を通して、学びを共有する。

学修目標

1. 音楽表現の多様性を体得すること。
2. 表現したい事を他者に的確に伝えることができるようになること。
3. 人の心に伝わる歌唱とはどのようなものか、試行錯誤してみる。

内容

| | |
|----|------------------------------|
| 1 | ガイダンス |
| 2 | 発声法と呼吸法について |
| 3 | 子どもの歌の表現について |
| 4 | 子どもの歌を日本語と英語で歌ってみよう |
| 5 | 子ども向きのオペラ、オペレッタ、ミュージカル作品について |
| 6 | 子ども向きのオペラ、オペレッタ、ミュージカル作品の鑑賞 |
| 7 | 楽器にふれてみよう |
| 8 | 楽器を使って合奏してみよう |
| 9 | 歌と楽器で合奏してみよう |
| 10 | 身近にあるもので楽器を作ってみよう |
| 11 | 作った楽器を使って表現してみよう |
| 12 | 身近にある「音」を探してみよう |
| 13 | 見つけた「音」を共有しよう |
| 14 | 見つけた「音」を素材にして表現してみよう |
| 15 | まとめ |

評価

グループ活動への取り組み (20%)、表現発表 (20%)、授業への参加度 (60%) とし、総合評価 60 点以上を合格

とする。

【フィードバック】表現発表の振り返りを行い、表現への気づきを共有する。

授業外学習

【事前予習】子どもの表現を音楽的表現という観点から考察し、まとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】様々な音楽表現を学ぶ中で、それぞれの表現形態において子どもに対してどのようなアプローチが適切であるのか考察し、まとめておく。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業資料配布。

【推薦書】小川容子 今川恭子『音楽する子どもをつかまえない』ふくろう出版

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | ミュージック・クリエーション | | |
| 担当教員名 | 加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg357 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Cクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

入学以来本学で学修した音楽に関する各自の力をさらに伸長し、表現力を総合的に高める。
幼児教育学科DPは2および3に該当する。

科目の概要

幼児教育の現場での音楽的活動に、指導者として十分に力を発揮するために必要な能力を身につける。
各自のピアノ演奏技術を向上・伸長させ、レパートリーを広げるとともに応用力を高める。

学修目標（=到達目標）

- ・人前で演奏し、互いに聞き合い、ディスカッションし、高め合う。
- ・音楽活動を楽しく指導・実践できる力を身につける。
- ・自分の演奏を発表することにより、自信をつける。

内容

この授業は各回提示された課題を次回までに練習し発表しディスカッションしあい表現力を高めていく。

| | |
|----|---------------------|
| 1 | 授業概要・課題提示・読譜・初見について |
| 2 | 初見復習とマーチ 指揮法 |
| 3 | 五音音階・わらべうた 遊び方と伴奏づけ |
| 4 | 文部省唱歌 |
| 5 | 「赤い鳥」童謡 |
| 6 | <発表1> |
| 7 | 子どものうた ユーモラスな歌 |
| 8 | 季節・行事の歌 |
| 9 | <発表2> 前半までの質疑応答 |
| 10 | 動物の歌 |
| 11 | 楽しい歌あそび |
| 12 | いろいろなピアノ曲 |
| 13 | 発表・ディスカッション |
| 14 | <発表3> |
| 15 | まとめ・総括 |

評価

授業に対する意欲・関心・参加度40% 演奏発表60%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

毎回、前回授業のフィードバックの時間を設ける。

授業外学習

【事前準備】毎時間提示する課題曲および演奏発表へ向けて、週3時間以上の練習が求められる。

【事後学修】演奏発表を通して得られた他の学生の良い点や指導・助言などを参考にして、さらに自分の力を伸ばせるよう復習に努めてほしい。事後も事前準備以上に各自で可能な限り時間を取ることを。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリント配布、各自のグレードに合わせたピアノ曲楽譜等、教室で紹介する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | ミュージック・クリエーション | | |
| 担当教員名 | 加倉井 佳世子 | | |
| ナンバリング | KAg357 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

入学以来本学で学修した音楽に関する各自の力をさらに伸長し、表現力を総合的に高める。
幼児教育学科DPは2および3に該当する。

科目の概要

幼児教育の現場での音楽的活動に、指導者として十分に力を発揮するために必要な能力を身につける。
各自のピアノ演奏技術を向上・伸長させ、レパートリーを広げるとともに応用力を高める。

学修目標（=到達目標）

- ・人前で演奏し、互いに聞き合い、ディスカッションし、高め合う。
- ・音楽活動を楽しく指導・実践できる力を身につける。
- ・自分の演奏を発表することにより、自信をつける。

内容

この授業は各回提示された課題を次回までに練習し発表しディスカッションしあい表現力を高めていく。

| | |
|----|---------------------|
| 1 | 授業概要・課題提示・読譜・初見について |
| 2 | 初見復習とマーチ 指揮法 |
| 3 | 五音音階・わらべうた 遊び方と伴奏づけ |
| 4 | 文部省唱歌 |
| 5 | 「赤い鳥」童謡 |
| 6 | <発表1> |
| 7 | 子どものうた ユーモラスな歌 |
| 8 | 季節・行事の歌 |
| 9 | <発表2> 前半までの質疑応答 |
| 10 | 動物の歌 |
| 11 | 楽しい歌あそび |
| 12 | いろいろなピアノ曲 |
| 13 | 発表・ディスカッション |
| 14 | <発表3> |
| 15 | まとめ・総括 |

評価

授業に対する意欲・関心・参加度40% 演奏発表60%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

毎回、前回授業のフィードバックの時間を設ける。

授業外学習

【事前準備】毎時間提示する課題曲および演奏発表へ向けて、週3時間以上の練習が求められる。

【事後学修】演奏発表を通して得られた他の学生の良い点や指導・助言などを参考にして、さらに自分の力を伸ばせるよう復習に努めてほしい。事後も事前準備以上に各自で可能な限り時間を取ることを。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリント配布、各自のグレードに合わせたピアノ曲楽譜等、教室で紹介する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | ミュージック・クリエーション | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子 | | |
| ナンバリング | KAg357 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

この科目は保育者として必要な様々な音楽表現を学ぶものである。日々の園生活の中で行われる小さな活動から、遊びの中での即興的創造的な音楽やその発表の持ち方につながる幅広い音楽表現を学ぶ。

科目の概要

手あそび歌，あそびうた，身近にある音の探索，楽器につながる音器や楽器による合奏から，物語の音楽表現などの総合的な表現まで幅広く扱う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・手あそび歌や伝統的なあそびうた，わらべうたなど遊びの中の音楽の意味を理解し歌い遊ぶことができる。
- ・身近な音に気づき，音遊び，音器や楽器を正しく使った演奏ができる。
- ・物語などを基に総合的な音楽表現ができる。

内容

この授業は基本的に演習を通して学ぶ。自身でやってみることで気づき、問題意識を持ち、それを友人と分かち合うことで理解を深める。グループで話し合い工夫し演奏し演じるなどの発表も行う。

| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | オリエンテーション：創造的音楽表現とは |
| 2 | 手あそび歌，あそびうたの意義を実践をとおして学ぶ |
| 3 | 替え歌遊びの実践：ことばとメロディの関係 |
| 4 | 日本の伝統的なあそびうた，わらべうたの意義を実践をとおして学ぶ |
| 5 | わらべうたの音とリズム |
| 6 | 身近な音に気づく活動とは |
| 7 | 素材から音を探す。音器を作って遊ぶ。 |
| 8 | 主にリズム楽器の扱い，正しい奏法，子ども達と楽器の出会い |
| 9 | 合奏として楽しむために編曲する |
| 10 | 合奏を発表し意見交換する |
| 11 | 物語の中の音楽表現とは |
| 12 | 絵本を音楽表現する |
| 13 | 歌の創作，絵本の中の音の創作 |
| 14 | 絵本を演じ遊ぶ |
| 15 | まとめ：総合的表現活動としての音楽 |

評価

実技活動が中心となるので授業への参加度60%、グループ活動の取り組み20%、表現活動の発表20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題や作品は全員で共有できる形で返却している。

授業外学習

【事前準備】指示された授業準備を必ず行うこと(課題準備にかかる必要時間・1~2時間くらい)

【事後学修】授業内で学んだことを復習する。科目の性格上練習を必要とすることがある。(1時間くらい)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要な資料は授業時に配布する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | ミュージック・クリエーション | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子 | | |
| ナンバリング | KAg357 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2に該当する。

この科目は保育者として必要な様々な音楽表現を学ぶものである。日々の園生活の中で行われる小さな活動から、遊びの中での即興的創造的な音楽やその発表の持ち方につながる幅広い音楽表現を学ぶ。

科目の概要

手あそび歌、あそびうた、身近にある音の探索、楽器につながる音器や楽器による合奏から、物語の音楽表現などの総合的な表現まで幅広く扱う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・手あそび歌や伝統的なあそびうた、わらべうたなど遊びの中の音楽の意味を理解し歌い遊ぶことができる。
- ・身近な音に気づき、音遊び、音器や楽器を正しく使った演奏ができる。
- ・物語などを基に総合的な音楽表現ができる。

内容

この授業は基本的に演習を通して学ぶ。自身でやってみることで気づき、問題意識を持ち、それを友人と分かち合うことで理解を深める。グループで話し合い工夫し演奏し演じるなどの発表も行う。

| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | オリエンテーション：創造的音楽表現とは |
| 2 | 手あそび歌、あそびうたの意義を実践をとおして学ぶ |
| 3 | 替え歌遊びの実践：ことばとメロディの関係 |
| 4 | 日本の伝統的なあそびうた、わらべうたの意義を実践をとおして学ぶ |
| 5 | わらべうたの音とリズム |
| 6 | 身近な音に気づく活動とは |
| 7 | 素材から音を探す。音器を作って遊ぶ。 |
| 8 | 主にリズム楽器の扱い、正しい奏法、子ども達と楽器の出会い |
| 9 | 合奏として楽しむために編曲する |
| 10 | 合奏を発表し意見交換する |
| 11 | 物語の中の音楽表現とは |
| 12 | 絵本を音楽表現する |
| 13 | 歌の創作、絵本の中の音の創作 |
| 14 | 絵本を演じ遊ぶ |
| 15 | まとめ：総合的表現活動としての音楽 |

評価

実技活動が中心となるので授業への参加度60%、グループ活動の取り組み20%、表現活動の発表20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題や作品は全員で共有できる形で返却している。

授業外学習

【事前準備】指示された授業準備を必ず行うこと(課題準備にかかる必要時間・1~2時間くらい)

【事後学修】授業内で学んだことを復習する。科目の性格上練習を必要とすることがある。(1時間くらい)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要な資料は授業時に配布する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|----|
| 科目名 | 造形発達と表現 | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAg358 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 2 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

科目の性格

乳児から児童に至るまでの子どもの発達やその特性を理解し、その生育にいかに関わることが望ましいかについて学ぶことが主眼である。その一つの視座として「子どもの造形行動を通し、その発達や特性を知る」ことは具体的な学びとなる。

科目の概要

人間が生きる手段として表現行動は重要である。その表現行動のひとつとして造形表現は欠くことができない行動である。その造形表現の行動は乳幼児・児童と大人と共通した行動もあれば、大きく異なる行動もある。そうした同一性と異文化性を持っていることを認識することは乳幼児・児童教育の立場だけでなく、ひろく人間の営みとして理解することになり重要である。

学修目標

そのために乳幼児の造形表現に潜む意味や特徴的な表現の意味を学び、幼児期から児童期の発達過程について学び、その表現をどう読み取るのか、どのような援助方法や対応があるのか...について体得していくことがねらいである。

内容

子どもたちの実態をスライドやビデオなどで知ることや、実際の幼児画を見るなど具体的な資料を基に、観察・鑑賞・検証・考察を繰り返して、直接体験的に認識を積み上げながら学ぶ。つまり、子どもたちの独特な表現法やその読み取り方を体得し、適切な援助の仕方を体得することである。そうした中で大人との共通性（同一性）もおのずと理解されることになる。

- 1 ~ 2 造形表現の意味と役割・乳・幼児独特の造形表現について
- 3 ~ 4 見て描くことの広がり：描くとは...
- 5 ~ 6 乳・幼児画の発達段階
描き始め (Scribble期・1~2歳頃)
- 7 作品撮影・分析
- 8 ~ 9 乳・幼児画の発達段階
意味づけ、アニミズム (象徴期・3~4歳頃)
- 10 作品撮影・分析
- 11 美術教育における法則化について
- 12 ~ 13 乳・幼児画の発達段階、学童期以降の発達段階
(知的リアリズム等・5~6歳、6歳~)
- 14 作品撮影・分析
- 15 つくる活動と発達段階について、総括

授業中に示した子どもの絵をデジタルカメラで撮影し、分類し資料にする。

評価

講義と実習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲(40%)を評価する。総合評価60点以上を合格とする。必要に応じてスケッチブック等の提出物について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】データ整理をこまめに行うこと。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修『みんないきいき絵の具で描こう!』サクラクレパス出版部

〔推薦書〕

・磯部錦司編著『造形表現・図画工作—幼児から小学生の統合的美術教育—』建帛社

・谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社

| | | | |
|---------|------------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 幼児音楽論 | | |
| 担当教員名 | 藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAg459 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 2、3 に該当する。

本科目は、保育者養成課程の専門科目における「表現と文化」に関する科目の 1 つで、子どもの豊かな表現を育むことをめざし、学習者自身の感性と豊かな表現力を高めることを主眼としている。音楽基礎 (歌唱法)、音楽基礎 (ピアノ基礎技術)、音楽基礎 (楽器演奏) で得た音楽表現技術や知識及び幼児の音楽表現に関する専門的知識について、さらに深く理解することを目的とする。

科目の概要

本科目は、子どもに歌われる歌に関して歴史的変遷を概観し、理解を深め、視聴覚資料などを活用して具体的な事例を参照しながら学修を進める。また、子どもの音楽的表現、音楽表現に係る事項を取り上げ、その意義を学修する。さらに、それらを保育の現場で活かすために、音楽を用いた模擬保育を行い、保育方法を検討する。

学修目標

- 1 . 子どもに歌われる歌に関する知識を深める
- 2 . 子どもの音楽的表現、音楽表現に関する知識を深める
- 3 . 保育における音楽表現に関して実践を通して理解を深める。

内容

| | |
|----|---|
| 1 | ガイダンス |
| 2 | わらべ歌について |
| 3 | 唱歌について |
| 4 | 唱歌教育について |
| 5 | 童謡について |
| 6 | 児童雑誌「赤い鳥」について |
| 7 | 戦後の子どもの歌について |
| 8 | 詩と音楽の関係について |
| 9 | 幼児の声域と声の発達、声の管理 (怒鳴り声、小児嘔声・音声障害) について |
| 10 | 子どもの音楽的発達について |
| 11 | 子どもの音楽的表現、音楽表現について |
| 12 | 子どもを取り巻く音楽環境について |
| 13 | 音楽を用いた模擬保育の実践 |
| 14 | 音楽を用いた模擬保育の実践と考察 |
| 15 | まとめ |

評価

レポート (30%)、筆記試験 (30%)、授業への参加度 (40%) とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】 授業に関連のある書籍を読み、概要をまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】 授業ノート、授業資料のまとめを行う。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

授業資料配布。

【推薦書】

奥中康人『国家と音楽 伊澤修二がめざした日本近代』春秋社、竹内貴久雄『唱歌・童謡120の真実』ヤマハミュージックメディア、周東美材『童謡の近代』岩波現代全書

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 幼児音楽論 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子 | | |
| ナンバリング | KAg459 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針の2,3に該当する。幼児のみならず乳児の段階からの音楽とのかかわりに関するあらゆる課題を学ぶ。

科目の概要

保育と音楽に関わるあらゆる課題を取り上げる。具体的には、最新の研究による知見を基に赤ちゃんがどのように音や音楽を認知し自ら表現する存在となるのか、赤ちゃんからどのように関わって音楽という文化を伝えていくのか、そのための保育での音楽活動はどのようなものとなるのか、知っておくべき知識を学び、保育現場での音楽教育を考える素地を作る。

学修目標

赤ちゃんから幼児まで保育現場での音楽活動について考え、実践する力を修得する。

内容

この授業は講義を中心に、課題の実践、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら理解を深めていく。

| | |
|----|----------------|
| 1 | 保育と音楽 |
| 2 | 赤ちゃんと言 |
| 3 | 赤ちゃんと言楽 |
| 4 | わらべうたが育むもの 乳児編 |
| 5 | わらべうたが育むもの 幼児編 |
| 6 | 日本の音・音楽文化 |
| 7 | 西洋音楽との出会い |
| 8 | 明治時代の「唱歌」 |
| 9 | 大正時代の「童謡」 |
| 10 | 戦後の「新しい子どもの歌」 |
| 11 | 音との出会いから育まれるもの |
| 12 | 幼児と楽器 |
| 13 | 保育内容としてのリズム |
| 14 | リズム活動の考え方 |
| 15 | まとめ・文化としての音楽 |

評価

授業への参加度60%（提出物の評価を含む）、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】グループワークでのまとめなど提出物に関しては、すべての学びを共有できるような形をとって返却する。

授業外学習

【事前予習】毎時間次回の予告をするので、それぞれ必要な調べ学習やグループワークの準備をする。(1時間程度)

【事後学修】授業については復習することを基本とするが、特にそれぞれの授業課題に対する問題意識を自身でまとめて書き記しておき、卒業研究に向けた準備をする。(1時間程度)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に必要なプリント配布を行う

【参考図書】日本の子どもの歌 唱歌童謡140年の歩み 音楽之友社

【推薦書】授業の中で紹介する

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 造形保育論 | | |
| 担当教員名 | 名達 英詔 | | |
| ナンバリング | KAg460 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 1Aクラス |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1．2．3に該当する。

子どもは日々「もの」や「人」とかかわり生活しています。そのかかわり一つひとつが子どもが自ら感じ考え行動する機会となります。子ども自らが主体的に生きることを願って行われる保育において、そうした関わりを認め励ますために造形はどのようにありえるでしょうか。

科目の概要

造形は人間の本性に関わり発生する行為ですから保育手段のひとつとしてその意義は大きいものです。保育全体を見通しながら造形活動の役割と意義を見出し、子どもの成長発達に呼応した実践ができるよう、季節や自然との触れ合いなど、子どもの興味関心を起点にした活動展開や活動の中で育まれる人との関わりなどに視点を置いて学びます。

学修目標

子どもの成長発達を保証し、意欲的に行動できる子どもに育つ環境づくりに関われる人材となるよう、自らの保育力を高めることを目標とします。

内容

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます保育のあり方を考えます。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察と研究をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行います。

1週 授業の概要

2週 子どもの生活と造形

3週 子どもの生活と造形

4週 子どもの生活と造形

5週 子どもの文脈と造形

6週 子どもの文脈と造形

7週 コミュニケーションと造形

8週 コミュニケーションと造形

9週 造形と協同

10週 造形と協同

11週 素材のもつ特性・応答的環境

12週 素材のもつ特性・応答的環境

13週 子どもの造形教育の歴史

14週 領域「表現」を超えて

評価

授業を通して学び、感じ、考えたことや実際に試したことなどをもとに造形を手がかりとした保育展開が可能になるようにまとめたスケッチブックの提出。(60点)。授業への取り組みによって乳幼児と関わる感性、意欲、実践力を評価します(40点)。以上を総合評価し60点以上を合格とします。【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

授業外学習

【事前予習】前回の内容を確認し、次回に向けた課題に取り組みます。(各授業に対して60分)

【事後学修】ノートを整理し、感想を含め疑問・問題点をまとめます。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

・授業内で適宜紹介

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 造形保育論 | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAg460 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | 2Aクラス |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

この科目は幼児教育専攻の専門科目であり、様々な専門領域の中で、保育における造形や造形表現について追求し専門性を深めていくことを希望する学生を対象としている。

ここでの学びが卒業研究に結びついていく。幼児造形教育の意義や子どもの造形表現に対する理解、保育者の役割、造形活動の中で育まれるものや人とのかかわりを実技も含めながら学ぶ。また幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に造形的な環境を構成していく力や実際に幼稚園や保育所での実習とも関連させながら子どもの発達を考慮した教材研究を通して将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目標とする。

内容

- 1.オリエンテーション
- 2.造形表現の意味と役割：表現することの意味
- 3.子どもの育ちと造形表現
- 4.幼児の造形教育の歴史
- 5.絵の指導方法について 1
- 6.絵の指導方法について 2
- 7.教材研究1 身近な素材を使った表現を学ぶ
- 8.教材研究2 身近な素材を使った表現を学ぶ
- 9.教材研究3 身近な素材を使った表現を学ぶ
- 10.教材研究4 様々な描画材料について理解し「かく」活動について学ぶ
- 11.教材研究5 様々な描画材料について理解し「かく」活動について学ぶ
- 12.造形に関する保育計画案づくりについて1
- 13.造形に関する保育計画案づくりについて2
- 14.造形に関する保育計画案づくりについて3
- 15.造形に関する保育計画案づくりについて4 総括

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度（40%）により総合的に判断します。なお、60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。（各授業に

対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社

〔推薦書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作―幼児から小学生の統合的美術教育―』建帛社

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| 科目名 | 身体表現論 | | |
| 担当教員名 | 渡邊 孝枝 | | |
| ナンバリング | KAg461 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の専門科目であり、学位授与方針1，2，3に該当します。幼児の身体表現について学んできた理論をもとに、自ら問いを見つけ探求し、且つ実践を通して考えを深めていきます。

科目の概要

体育基礎（身体表現）、保育内容の指導法（身体表現）をもとに、身体表現に関わる自分自身の能力の進展を図ります。また、幼児期の身体表現活動の中から興味関心のある事柄を見つけ、その中から問いをたて、探求し、考えを深めていきます。

学修目標（＝到達目標）

- 1、身体表現に関わる自分自身の能力を高めること
- 2、幼児期の身体表現に関わる興味関心から問いをたて、探求、考えを深めること
- 3、学んだ知識を実践へ、実践から得た知識を学びへと循環できるようになること

内容

| | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 身体表現について：「からだは語る」「からだで語る」 |
| 2 | 創造的な身体表現活動 具体的なもの・ことから展開する |
| 3 | 創造的な身体表現活動 抽象的なもの・ことから展開する |
| 4 | 創造的な身体表現活動 グループ作品 創作（1） |
| 5 | 創造的な身体表現活動 グループ作品 創作（2） |
| 6 | 子どもの身体表現活動を考える 子どもの身体表現活動の実際 |
| 7 | 子どもの身体表現活動を考える 子どもの身体表現活動をとりまく課題 |
| 8 | 子どもの身体表現活動を考える 身体表現の育むもの～感性について～ |
| 9 | 子どもの身体表現活動を考える 身体表現の育むもの～からだについて～ |
| 10 | 子どもの身体表現活動を考える 身体表現の育むもの～想像と創造について～ |
| 11 | 模擬保育 身体表現活動の企画 |
| 12 | 模擬保育 身体表現活動の実施（1） |
| 13 | 模擬保育 身体表現活動の実施（2） |
| 14 | 模擬保育身体表現活動の振り返り |
| 15 | まとめ |

評価

平常点50%（グループワークへの貢献、授業に対する積極性、意欲、態度など）、レポート50%により、総合評価60

点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます

【フィードバック】コメントは翌週以降、レポートは確認後、質問等に回答し返却する。

授業外学習

【事前予習】授業内に紹介した推薦書や参考図書を読んでおくこと。(90分)

【事後学修】授業内で扱ったことに対し、自分の考えや疑問を記す記録ノートを作成すること。(90分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】駒久美子、島田由紀子編著「コンパス保育内容表現」建帛社

| | | | |
|---------|-----------------------------|---------|----------|
| 科目名 | 幼稚園教育実習総論 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子、横井 紘子、山田 陽子、桶田 ゆかり 他 | | |
| ナンバリング | KAh362 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目で、幼稚園における教育実習の事前事後指導のための科目である。幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、幼稚園教諭免許状取得のための実習を行う際には、必ず本科目を併せて履修することが求められる。

科目の概要

実習前には、実習を行う幼稚園の組織、保育形態、今回行う実習の目的・目標などの理解を促し、実りある実習をめざす。そのために、実習に求められる様々な知識や技能が習得されているか、幼児理解、保育者の役割の理解などを確認する。実習後は、保育日誌などの記録を基に考察・討論し、保育者を目指す自己の保育行為の評価と課題の明確化をめざす。

学修目標

- ・実習に必要な事前学習と準備が整っている。
- ・実習後に自己の保育行為を評価し課題を明確化できる。

内容

（１）事前指導（参加観察実習）

学内での担当教員による実習の目的・目標、内容等に関わるオリエンテーション

実習園園長・実習担当者を学内に招聘しての特別講義

実習園に出向いての、園長・実習担当、担任等によるオリエンテーション

園の周辺の環境の自己調査と把握、環境特性の理解

（２）事後指導（参加観察実習）/事前指導（総合実習）

クラス全体、グループ、実習園別、担当年齢別、個別面談等、様々な規模と形態での話し合いを重ねながら、1週間の参加観察実習を振り返り、実習に関しての自己評価を行うと共に、総合実習に向けての課題を設定し、それに向けての準備に取り組む。

総合実習において取り組む指導案作成、責任実習のために、これまでに学んできた知識・技術の確認と、保育日誌等を基にしたの保育対象である子ども・子ども集団の理解に努める。

実習園にて、総合実習に関するオリエンテーションを受ける

（３）事後指導（総合実習）

実習園においての実習の総括としての反省会

学内での実習報告、これから実習を行う下位学年に向けての発表と話し合いを通して、自分にとっての実習成果は何かについて考える

自己の成長部分、努力が現れた取り組み、反省点などを踏まえて自己評価を行う。

事前指導では、幼稚園教育の基本となる考え方、子どもの生活実態、発達特性など保育実践の土台となる知識を整理し、これまでの実習体験や保育シュミレーションなどを通して、保育者としての自己課題を明確にすること、指導計画作成、教材研究など、実習に向けての具体的準備を行うことに取り組む。

自分の保育を振り返って反省し、主体的に評価を行うことが、保育実習後に学内で行う事後指導の要点である。保育実習日誌などの記録を手がかりにして、自己の対象理解と保育行為について、クラスの仲間や指導教員と話し合い、更なる保育実践力の向上に向けて踏み出す契機とする。

なお、実習時期に応じ、「保育実習総論」にて事前指導を行ったり、後期には保育所保育実習、施設実習の事後指導を行うこともある。

評価

学内外での実習指導への参加状況(50%)、実習日誌やレポート等の提出(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習日誌や授業内課題は確認、評価を行い返却する。不十分なものについては、再提出を課す。

授業外学習

【事前予習】1～2時間。実習先の特性の理解を進め、保育援助や環境構成、教材に関する研究および指導計画の作成を行う。

【事後学修】1～2時間。実習後の自己課題を明確にし、各自の課題について達成目標を設定して改善向上に取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領解説

その他、授業時に指示する。

【推薦書】新版 遊びの指導・幼少年教育研究所編著（同文書院）

| | | | |
|---------|---------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 幼稚園教育実習 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子、山田 陽子、呂 小耘、横井 紘子 他 | | |
| ナンバリング | KAh463 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 選択, 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭1種免許状取得のための必修科目である。幼稚園教諭免許状取得のための最終の現場における総合的実習である。実習事前事後指導のための「幼稚園教育実習総論」を同時履修すること。

科目の概要

本学科が指定した実習園にて、4週間の教育実習を行う。

保育観察、保育補助、保育計画の立案、教材研究、責任実習を行う。

学修目標

- ・これまでの専門的学習成果、保育技術を与えられた保育条件のもとで発揮すること
- ・幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うこと
- ・社会人、職業人としての基礎的常識、行動のしかたを身につけること
- ・幼児についての深い共感と洞察に基づいて保育の省察をし、よりよい保育実践の改善への手だてを考えることができること

内容

実習期間は参加観察実習1週間（3年次後期）、総合実習3週間（4年次前期）に分けられる。

実習中は毎日保育日誌を書き、幼児集団を指導する部分実習（数回）および責任実習（1~2日）を行う。

部分実習・責任実習においては指導計画を作成し、実習担当保育者から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とするが、帰省先での実習など特例は認められる。

実習に臨むための要件は、「履修の手引き」と「実習の手引き」参照。

実習内容の詳細は、「実習の手引き」を参照のこと。

評価

実習指導園に実習ごとに評価を頂き、それを参考に実習担当教員が評価する。評価の観点は「実習の手引き」に示してある。

実習日誌、事前事後指導における出席、提出物等も評価対象になる。

授業外学習

【事前予習】実習先の特性の理解を進め、保育援助や環境構成、教材に関する研究および指導計画の作成を行う。翌日の保育について考える。実習終了後に事後学習と予習に2~3時間をあてる。

【事後学修】その日の保育実践を振り返り、実習日誌を作成する。実習後の自己課題を明確にし、各自の課題について達成目標を設定して改善向上に取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育実習総論に準じる。

その他は、実習授業開始時に指定する。

| | | | |
|---------|-----------------------------|---------|----------|
| 科目名 | 保育実習総論 | | |
| 担当教員名 | 川喜田 昌代、上垣内 伸子、横井 紘子、向井 美穂 他 | | |
| ナンバリング | KAh364 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3 に該当する。

「保育所保育実習」「施設実習」の履修者の実習事前事後指導を目的とする。「保育所保育実習」「施設実習」と同時履修とする。幼稚園教諭免許状のみの取得希望者も共通の内容があるため受講する必要がある。将来保育者を目指す学生が受講し、意欲的に参加することが望ましい。

本科目の履修にあたって「実習の手引き」を参照すること。

科目の概要

各実習の目的や課題を明確にすると共に、実習前・中・後の具体的なプログラム、実習先に関するインフォメーション、実習の心構えと準備、実習日誌や保育指導計画等の書き方などを指導する。また、グループ学習等を振り返り、その話し合いを通して経験を共有することで学びを深める。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を経て実習となる。そのことを理解し、授業に積極的に参加する。また、授業の中で進める発展的学習・課題をおこなうことで、子どもや施設利用児・者の理解と人権尊重等について、保育の場・保育実践をより多角的に理解し、実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力などの育成を目指す

内容

この授業は講義とグループワーク、ディスカッション、個人指導を取り入れながら学びを深めていく。

【前期の主な授業内容】

- < 「保育所保育実習」「施設実習」の事前指導 >
- ・ 授業概要とスケジュール / 各実習の目的と方法
 - ・ 実習内容、実習生としての心構え / 人権尊重及びプライバシー保護と守秘義務
 - ・ 乳幼児への援助のあり方
 - ・ 実習日誌 / 指導案 / 実践演習
 - ・ 実習施設別のグループワーク
 - ・ 個別指導

【後期の主な授業内容】

- < 「保育所保育実習」「施設実習」の事前事後指導 >
- ・ 授業概要とスケジュール / 各実習の目的と方法
 - ・ 実習後の振り返り（グループディスカッション、個別指導）
 - ・ 実習課題（自己課題 / 保育課題）の確認
- < 「幼稚園教育実習」への展開 >
- ・ 「幼稚園教育実習」の目的と方法、心構え、実習内容の確認

- ・ 幼児期の発達による教材研究や指導のねらい、留意点
- ・ 実習日誌の意義と書き方 / 指導案 / 模擬保育

毎回『実習の手引き』を持参すること

評価

授業への参加状況（50％）や課題提出（50％）などから総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。
（フィードバック）実習日誌や授業内課題は確認、評価を行い返却する。不十分なものについては、再提出を課す。

授業外学習

【事前予習】1～2時間以上 保育士資格取得に関わる専門科目における学び、乳幼児期の発達、施設、施設利用児・者、専門的援助と専門職に関わる基本事項を確認しておく。

【事後学修】1～2時間以上 実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<教科書>

阿部・増田・小櫃編 『保育実習』 ミネルヴァ書房

『幼稚園 わかりやすい指導計画作成のすべて』フレーベル館

その他、授業時に指定する。

<参考書>

最新保育資料集 子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領解説 / 保育所保育指針解説書 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|--------|
| 科目名 | 保育実習総論 | | |
| 担当教員名 | 向井 美穂、山田 陽子、権 明愛、呂 小耘 他 | | |
| ナンバリング | HAh464 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選択, 選必 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

保育士資格取得者を対象とした選択必修科目である。本科目は「保育所保育実習」履修者の実習事前事後指導を目的とする。「保育所保育実習」と「施設実習」を履修しているものを対象とする。

将来保育者を目指す学生が受講し、意欲的に参加することが望ましい。

科目の概要

保育所保育実習の目的を踏まえ、これまでの実習体験を振り返り、自らの課題を明確にし、実践力を培うための実習を行う。具体的な保育計画や保育者としての動きを具体的に考え、保育の専門家としての自覚を養う。また、グループ学習で実習を振り返り、その話し合いを通して経験を共有することで学びを深める。

学修目標 (= 到達目標)

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を経て実習と認められる。そのことを理解し、授業に積極的に参加する。また、授業の中で進める発展的学習・課題をおこなうことで、保育の場・保育実践をより多角的に理解し、実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力などの育成を目指す。また保育者となる上での自己課題を明確化し、その課題に向き合うための力を持ち続けられることを目指す。

内容

この授業は、講義とグループワーク、ディスカッション、個人指導等で、展開する。

< 「保育所保育実習」の事前指導 >

- ・授業概要とスケジュール
- ・実習の目的と実習内容の確認
- ・自己課題の明確化
- ・実習先の特性の理解
- ・実習計画の作成
- ・実習生としての心構え
- ・実習日誌 / 指導案 / 実践演習
- ・個別指導

「保育所保育実習」では、原則実習先が同じであることから、「保育所保育実習」の実習経験を踏まえて、「保育所保育実習」の目的の明確化をし発展的な学習を目指す。また、特定のクラス(原則3歳未満児クラス)で責任実習(または部分責任実習)を実践するための自己課題を明確化する。

< 「保育所保育実習」の事後指導 >

- ・授業概要とスケジュール
- ・実習後の振り返り (グループディスカッション、個別指導)

・実習課題（自己課題／保育課題）の確認

保育実習と幼稚園教育実習に内容がまたがる場合、保育士資格か幼稚園教諭免許状の片方のみの取得を希望する者も、4年次の「幼稚園教育実習総論」とあわせて受講することが望ましい。

尚、実習時期に応じ、「幼稚園教育実習総論」にて事後指導を行うこともある。

評価

授業への参加状況（50点）や課題提出（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを確認しておく。

実習の手引きを熟読しておく。

【事後学修】実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面談などを通して振り返り、自らの課題を明確にする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に指示を行う

【参考図書】「保育実習総論」で指定する教科書

最新保育資料集 ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|--------|
| 科目名 | 保育実習総論 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子、潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | KAh464 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 前期 | 必修・選択の別 | 選必, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 1 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。

保育士資格取得者を対象とした選択必修科目である。実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を経て実習となる。本科目は「施設実習」履修者の実習事前・事後指導を目的とする。

履修条件として、「保育実習総論」、「保育所保育実習」及び「施設実習」を履修していることを前提とする。

将来、施設保育者を目指す学生が受講することが望ましい。

科目の概要

施設実習の実習目的を踏まえ、これまでの実習体験を振り返り、自らの課題を明確にし、実践力を培うための実習方法の確認をする。具体的な支援展開や保育者・施設職員との関係などのシミュレーションを行うとともに、自分の長所短所を客観視し、専門家としての自覚を養う。また、実習終了後には実習報告を行い、話し合いやプレゼンテーションを通して経験を共有し、可視化する中で専門職としての専門性を習得する。

学修目標（＝到達目標）

授業の中で進める発展的学習・課題に取り組むことで、保育の場・保育実践をより多角的に理解し、実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力などの育成を目指す。

内容

< 「施設実習」の事前指導 >

- ・授業概要とスケジュール
- ・実習生としての心構え
- ・実習の目的と実習内容の確認
- ・実習先の種別及び特性の理解
- ・実習計画の作成
- ・実習日誌 / 指導案 / 実践演習
- ・個別指導

< 「施設実習」の事後指導 >

- ・授業概要とスケジュール
- ・実習後の振り返り（グループディスカッション、個別指導）
- ・実習課題（自己課題 / 保育課題）の確認
- ・実習報告会の開催

保育実習と幼稚園教育実習に内容がまたがる場合、保育士資格あるいは幼稚園教諭免許状の片方のみの取得を希望する者も、4年次の「幼稚園教育実習総論」とあわせて受講することが望ましい。

尚、実習時期に応じ、「幼稚園教育実習総論」にて事後指導を行うこともある。

事前指導及び事後指導において、毎回実習の手引きを持参すること。

評価

授業への参加状況（50点）や受講ノートの提出と内容、課題提出（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

[フィードバック]受講ノートの返却とそれに基づいた振り返りを翌週授業に実施する。また、授業課題は提出後に返却をし、助言を行う。不十分なものについては、再提出を課す。

授業外学習

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。内容に応じて、これまで習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを確認しておく。実習施設、施設利用児・者、専門的援助と専門職に関わる基本事項を確認しておく。これらを1時間程度行う。 【事後学修】実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。1時間程度行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】履修時の「保育実習総論」で指定した教科書

「ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2019」 中央法規

【参考図書】

最新保育資料集2019 ミネルヴァ書房

保育用語辞典[第8版] ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|---------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 保育所保育実習 | | |
| 担当教員名 | 川喜田 昌代、山田 陽子、呂 小耘、向井 美穂 他 | | |
| ナンバリング | KAh365 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* ,選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2・3に該当する。保育士資格取得のための必修科目である。

保育士資格取得のための必修科目であり「施設実習 」とともに必ず履修しなければならない。

その他「保育実習総論 」も資格取得上の必修履修。さらに4年次に「保育所保育実習 」もしくは「施設実習 」を選択履修すること。本科目の履修にあたって「実習の手引き」を参照すること。

科目の概要

原則3 年次に約2 週間、保育所で実習を行う。保育所における最初の実習となる場合が多いので、まずは全年齢のクラスに1～2 日間ずつ入れていただくようにし、年齢ごとの発達と保育のあり方を学ぶ。生活の中の様々な養護を実践すると同時に、保育を支える周辺的な仕事を体験する。実習中は毎日保育実習日誌を提出し、指導者の助言を受け、各自の実習課題を明らかにし、学びを深めていくことが必要となる。他の職員と連携・協働できるような基本的なコミュニケーション能力と技能を育むことも非常に大事である。また、子育て支援における役割、他のスタッフの業務分担や協力関係も学ぶ。さらに保育士の保護者とのかかわりを観察し、家庭や地域との連携の必要性を学び問題意識をもってほしい。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論 」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、自己課題・保育課題を見つける。

内容

< 保育所保育実習 の主な内容 >

実習施設の概要の理解

保育所保育の実情の理解（保育の流れ等）

乳幼児の発達

保育課程・指導計画の理解

多職種職員の連携によるチームワークの実情

家庭・地域の連携

保育方法と保育技能の理解と習得

安全・危機管理

疾病予防や健康維持を図る配慮

保育士の倫理観などの視点をもち実習に取り組み、学びを深める

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習先の保育所は、基本的に、学生の居住する市区町村の担当部署に大学が依頼をして決める。公立が多いが、一部民間保育所もある。実習依頼にあたって相談がある場合は、指定の期日内に早めに相談をしておくこと。また、実習は原則3 年次の夏季休暇中となる予定であるが、市区町村との調整で別の時期になる場合がある。各自が主体的な意識を持ち、実習プランニング（実習の準備も含めて）を立て、学生生活全体の調整をすること。なお、4年次に保育所保育実習 を選択した

場合は、保育所保育実習 と原則同じ施設での実習となりより発展的学習を目指す。

実習の事前事後指導にあたる「保育実習総論 」との同時履修が望ましい。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、事前指導（主に「保育実習総論 」）の内容をふまえ、実習目標に達成したかについて実習委員会で検討し、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを確認しておく。

乳幼児に対する専門的援助と専門職に関わる基本事項を確認しておく。

【事後学修】実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

実習の手引

<教科書>

阿部・増田・小櫃編 『保育実習』 ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|--------|
| 科目名 | 保育所保育実習 | | |
| 担当教員名 | 向井 美穂、山田 陽子、呂 小耘、権 明愛 他 | | |
| ナンバリング | KAh465 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 選必, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

保育士資格取得のための実習として、必修の「保育所保育実習」「施設実習」のほかに、この「保育所保育実習」か「施設実習」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図るものは「保育所保育実習」、施設（保育所以外）における拡充を希望するならば「施設実習」を履修することとする。「保育所保育実習」「施設実習」「保育実習総論」を履修後に取り組む実習であるため、4年次に履修する。

科目の概要

「保育所保育実習」での実習では、今までの実習や主として「保育所保育実習」の中で探究した自己課題・保育課題と関連づけながら、学びを広げ深めていくことを主たる目的とする。そのため「保育所保育実習」の実習経験と「保育所保育実習」の実習をどうつなげるか、各自でよく考え、2週間の実習内容に関するプランを立てる。また、特定のクラス（原則3歳未満児クラス）で連続して実習を行い、責任実習（または部分責任実習）をおこなう。

学修目標

各自の学びの課題を明らかにした上で実習プランを立て、受け入れ先の施設の実情に合わせ、大学の実習担当と相談して実習を進めていく。保育者としての、自己課題・保育課題を見つけていく。

内容

「保育所保育実習」の経験をふまえ、主として以下の内容に取り組む。

- 保育全般に参加し保育技能を習得する
- 子どもの個人差に応じた援助を理解する
- 多様な保育ニーズに対応した保育の展開を学ぶ
- 指導計画の立案と実践（責任実習）
- 家族や地域社会との連携を学ぶ
- 保育者の倫理について理解する
- 保育への自己課題の明確化
- 保育実習の総括

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習中は実習日誌を毎日担当者に提出し、指導を受ける。責任実習（一日または半日の保育、または部分）の実施にあたっては、指導者の指導・助言のもと指導案を作成し、保育の実践、評価・反省という一連の保育の営みを体験する。「保育実習」で経験できなかったことにチャレンジする意欲をもって臨んでほしい。実習後は、保育日誌に必要な内容を補充して大学に提出し、一連の保育実習での学びを総括する

尚、実習は原則保育所実習と同じ施設で行い、2週間（土曜を含む）とする。大学で指導をうけながら、保育所実習を踏まえ、実習目的と照らし合わせながら行う。その際、実習受け入れの園との調整も視野に入れることとする。また、実習時期は原則4年生の夏季頃、もしくは大学の授業のない期間にておこなうこととする。

毎回「実習の手引」を持参すること

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。また、事前指導及び事後指導への取り組み、必要提出書類の状況等も評価に反映させる。

授業外学習

【事前予習】[保育所保育実習]の内容を振り返り、自己課題を明確にしておくこと。積極的に学びを深める意欲を持つこと。

【事後学修】自己課題の振り返りと更なる課題を明確にすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に指示を行う

【参考図書】「保育実習総論 」で指定する教科書

最新保育資料集2017（2015及び2016でも可） ミネルヴァ書房

改訂版 保育所保育指針 厚生労働省編

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|----------|
| 科目名 | 施設実習 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美、山田 陽子、呂 小耘、向井 美穂 他 | | |
| ナンバリング | KAh366 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。保育士資格取得のための必修科目であり、「保育所実習」とともに必ず履修しなければならない（その他「保育実習総論」も資格取得上の必修履修である。さらに4年次に「保育所保育実習」もしくは「施設実習」を選択履修すること）。本科目の履修にあたって「実習の手引き」を参照すること。

科目の概要 3年次に保育所を除く児童福祉施設、障害者支援施設等で、11日～12日間（実実習時間90時間）の実習を行う。宿泊実習が原則となっている。施設における支援を行う保育士として必要な資質を、実践を通して体験的に学び、養う。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、以下の4点を本実習の目的とし、自己課題に取り組む。

- 1 施設実習園の理解を踏まえて、児童や利用者の方と共に生活し実習することにより、児童福祉施設・社会福祉施設の役割や社会的意義を体験的に理解する。
- 2 施設内で取り組まれている日常生活に関わる援助技術等を実践によって具体的に学ぶ。
- 3 施設を利用している児童や利用者と関係を形成し、適切な関わりを実践によって学ぶ。
- 4 施設で働く保育士の職務や役割、他職種との連携を具体的に理解し、指導を受けながら実践する。

内容

「実習の手引き」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

「事前指導 配属先の発表 実習施設の事前報告書作成 オリエンテーション報告書の提出 実習開始 巡回指導を受ける 事後指導（学内反省会） 個別指導（評価表にそって）」の流れにのっとって進める。

実習の事前事後指導を行う「保育実習総論」との同時履修が望ましい。

< 学内での事前指導 >

施設実習は施設の種類が多様で、実習時期の幅も広いため、全体指導の他にグループ指導および個別指導を行い、実習に向けての心構えをし、準備を行う。主として「保育実習総論」の授業内で行う。加えてそれ以外の時間を設定することもある。

< 施設での実習内容 >

主な実習内容は次の2点。その他については施設の種類や対象年齢、施設実習園の方針等によって異なる。

日常生活全般の流れに沿って環境を整え、集団生活の中での基本的な生活習慣や社会性を個々に応じた計画に基づいて支援する。

食事、排泄、入浴、着脱衣の生活処理能力としてのADL(日常生活動作)の自立を支援し、必要な援助を行う。

・実習後、日誌を書くことによって保育体験の中身を自分自身で振り返ることと、実習指導者から反省会等の場で直接指導を受けたり、日誌への講評を頂いたりする過程で、日々の実習での学びを積み重ねていく。

< 学内での事後指導 >

実習全般を振り返り、グループ指導の中で各自が自分の実習を振り返りつつ互いの経験を共有して、これからの保育の学び

の糧にする。必要に応じて個別指導も行う。

評価

大学指定の評価表に基づいて実習先からの評価を受けることに加えて、事前指導（主に「保育実習総論」）、日誌の内容を踏まえて、実習目標に達成したかについて実習委員会で検討し、大学で総合的な評価への読み替えを行う。学生へのフィードバックは、保育実習総論の授業時間内並びに必要なに応じて設定する個別面談等にて実習先からの評価、実習担当教員からの評価等について伝えることとする。

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた保育士資格取得に関わる学びを確認する。施設、施設利用児・者、専門的援助と専門職に関わる基本事項等を学習し、実習先調べのレポート、実習計画等を作成する。

【事後学修】実習中は毎日実習終了後、実習日誌の記録を行う。実習期間終了後には実習全体の振り返りを記録する。その他提出課題等に取り組み、実習の成果と課題を明確にする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編 最新保育講座 13 『保育実習』 ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|--------|
| 科目名 | 施設実習 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子、山田 陽子、呂 小耘、向井 美穂 他 | | |
| ナンバリング | KAh466 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 選必, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。保育士資格を取得するためには、必修の実習である「保育所実習」、「施設実習」に加えて、「保育所保育実習」あるいは「施設実習」のいずれか 1 つを履修する必要がある。原則として、施設（保育所以外）における拡充を図る場合は「施設実習」となる。実習の事前事後指導にあたる「保育実習総論」との同時履修が望ましい。本科目の履修にあたって「実習の手引き」を参照すること。

科目の概要

施設実習は、将来保育所以外の児童福祉施設における保育士を目指す学生が主に選択する実習として位置づけており、「施設実習」で行った保育所以外の児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標としている。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、本実習の目的に向けた実習計画を立てて臨む。実習を通して、生活を共にすることで自身の保育観を見つめなおし、支援対象者のニーズを捉えた援助の実践を目指す。また、「施設実習」で経験できなかった生活援助計画、個別援助、集団援助の計画案を責任実習に取り入れる等積極的に実習に取り組むことを求めたい。

内容

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習先を自己開拓することが求められる。実習配属にあたっては、受け入れ先との交渉、その他の実習スケジュールとの関係も考慮する必要がある。宿泊型および通所型の福祉施設が対象となる。

実習先を自己開拓するにあたっては、以下 5 点について整理した上で検討することが必要である。

施設の成り立ち、時代背景、社会的ニーズなど施設を取り巻く環境変化などを理解する

子どもの入所経路や入所理由など、社会的背景を十分に事前学習し施設の果たしている役割、機能を理解する

実習施設の生活環境などを理解する

子どもたちや障害のある人々の家族はどのような思いや願いを持って施設を利用しているのかを理解する

施設で生活している人々の抱える問題、それが社会的にどのような状況から生じているのかを理解する

また、施設保育士に求められる要素の一つとしてソーシャルワーク的援助が挙げられる。施設における生活場面での直接援助および家族に対する援助といった視点についても学びを深めていくこと。さらには実習先によっては障害に関する専門的知識を有していることが必要とされる。よって、実習先に応じた具体的実習計画を立てて実習に臨むことが求められる。

実習では、「施設実習」で経験できなかった生活援助計画、個別援助（ケースワーク）、集団援助（グループワーク）計画案を責任実習に取り入れる等積極的に実習に取り組むことが求められる。また生活を共にすることで自身の保育観を見つめなおし、さらには実践的な援助が出来るように取り組むことが臨まれる。

実習終了後の日誌においては自身の保育観や社会的養護、障害に対する見方等についても振り返ることが求められる。

評価

大学指定の評価表に基づいて実習先からの評価を受けることに加えて、事前指導（主に「保育実習総論」）、実習日誌の内容を踏まえて、実習目標に達成したかについて実習委員会で検討し、大学で総合的な評価への読み替えを行う。〔フィードバック〕基本的に保育実習総論の個別面談等にて、実習評価、実習担当教員からの評価等について伝え、自己成長と自己課題の支援を行う。

授業外学習

【事前予習】既習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを確認しておく。施設、施設利用児・者、専門的援助と専門職に関わる基本事項を確認しておく。1時間半程度行う。

【事後学修】実習中は実習日誌を作成し、実践を振り返る。実習後は、実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。1時間半程度行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕履修時の「保育実習総論」で指定した教科書

〔参考書〕最新保育資料集2019 ミネルヴァ書房

その他、実習先に応じて適宜個別に指示をする

| | | | |
|---------|---------------------------|---------|--------|
| 科目名 | 保育インターンシップ | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子、山田 陽子、呂 小耘、向井 美穂 他 | | |
| ナンバリング | KAh567 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 3 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 選必, 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

学科専門科目である。免許・資格習得にかかわらない学生の自発的な選択による幼稚園、保育所などの児童福祉施設、その他における実習の科目であり、学生の主体的な取り組みが期待される。明確な実習課題を持っている場合に履修を認める。学科が実習先とのインターンシップの取り決めを結んだ上で、保育者としての責任とチームの一員としての自覚をもって実践に臨む。希望者は、履修登録前に、実習課題および実習計画書を担当教員に提出し、事前の相談を行った上で履修登録を行う。

3 年次および4 年次の前期オリエンテーション時に履修希望調査を行うほか、個別相談も受け付ける。時間をかけて準備をして意欲を持ってインターンシップとしての保育実践に臨んでもらいたい。

科目の概要

保育実践を必要とする発達研究、保育方法・保育内容に関する研究、保育者となるための保育実践力の向上などを目的とするインターンシップとしての性格を持つ実習である。現場指導者と科目担当者から指導を受けながら、1年間または一定期間の現場実習と実践記録の作成、それに基づく省察を深める。

学修目標

- ・受講生自身が設定した目標への到達を目指す。
- ・発展的な課題を設定して、保育における研究的視点の獲得を目指す。

内容

実習にあたっては、実習担当者に実習課題および実習計画の概要レポートを提出する。実習中は実習日誌を毎日実習先に提出し、実習後は、実習前に提出したレポートをもとに考察レポートを作成し、実習先と大学双方に提出する。

実習先は、実習目的に合う実習先を担当教員と相談のうえで決めることとするが、目的によっては出身地の園や施設などを自己開拓することもすすめる。

実習方法および実習時期は、授業に支障のないように実習生と実習先との話し合いによって決め、実習目的、実習先の状況等により、次のいずれかの方法をとることができることとする。

毎週1 日実習 (12 日程度) の実習

2 週間継続実習

1 週間ずつの分割実習

および の組み合わせ

インターンシップとしての性格ももつ実習であり、実習担当教員と現場での実習指導担当者が連携して指導に当たり、実習生と三者での話し合いを通して、実習課題の探求および保育実践力向上に資する実習となることを目指す。

評価

実習先からのコメント、および提出されたレポートと実習日誌、学内での実習指導参加状況とし、総合評価60点以上を合格とする。

実習記録（日誌）を確認し、講評を記入して返却し、その内容に基づく指導を行う。

授業外学習

【事前予習】1～2時間。実習先の種別および特性の理解をすすめ、実習計画の作成を行う。

【事後学修】1～2時間。実習後の自己課題を明確にし、その改善向上に取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各実習によって異なるので、受講生と相談して決める。

| | | | |
|---------|---------------------------|---------|----------|
| 科目名 | 保育・教職実践演習 | | |
| 担当教員名 | 権 明愛、上垣内 伸子、長田 瑞恵、横井 紘子 他 | | |
| ナンバリング | KAj568 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | |
| 開 講 期 | 後期 | 必修・選択の別 | 必修* , 選択 |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 2 |
| 資 格 関 係 | 保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。この科目は幼児教育学科の専門科目であり、保育士・幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。保育実習・教育実習を含め、教職にかかわるすべての科目を履修後、4年次後期に履修することが求められている。

科目の概要

保育者（幼稚園教諭、保育士）を目指す「学びの軌跡の集大成」として、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、幼児教育・保育を担っていくために必要な演習を行う。授業は 使命感や責任感、教育的愛情、倫理等に関する事項 社会性や対人関係能力に関する事項 子どもやその家庭の理解や学級経営、職員間の連携、関連機関との連携に関する事項 保育内容等の指導力や子育て家庭に対する支援の展開に関する事項で構成される。 保育の今日的課題に関する講義 「ロールプレイング」：様々な役割を取り入れることで対象を理解する。「事例研究」：ある特定の保育テーマに関する実践事例を検討する 「現地調査」：現職保育者を招いて講和を聞いたり、保育現場等に出向き調査活動や情報の収集を行う、など多様な方法で学習する。

学修目標（=到達目標）

保育者を目指す者として保育実践上の自己課題を明確化する。自己課題に対してどのように取り組んでいくかを計画する。必要な演習を通じて課題となっている知識・技能等を獲得する。

内容

| | |
|----|--|
| 1 | ガイダンス：この科目についての説明、履修履歴の把握、自身の学びの振り返り 【権、向】 |
| 2 | 講義：子どもの疾病について（仮） 【齋藤麗子(健康管理センター)】 |
| 3 | 講義（外部講師）：幼保小連携について（仮） 【宮里暁美(認定こども園)】 |
| 4 | 講義（外部講師）：小児栄養について（仮） 【徳野裕子(健康栄養学科)】 |
| 5 | 現地調査のための準備 【潮谷、横井、桶田】 |
| 6 | 現地調査の実施 【潮谷、横井、桶田】 |
| 7 | 現地調査のまとめと発表・討論 【潮谷、横井】 |
| 8 | テーマを選択7グループ別模擬授業、ロールプレイ、事例検討【加、鈴晴、宮、藪、渡、近、曾】 |
| 9 | テーマを選択7グループ別模擬授業、ロールプレイ、事例検討【加、鈴晴、宮、藪、渡、近、曾】 |
| 10 | テーマを選択7グループ別模擬授業、ロールプレイ、事例検討【加、鈴晴、宮、藪、渡、近、曾】 |
| 11 | テーマを選択7グループ別模擬授業、ロールプレイ、事例検討【上、川、鈴康、長、山、名、二】 |
| 12 | テーマを選択7グループ別模擬授業、ロールプレイ、事例検討【上、川、鈴康、長、山、名、二】 |
| 13 | テーマを選択7グループ別模擬授業、ロールプレイ、事例検討【上、川、鈴康、長、山、名、二】 |
| 14 | グループ学習 についての学習成果の報告と討論 【権、向】 |
| 15 | まとめ【権、向】 |

評価

授業への積極的参加（20%）、グループ活動への取り組み姿勢とプレゼンテーション内容（20%）、参加活動による作成資料の提出（30%）、期末レポート（30%）により評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分自身の課題に即して、60分前後の時間を利用して今まで学んだ保育と教職にかかわる座学の内容をもう一度振りかえりながら授業の事前予習をして置く。

【事後学修】60分以上の時間を利用して、授業の配布資料や自分自身が書いた課題をファイルに整理し、読み返す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

特に定めない。授業時に、必要に応じて紹介する。他にプリントを配布する。

【推薦書】

授業時に、必要に応じて紹介する。

【参考図書】

授業時に、必要に応じて紹介する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Bクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果 (エビデンス) に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ指導及び個別指導を通して、以下の力を身につける。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる
- ・仲間とのディスカッション、共同での学びを通して、自らの考えを深める

論文の提出締切は2020年1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する。

評価

論文の成果 (50%)、論文作成にあたっての取り組み (30%)、卒業研究発表会への参加及び発表 (20%) をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジュメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5~10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5~10時間程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 向井 美穂 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Dクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。幼児教育学科の学位授与方針の1,2,3に該当する。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・ 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・ 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・ 研究成果について論理的に記述し、プレゼンテーションすることができる。

内容

今までの学びを踏まえ、各自自分自身の問を立て、その問題意識をもとにした研究テーマを見出す。その研究テーマを履修生全員で共有し、互いの研究に対する意見を交換をしながら、学問としての学びを深める。自分自身の視点を相対化し、物事の本質を見抜く力を熟成させることを目指す。

卒業研究を進めるに際して、教員及び他の履修生と協力する事が不可欠である。グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、大学4年間の学びの集大成として卒業研究をまとめることを目指す。

大まかな流れは

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

となる。

年間計画を立て、論文の提出締め切りまでに完成するよう取り組む。提出は平成31年1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。研究発表会では、ゼミの学生、及び幼児教育学科全学生と協力しながら行う。自分の取り組んだ研究について簡潔にまた社会に還元できる形で発表することが重要である。

評価

論文の成果（70%）だけでなく、プロセス（30%）も重視する。意欲及び探求心を持って取り組めたか、幅広い視野を持つよう努めたか等、各自が卒業研究を進めていく姿勢についても重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加と発表をもって評価し、全体として60点以上に達した場合に単位認定となる。

授業外学習

【事前予習】各自のテーマに必要な文献や論文を自ら探して熟読する。論文作成に関する計画を立て、各自の責任において

書き進める。【事後学修】授業内での教員や仲間からのアドバイスや意見を参考にして自分のその時々^の論文内容を再考する。事前・事後学習とも相当時間数を要する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書^の紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Eクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：幼児教育学科学位授与方針の1．2．3．に対応する科目である。大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

科目の概要：自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、1年という長い時間を使って自発的に調査・研究を行う。

学修目標：

- ・課題探求能力を養う
- ・調査・研究方法を身に付ける
- ・論文執筆の技術を高める
- ・他者への説明能力を磨く

内容

各自の問題意識に対応し、各回の授業ごとに個別に学習内容を検討し、次回までに進めておく課題を指示する。

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは平成31年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

各学生の疑問点やテーマに応じた進め方については、個別に指導を行うことでその都度フィードバックを行う。

授業外学習

【事前予習】教員の指示に従い、各回の授業までに出された課題を行うこと。約3時間。

【事後学修】授業内容を復習し、研究を進めるために出された課題を行うこと。約3時間。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 横井 紘子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Gクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。幼児教育学科の学位授与方針の1・2・3に該当する。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

ゼミ単位での指導・個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見つける
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データを収集し、整理し、考察を進める
- ・論文にまとめる

論文の提出締め切りは当該年度1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表することまでで単位が認められる。

評価

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

論文の内容50%、授業（ゼミ）・発表会への参加度50% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。（各授業に対して60分以上）

【事後学修】指導教官の指導のもと、レジュメ作成、データ整理、論文作成などを行う。（各授業に対して60分以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書の紹介・資料の配布を個別に行う。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Hクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。幼児教育学科の学位授与方針の1.2.3に該当する。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

1. 先行研究レビューを行うことができる。
2. 研究テーマ研究目的に応じた適切な研究方法を選択し、結果を導きだすことができる。
3. 結果 (エビデンス) に基づく分析と考察を行うことができる。
4. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

ゼミ単位での指導に加えて、授業時間外での個別の指導を行う。受講学生との積極的なディスカッションと共同した学びを通して深めていく。

- ・研究テーマを見出すために、先行研究レビューを重ねる。原則学術論文のレビューを中心に講読しながら、指導教員の指導のもとにテーマ設定する。
- ・研究テーマに関する先行研究レビューをし、プレゼンテーションを行うことで、質疑応答を通してさらに深化させていく。
- ・研究アウトラインを立てていく。方法は教科書を熟読の上、自らが主体的に取り組む。
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探究する。
- ・研究結果を収集し、整理し、考察を進める。
- ・論文をまとめていく。

論文及び研究要旨の提出締め切りは当該年度1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表することまでで単位が認められる。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。論文及び研究要旨の所定期日を遵守した提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。評価の内訳としては、論文の成果50%、作成にあたっての取り組み40%、発表10%などから総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】各自の進捗に応じて毎回口頭指導を行うとともに、論文の添削を行う。

授業外学習

【事前予習】各自の研究テーマに関する文献を集め、先行研究のレビューを行う。（各授業に対して2時間半程度）

【事後学修】指導教員の指導を受けた、研究アウトアウトラインの見直しと、データ整理、文献取り寄せなどを行う。（各授業に対して1時間半程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】新版 論文の教室 レポートから卒論まで (NHKブックス No.1194) 戸田山 和久 (著)、さらに、各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 山田 陽子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Jクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

この授業はグループワーク、個別指導を組み合わせながら、各自の研究をすすめていく。

1. 研究テーマを見つける
2. 研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
3. 自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データを収集し、整理し、考察を進める
4. 論文にまとめる

論文の提出締め切りは平成31年1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について、パワーポイントを活用するなどして発表する。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。（各授業に対して120分以上）

【事後学修】指導教官の指導のもと、レジュメ作成、データ整理、論文作成などを行う。（各授業に対して60分以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書の紹介・資料の配布を個別に行う。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 潮谷 恵美 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Kクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は幼児教育学科の学位授与方針3．に該当する。大学における幼児教育の学びの総まとめとしての科目である。

自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

テーマとじっくりつきあう中で、感受性と思考力、表現力、自ら課題を探求する意欲とその基礎となる知識・技能を総合的に培うことをねらいとする。

内容

本科目ではグループ形式のゼミあるいは個別の指導を受けて、

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、事例またはデータを集め、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

という過程を進め、卒業研究論文執筆を行う。

論文の締切は2020年1月上旬の予定となる。論文提出後、学科教員、学生に対する研究発表会を行う。

毎週の授業では、学生個々の研究課題に従って先行研究の確認や研究テーマに関する検討成果の発表、討議を行うことによって、研究論文の完成を目指す。

評価

論文の成果50% 作成にあたっての取り組み40%、 発表10%などから総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】研究テーマに応じ、先行研究および関連文献の収集、内容理解に取り組む。論文作成にあたって必要な研究方法、論文執筆の方法等を確認。授業時間ごとの課題に2時間以上の予習が必要。

【事後学修】授業内で指示された論文・文献を読み、整理、分析を行うこと。指導内容をふまえ、計画的な論文作成に努めること。概ね各回の授業終了後、論文作成に関わる2時間以上の取り組みが必要。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 康弘 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Lクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目であり、学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当する。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・ 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・ 結果 (エビデンス) に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・ 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成32年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

授業外学習

【事前予習】論文作成に向けた資料整理及び論文の執筆

【事後学修】指摘を受けた箇所の再考と修正

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各自が進める研究テーマに応じた参考論文や資料を紹介する

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 宮野 周 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Mクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児教育学科の学位授与方針3に該当する。

科目の性格

本科目は、幼児教育専攻の教育課程における必修科目である。学科内の指導の下、ゼミ担当教員を決定する。本科目は2年次の「造形発達と表現」、3年次の「造形保育論」の授業内容と関連している。

科目の概要

卒業研究は大学における学びの総まとめである。作成にあたって、自らの興味と関心によって自主的にテーマを設定し、指導教員の指導・援助を得ながら探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ提出し、発表を行う。授業としては、論文購読や方法論について他の学生とともに議論し共同的に学ぶ内容と、個々の調査方法・進捗状況に応じた個別指導による内容を実施する。

学修目標

1. 幼児教育・保育や研究方法に関する基本的知識を理解した上でさらに発展的に考え、探究する研究的態度を養うこと
 2. 調査の実施にあたって必要な社会性を養い、社会や地域への貢献について理解すること
 3. 学生同士の議論や質疑応答を経験し、自らの考えを言葉にする力を養うこと
 4. 卒業研究の執筆と発表を通して、第三者にわかりやすく伝える技法を理解すること
- を目標とする。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる
- ・ プレゼンテーションの技法を学ぶ
- ・ 研究発表をおこなう

論文の締め切りは例年1月10日頃の予定。日程や様式等の詳細は随時通知する。

論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。必要に応じて授業時間以外についても論文作成における指導・振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】大学における学びの総まとめであることをふまえ、研究を行う上での自己課題・テーマの探究、必要な書籍・論文の下調べを各自でおこなってほしい。（各授業に対して120分）

【事後学修】ゼミで指導を受けたことをふまえて、研究を進めるための準備を各自で進めてほしい。（各授業に対して120分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Nクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当する。

本科目は、保育者養成課程における専門科目の中で「総合」に区分される科目で、幼児教育学科卒業必修科目である。履修者はそれぞれの興味、関心にしながらテーマを設定し、時間をかけて考察を深め、卒業論文を仕上げる。その過程でそれまでの学びを整理し学びを深めることができる。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・ 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・ 結果 (エビデンス) に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・ 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

卒業論文の締め切りは2020年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、卒業論文提出後、卒業研究発表会をおこなう。

評価

授業への取り組み (50%)、卒業論文 (30%)、卒業研究発表 (20%)

卒業論文提出と卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

【フィードバック】卒業論文作成のために提出された原稿などは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた学習を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込み、内容をまとめる。(各授業60分)

【事後学修】指導をうけたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度、専門書や論文にあたり、調べなおして考察を行う。(各授業60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 川喜田 昌代 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Pクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針3に該当する。卒業必修科目である。

カリキュラム・ポリシーでは、子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、その分野に関する専門的な知識を活用しながら、各自が問題意識をもって発展的学習に取り組む科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。

結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。

研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成31年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出（60%）と、卒業研究発表会への参加および発表（40%）をもって単位認定し評価をする。なお、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自身のテーマにそって計画的に文献調査等を行うこと

【事後学修】授業を通して得た次の課題を理解、整理し研究を継続して進めること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 加藤 則子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Rクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に対応する
幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する。
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる。
- ・論文にまとめる。

論文の締め切りは、2020年1月上旬の予定。

*日程の詳細は4月に通知する。

また、論文提出後は、研究発表会を行う。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

授業外学習

【事前準備】ゼミ授業までに進めておくべきことを実践し、ゼミ授業でどのようなアドバイスを受けたかについても要点を確認しておく。（各授業に対して120分）

【事後学修】ゼミ授業で確認した点に従って作業を進める。（各授業に対し120分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 権 明愛 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Sクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1．2．3に該当する。

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは平成32年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】卒業論文のテーマに即して、文献を調べたり、文献を踏まえてレジюмеを作成したりしながら事前準備を行う。毎回のゼミ指導の前に少なくとも60分以上の事前学習を求める。

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度調べなおしてレジюмеを作成する。各授業後60分以上の学習を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

履修者の選定した研究テーマに応じて参考図書を紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 渡邊 孝枝 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Qクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目であり、学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当する。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・ 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・ 結果 (エビデンス) に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・ 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成31年1 月上旬の予定。詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

【フィードバック】卒業論文までの提出の過程で、その都度執筆中の論文を読み、修正に返却する。

授業外学習

【事前予習】これまで修得してきた学修を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込む。(180分程度)

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度調べなおして考察を行う。(180分程度)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

履修者の選定した研究テーマに応じて参考図書の紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 上垣内 伸子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Bクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1, 2, 3に該当する。

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ指導及び個別指導を通して、以下の力を身につける。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる
- ・仲間とのディスカッション、共同での学びを通して、自らの考えを深める

論文の提出締切は2020年1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する。

評価

論文の成果、論文作成にあたっての取り組み、卒業研究発表会への参加及び発表をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。毎回の指導に向けてレジュメを作成する。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、学びを深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 向井 美穂 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Dクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。幼児教育学科の学位授与方針の1,2,3に該当する。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・ 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・ 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・ 研究成果について論理的に記述し、プレゼンテーションすることができる。

内容

今までの学びを踏まえ、各自自分自身の問を立て、その問題意識をもとにした研究テーマを見出す。その研究テーマを履修生全員で共有し、互いの研究に対する意見を交換をしながら、学問としての学びを深める。自分自身の視点を相対化し、物事の本質を見抜く力を熟成させることを目指す。

卒業研究を進めるに際して、教員及び他の履修生と協力する事が不可欠である。グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、大学4年間の学びの集大成として卒業研究をまとめることを目指す。

大まかな流れは

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

となる。

年間計画を立て、論文の提出締め切りまでに完成するよう取り組む。提出は平成31年1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。研究発表会では、ゼミの学生、及び幼児教育学科全学生と協力しながら行う。自分の取り組んだ研究について簡潔にまた社会に還元できる形で発表することが重要である。

評価

論文の成果（70%）だけでなく、プロセス（30%）も重視する。意欲及び探求心を持って取り組めたか、幅広い視野を持つよう努めたか等、各自が卒業研究を進めていく姿勢についても重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加と発表をもって評価し、全体として60点以上に達した場合に単位認定となる。

授業外学習

【事前予習】各自のテーマに必要な文献や論文を自ら探して熟読する。論文作成に関する計画を立て、各自の責任において

書き進める。【事後学修】授業内での教員や仲間からのアドバイスや意見を参考にして自分のその時々^の論文内容を再考する。事前・事後学習とも相当時間数を要する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書^の紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 長田 瑞恵 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Eクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：幼児教育学科学位授与方針の1．2．3．に対応する科目である。大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

科目の概要：自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、1年という長い時間を使って自発的に調査・研究を行う。

学修目標：

- ・課題探求能力を養う
- ・調査・研究方法を身に付ける
- ・論文執筆の技術を高める
- ・他者への説明能力を磨く

内容

各自の問題意識に対応し、各回の授業ごとに個別に学習内容を検討し、次回までに進めておく課題を指示する。

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは平成31年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

各学生の疑問点やテーマに応じた進め方については、個別に指導を行うことでその都度フィードバックを行う。

授業外学習

【事前予習】教員の指示に従い、各回の授業までに出された課題を行うこと。約3時間。

【事後学修】授業内容を復習し、研究を進めるために出された課題を行うこと。約3時間。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 晴子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Hクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。幼児教育学科の学位授与方針の1.2.3に該当する。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

1. 先行研究レビューを行うことができる。
2. 研究テーマ研究目的に応じた適切な研究方法を選択し、結果を導きだすことができる。
3. 結果 (エビデンス) に基づく分析と考察を行うことができる。
4. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

ゼミ単位での指導に加えて、授業時間外での個別の指導を行う。受講学生との積極的なディスカッションと共同した学びを通して深めていく。

- ・研究テーマを見出すために、先行研究レビューを重ねる。原則学術論文のレビューを中心に講読しながら、指導教員の指導のもとにテーマ設定する。
- ・研究テーマに関する先行研究レビューをし、プレゼンテーションを行うことで、質疑応答を通してさらに深化させていく。
- ・研究アウトラインを立てていく。方法は教科書を熟読の上、自らが主体的に取り組む。
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探究する。
- ・研究結果を収集し、整理し、考察を進める。
- ・論文をまとめていく。

論文及び研究要旨の提出締め切りは当該年度1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表することまでで単位が認められる。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。論文及び研究要旨の所定期日を遵守した提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。評価の内訳としては、論文の成果50%、作成にあたっての取り組み40%、発表10%などから総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】各自の進捗に応じて毎回口頭指導を行うとともに、論文の添削を行う。

授業外学習

【事前予習】各自の研究テーマに関する文献を集め、先行研究のレビューを行う。（各授業に対して2時間半程度）

【事後学修】指導教員の指導を受けた、研究アウトアウトラインの見直しと、データ整理、文献取り寄せなどを行う。（各授業に対して1時間半程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】新版 論文の教室 レポートから卒論まで (NHKブックス No.1194) 戸田山 和久 (著)、さらに、各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 山田 陽子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Jクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

この授業はグループワーク、個別指導を組み合わせながら、各自の研究をすすめていく。

1. 研究テーマを見つける
2. 研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
3. 自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データを収集し、整理し、考察を進める
4. 論文にまとめる

論文の提出締め切りは平成31年1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について、パワーポイントを活用するなどして発表する。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。（各授業に対して120分以上）

【事後学修】指導教官の指導のもと、レジュメ作成、データ整理、論文作成などを行う。（各授業に対して60分以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書の紹介・資料の配布を個別に行う。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 鈴木 康弘 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Lクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目であり、学位授与方針1，2，3に該当する。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは平成32年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

授業外学習

【事前予習】論文作成に向けた資料整理及び論文の執筆

【事後学修】指摘を受けた箇所の再考と修正

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自が進める研究テーマに応じた参考論文や資料を紹介する

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 藪崎 伸一郎 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Nクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当する。

本科目は、保育者養成課程における専門科目の中で「総合」に区分される科目で、幼児教育学科卒業必修科目である。履修者はそれぞれの興味、関心にしながらテーマを設定し、時間をかけて考察を深め、卒業論文を仕上げる。その過程でそれまでの学びを整理し学びを深めることができる。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・ 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・ 結果 (エビデンス) に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・ 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

卒業論文の締め切りは2020年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、卒業論文提出後、卒業研究発表会をおこなう。

評価

授業への取り組み (50%)、卒業論文 (30%)、卒業研究発表 (20%)

卒業論文提出と卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

【フィードバック】卒業論文作成のために提出された原稿などは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた学習を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込み、内容をまとめる。(各授業60分)

【事後学修】指導をうけたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度、専門書や論文にあたり、調べなおして考察を行う。(各授業60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 権 明愛 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Sクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1．2．3に該当する。

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは平成32年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文の提出後は、研究発表を行う。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】卒業論文のテーマに即して、文献を調べたり、文献を踏まえてレジюмеを作成したりしながら事前準備を行う。毎回のゼミ指導の前に少なくとも60分以上の事前学習を求める。

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度調べなおしてレジюмеを作成する。各授業後60分以上の学習を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 【推薦書】 【参考図書】

履修者の選定した研究テーマに応じて参考図書の紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 横井 紘子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Gクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。幼児教育学科の学位授与方針の1・2・3に該当する。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

ゼミ単位での指導・個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見つける
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データを収集し、整理し、考察を進める
- ・論文にまとめる

論文の提出締め切りは当該年度1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表することまでで単位が認められる。

評価

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

論文の内容50%、授業（ゼミ）・発表会への参加度50% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。（各授業に対して60分以上）

【事後学修】指導教官の指導のもと、レジュメ作成、データ整理、論文作成などを行う。（各授業に対して60分以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書を紹介・資料の配布を個別に行う。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 名達 英詔 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Tクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1．2．3に該当する。

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

学修目標

自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につけることをねらいとする。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる
- ・ プレゼンテーションの技法を学ぶ
- ・ 研究発表をおこなう

論文の締め切りは例年1月上旬の予定。

論文提出後、研究発表会を行う。

評価

論文の成果、研究のプロセス、論文の提出、卒業研究発表会の参加および発表をもって総合的に評価する。

【フィードバック】授業中、前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

授業外学習

【事前予習】研究を行う上での自己課題・テーマの探究、必要な書籍・論文のまとめ、データ収集等を各自でおこなう。

【事後学修】ゼミでの指導をふまえて研究を進め、論文を作成する。また、研究発表後のふりかえりを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Uクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。本科目は幼児教育学科の学位授与方針1,2,3に該当する。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ指導及び個別指導を通して、以下の力を身につける。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる
- ・仲間とのディスカッション、共同での学びを通して、自らの考えを深める

論文の提出締切は2020年1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

【フィードバック】個々のテーマに沿ってまとめたものをその都度添削し返却する。

授業外学習

【事前準備】各自の研究課題に従って文献研究、フィールド研究等を行う。（3～4時間）

【事後学修】各自の研究課題に従い自身の研究を深める。授業で学んだことを整理し理解を深め、論文としてまとめる。（3～4時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】 各自のテーマに従い指示する。

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 川喜田 昌代 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Pクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針3に該当する。卒業必修科目である。

カリキュラム・ポリシーでは、子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、その分野に関する専門的な知識を活用しながら、各自が問題意識をもって発展的学習に取り組む科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。

結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。

研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成31年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出（60%）と、卒業研究発表会への参加および発表（40%）をもって単位認定し評価をする。なお、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自身のテーマにそって計画的に文献調査等を行うこと

【事後学修】授業を通して得た次の課題を理解、整理し研究を継続して進めること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 近藤 有紀子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 1Wクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1,2,3に該当する。

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ指導及び個別指導を通して、以下の力を身につける。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる
- ・仲間とのディスカッションを通して、個々の考察を磨きなおし、深める。

論文の提出締切は平成32年1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について、パワーポイントで発表する。

評価

論文の成果だけでなく、論文作成にあたっての取り組みも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題等は、コメントを記載し、適宜返却する。

授業外学習

【事前準備】各自の研究を進めるうえで、テーマの探究、先行研究のまとめ、書籍等のまとめ、データ収集などを行う。(毎回の講義に対して60分以上)

【事後学修】ゼミでのディスカッションや指導を踏まえて再考し、レジюме作成やデータ整理をし、論文を作成する。（毎回の講義に対して60分以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自の研究テーマに応じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

【参考図書】保育用語辞典第8版（2015）森上史朗 柏女霊峰編 ミネルヴァ書房

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 渡邊 孝枝 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA） | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Qクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目であり、学位授与方針1，2，3に該当する。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは2019年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

【フィードバック】卒業論文までの提出の過程で、その都度執筆中の論文を読み、修正し返却する。

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた学習を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込む

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて再度調べなおして考察を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 二宮 紀子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Uクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。本科目は幼児教育学科の学位授与方針1,2,3に該当する。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ指導及び個別指導を通して、以下の力を身につける。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる
- ・仲間とのディスカッション、共同での学びを通して、自らの考えを深める

論文の提出締切は2020年1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

【フィードバック】個々のテーマに沿ってまとめたものをその都度添削し返却する。

授業外学習

【事前準備】各自の研究課題に従って文献研究、フィールド研究等を行う。（3～4時間）

【事後学修】各自の研究課題に従い自身の研究を深める。授業で学んだことを整理し理解を深め、論文としてまとめる。（3～4時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】各自のテーマに従い指示する。

| | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------|
| 科目名 | 卒業研究 | | |
| 担当教員名 | 近藤 有紀子 | | |
| ナンバリング | KAj569 | | |
| 学 科 | 人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA) | | |
| 学 年 | 4 | ク ラ ス | 2Wクラス |
| 開 講 期 | 通年 | 必修・選択の別 | 必修* |
| 授 業 形 態 | | 単 位 数 | 4 |
| 資 格 関 係 | | | |

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針の1,2,3に該当する。

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ指導及び個別指導を通して、以下の力を身につける。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる
- ・仲間とのディスカッションを通して、個々の考察を磨きなおし、深める。

論文の提出締切は平成32年1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について、パワーポイントで発表する。

評価

論文の成果だけでなく、論文作成にあたっての取り組みも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題等は、コメントを記載し、適宜返却する。

授業外学習

【事前準備】各自の研究を進めるうえで、テーマの探究、先行研究のまとめ、書籍等のまとめ、データ収集などを行う。（毎回の講義に対して60分以上）

【事後学修】ゼミでのディスカッションや指導を踏まえて再考し、レジюме作成やデータ整理をし、論文を作成する。（毎回の講義に対して60分以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自の研究テーマに応じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

【参考図書】保育用語辞典第8版（2015）森上史朗 柏女霊峰編 ミネルヴァ書房